岩手大学グローバル教育センター・
国際連携室報告 vol.4（2018）

岩手大学グローバル教育センター・国際連携室

2019 年　8月

目次

—グローバル教育センター業務報告—.....5

—教育業務報告—.....6

日本語教育.....7

地域日本語教育支援事業報告.....13

夏期休暇補講および課外日本語学習支援報告.....18

教養教育科目・全学共通教育科目.....21

日本事情 A・B、多文化コミュニケーション A・B
現代の諸問題（教育とグローバル化）、初年時ゼミナール（トビタテ！岩大生）、現代の諸問題（英語討論入門）、地域と国際社会、
英語で学ぶ日本文化（いけばな B）

国際研修 SCIP：北欧（エネルギーと持続可能な社会）.....26

国際研修 SCIP：フィリピン （貧困と持続可能な社会）.....29

国際研修 SCIP：イタリア （アートと持続可能な社会）.....34

国際研修 SCIP：インドネシア（世界遺産と持続可能な社会）.....37

国際研修 SCIP：台湾 （経済交流と持続可能な社会）.....40

国際教育科目.....43

国際協力・開発援助論、国際講義(Global Studies)、Iwate Studies A/B
Japanese Traditional Culture A （いけばな A）
グローバリゼーションと世界、多文化社会論

短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究報告.....47

北東北国立3大学＋東北大学合同合宿研修.....51

デ・ラ・サール大学（フィリピン）英語研修.....55

ヤングリーダーズ国際研修@陸前高田報告.....57

海外研修「カリフォルニア・イノベーション研修」「グローバル・プロ養成プログラム」.....59

米国アーラム大学サイスプログラム関連事業報告.....61

平成 30 年度新入生オリエンテーション報告.....64

海外留学支援事業.....66

多言語多文化交流空間 Global Village.....69
IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ報告 78
―地域支援・地域連携業務報告― 80
地域日本語教育支援事業報告.....81
岩手県留学生交流推進協議会事業報告 86
地域への支援事業 (English Camp)報告 88
留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～.....91
高大連携ウィンターセッション報告.....92
日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等 94
―国際連携室 業務報告― 108
岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて 109
第3回カナダ・サスカチュワン大学グウェナモス・センター教員によるアクティブ・ラーニング短期集中研修開催実施報告.....112
第4回岩手大学教員海外派遣事業実施報告 115
UURR プロジェクトー平成 30 年度事業ー 120
岩手大学における国際交流に伴う危機管理体制構築に関する取組 124
第 1 回がんちゃん国際フォーラム実施報告 ケンジ ステファン スズキ氏自然エネルギー先進国デンマークと『風のがっこう』の歩み」.....126
外国人留学生同窓会モンゴル支部・西安支部・長春支部の設立及び外国人留学生 OG・OB との懇談会 in 上海開催について.....128
―資料― 131
国際連携・国際教育関連 組織図 132
外国の大学との交流 Academic Cooperation between Universities/Faculties 133
岩手大学教員海外派遣事業（平成30年度分）実施要項.....139
平成 30 年度 留学生関係行事 142
平成 30 年度海外学生受入・派遣実績 144
岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧.....146
岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型） 153
岩手大学留学生数（平成 30 年 5 月 1 日現在） 155

岩手大学留学生数（平成 30 年 11 月 1 日現在）.....156
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム　岩手大学の採用状況.....157

―グローバル教育センター業務報告―

―教育業務報告―

日本語教育

1. 概要

グローバル教育センターでは、本学の留学生を主な対象として、1）大学院入学前予備教育日本語研修コース、2）国際教育科目日本語科目、3）教養教育外国語科目日本語科目、の3種の日本語教育科目を前後期それぞれ提供している。大学院総合科学研究科留学生は、上記のいずれかの科目を受講することで「アカデミック日本語」として単位付与される。なお、定員に余裕がある場合は、研究生、研究員、家族、および岩手県立大学の留学生の受講も認めている。

2. 受講の手順

受講者には、オンラインプレースメントテスト受験とオリエンテーション参加を義務づけている。オリエンテーションでは、英語、中国語の通訳を介し、講義の概要、受講方法等の説明を行う。受講者はプレースメントテストの結果により、各自のレベルの授業の中から履修授業を選択し、受講する。

＜前期＞　4月 10 日(火) 10:00-11:00　学生センターA 棟 G19　参加者　65 名

＜後期＞　9月27 日(木) 13:00－15:00　学生センターA 棟 G1 大　参加者　75 名

3. 授業概要

3.1 開講クラス

＜日本語研修コース＞

日本語研修コースは、文部科学省国費留学生入学前予備教育と国際教育科目を兼ねている。1 学期あたりの総学習時間は 340 単位時間である。教科書は、『ひとりで学べるひらがな・カタカナ』(スリーエーネットワーク)と、『A New Approach to Elementary Japanese』(くろしお出版)の Vol.1,2 を使用している。授業スケジュール、担当者は以下の通りである。

	（月）	（火）	（水）	（木）	（金）
Ⅰ(9:00-10:30)	総合（坂本）	総合（松林）	コミュニケーション（松岡）	総合（坂本）	総合（松林）
Ⅱ(:30-12:00)	総合（坂本）	総合（松林）	コミュニケーション（松岡）	総合（坂本）	総合（松林）
Ⅲ(13:00-14:00)		漢字（坂本）		漢字（松林）	

受講者は、前期 11 名（国費 1 名、交換 7 名、研究員 1 名、家族 2 名）、後期 10 名（国費 3 名、交換 5 名、研究生 2 名）である。なお、修了発表プレゼンテーションおよび筆記試験により評価を行った。

＜国際教育科目日本語科目＞

国際教育科目日本語科目は前後期に各 15 週実施した。 授業の概要、教材、担当者は以下の通りである。

◎初級日本語Ⅰ（初修者対象）

科目名	内　容	時間	担当
文　法	初歩的な文法、語彙等の学習。 テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク)	水 8:40-10:10	加藤
読　解	かな、簡単な漢字の読み、および簡単な文章読解の学習。テキスト:ハンドアウト	金 10:30-12:00	大高
会　話	日常生活で使う挨拶や簡単な会話学習。 テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク)	水 10:30-12:00	大高

◎初級日本語Ⅱ（150 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N4レベル）

科目名	内　容	時間	担当
文　法	初級後半の文法学習。 テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)	月 8:40-12:00	大高
会　話	日常生活に役立つやや長いやり取りの会話学習。テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)ほか	木 10:30-12:00	佐藤
漢　字	漢字300 字程度学習。 テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)	木 8:40-10:10	大畑

◎中級日本語Ⅰ（300 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N3レベル）

科目名	内　容	時間	担当
文法	初級レベルの復習、および中級前半レベルの文法学習。 テキスト:短期集中初級日本語文法総まとめポイント 20』、『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)	月・木 8:40-10:10	松岡
会　話	日常生活や大学生活に必要な基礎的な会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方－日本語生中継初中級1』(アルク)	月 10:30-12:00	加藤
読　解	アカデミック文章の基礎読解学習。テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1読解編』(アルク)	火　TUE 14:45-16:15	松林
作　文	アカデミック文章作成基礎学習。テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1作文編』(アルク)	火　TUE 10:30-12:00	坂本

漢　字	中級前半レベルの漢字 300 字程度学習。テキスト:オンライン自作教材	木　THU 10:30-12:00	松林

◎中級日本語Ⅱ(450 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N2レベル)

科目名	内　容	時間	担当
会　話	大学生活(研究室、授業等)に必要なやや高度な日本語の会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方日本語生中継中上級編』(くろしお出版)	月　8:40-10:10	加藤
読　解	やや高度なアカデミックな文章の読解学習。 テキスト:『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)	金 13:00-14:30	大高
文　法	日本語能力試験N2程度の文法学習。テキスト:『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)	水 10:30-12:00	加藤
作　文	やや高度な文章作成方法学習。 テキスト:ハンドアウト	火　TUE 13:00-14:30	加藤
漢　字	大学の学習、研究に役立つ漢字・語彙学習。テキスト:ハンドアウト	水 WED 13:00-14:30	大高
アカデミック日本語	日本語能力試験N2対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2』(アルク)	木 14:45-16:15	松林

◎上級日本語　(600 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N1レベル以上)

科目名	内　容	時間	担当
ビジネス日本語	600 時間程度以上学習した人が対象。仕事で使う日本語表現学習。テキスト:『日本企業への就職ービジネスマナーと基本のことば』(アスク)	月 MON　13:00-14:30	坂本
アカデミック日本語	600 時間程度以上学習した人が対象。日本語能力試験N1対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1』(アルク)	金 FRI 14:45-16:15	坂本

＜教養教育　外国語科目＞(600 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N1レベル以上)

科目名	内容	時間	担当
上級日本語 A・E (口頭表現)	前期は討論および発表能力、後期は状況による使い分けに焦点を当て、口頭表現能力を養成する。　テキスト:ハンドアウト	月 14:45-16:15	松岡
上級日本語 B・F (論文作成)	600 時間程度以上学習した人が対象。大学の学習、研究に必要なレポート、論文作成学習。 テキスト:(前期)大学・大学院留学生の日本語4論文作成編(アルク) (後期)大学生のための論理的文章の書き方(スリーエーネットワーク)	水 13:00-14:30	加藤

上級日本語 C・G（文系）	600 時間程度以上学習した人が対象。前期は、文系分野で使われる基礎的な語彙力、後期は文系の専門分野別日本語表現学習。 テキスト：ハンドアウト	木 13:00- 14:30	加藤
上級日本語 C・G（理系）	600 時間程度以上学習した人が対象。実験、レポート等、理系分野で使われる専門基礎用語、表現力学習。テキスト：ハンドアウト	金 8:40-10:10 8:40-10:10	大高
上級日本語 D・H （読解）	600 時間程度以上学習した人が対象。授業、研究、日常生活で接触する文字情報の読解力学習。テキスト：大学・大学院留学生の日本語3論文読解編（アルク）	金 FRI 10:30- 12:00	D 菊池 H 大高

＊時間数は各学期分。A,B,C,D は前期、E,F,G,H は後期開講科目。

＊農、理工学部正規留学生日本語履修者は上級日本語C，G（理系）が必修。

4. 実施状況

各学期の受講者数は以下のとおりである。なお、下記のほか、後期にはアメリカ・アーラム大学 SICE プログラム学生 6 名（初級Ⅱ1名、中級Ⅰ5名）が月曜・木曜午前に 7 週間のみ受講した。

＊表中受講者数の「国際」は国際教育科目、「大学院」は研究科科目および国費入学前予備教育、「教養」は教養科目として単位を付与または修了認定。合計は延べ数。

＜前期＞

科目名		受講者数		
	国際	大学院	聴講	教養
初級日本語Ⅰ文法	1	0	3	
初級日本語Ⅰ表記・読解	1	0	3	
初級日本語Ⅰ会話	1	0	1	
初級日本語Ⅱ文法	0	0	2	
初級日本語Ⅱ漢字	0	0	3	
初級日本語Ⅱ会話	0	0	2	
中級日本語Ⅰ文法	4	2	1	
中級日本語Ⅰ会話	4	2	1	
中級日本語Ⅰ作文	4	1	1	
中級日本語Ⅰ読解	4	3	1	
中級日本語Ⅰ漢字	5	0	1	
中級日本語Ⅱ文法	11	2	1	
中級日本語Ⅱ会話	8	3	3	
中級日本語Ⅱ読解	5	0	0	

中級日本語Ⅱ作文	8	3	1	
中級日本語Ⅱ漢字	7	0	1	
中級日本語Ⅱアカデミック	9	2	1	
上級日本語ビジネス	7	3	1	
上級日本語アカデミック	9	4	0	
上級日本語 A(口頭表現)		9	3	16
上級日本語B論文作成		4	1	13
上級日本語C文系		1	0	5
上級日本語C理系		0	0	7
上級日本語 D 読解		0	0	8
日本語研修コース(集中)	7	4		
合　計	95	43	31	49
	218			

＜後期＞

科目名		受講者数		
	国際	大学院	聴講	教養
初級日本語Ⅰ文法	2	0	6	
初級日本語Ⅰ表記読解	1	0	3	
初級日本語Ⅰ会話	1	0	7	
初級日本語Ⅱ文法	0	2	4	
初級日本語Ⅱ漢字	0	0	5	
初級日本語Ⅱ会話	0	1	4	
中級日本語Ⅰ文法	8	0	2	
中級日本語Ⅰ会話	13	2	5	
中級日本語Ⅰ作文	7	0	10	
中級日本語Ⅰ読解	11	2	8	
中級日本語Ⅰ漢字	9	1	6	
中級日本語Ⅱ文法	7	1	0	
中級日本語Ⅱ会話	4	2	2	
中級日本語Ⅱ読解	4	0	1	
中級日本語Ⅱ作文	6	1	1	
中級日本語Ⅱ漢字	5	0	3	
中級日本語Ⅱアカデミック	5	2	6	
上級日本語ビジネス	4	0	4	

上級日本語アカデミック	4	0	6	
上級日本語E口頭表現		1	3	15
上級日本語Ｆ論文作成		2	5	12
上級日本語G文系		0	0	6
上級日本語G理系		0	0	5
上級日本語H読解		2	1	6
日本語研修コース(集中)	5	3	2	
合　計	95	22	94	44
	255			

*受講数合計は延人数

5. 成果と課題

交換留学生、大学院生の受講者が増加傾向にあり、初級レベルの学習者が以前より目立つようになってきた。学期初めの受講クラス決定までに 2 週間の猶予を持たせているが、本人の実力と受講クラスのレベルが合わないケースが散見され、指導を徹底させたい。また、学期途中で来日する学生の対応が困難な場合もある。大学院生の受講者も増えていることから、指導教員の理解が必要であり、連携をすすめていきたい。

報告:松岡洋子

地域日本語教育支援事業報告

1.　事業の趣旨

外国出身の住民が増加する地域社会のコミュニケーション課題解決の一助とすることを目的として、地域日本語教育支援事業を平成 17 年度から継続実施している。平成 30 年度は、子どもの学習支援事業（情報交換会、指導者研修会および合宿研修)、地域の日本語教育に関する情報交換事業を実施した。

2.　事業内容

2.1　子どもの学習支援事業

A. いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日時：　平成 30 年 7 月 11 日（水）15 時～16 時 30 分

場所：　岩手大学学生センターA 棟会議室

参 加 者：岩手県教育委員会　佐々木　淳一　　盛岡市教育委員会　熊谷　一史

一関市教育委員会　伊藤　彰子　　(公財)岩手県国際交流協会　畠山　智禎

いわて多文化子どもの教室むつみっこくらぶ　村井　好子

岩手大学教育学部 大野　眞男（議長）

グローバル教育センター　松岡　洋子　　国際課長　八重樫　敬（事務局）

＜協議内容＞

・研修会、学習支援活動等の協議会としての事業の報告および計画（指導者研修会、多文化ｷｯｽﾞ ｷｬﾝﾌﾟ等）を承認後、各地域教育委員会および民間支援団体からの活動報告を経て情報交換を行った。今年度は文科省の日本語指導が必要な児童生徒の調査年にあたり、現在、調査結果を集計中であること、民間の支援者の活動継続が困難に

なっていることを含め指導・支援体制が整備されていないことなどの課題が共有された。なお、NIKK は支援者の都合により活動が休止されている。

B. 平成 30 年度日本語指導が必要な外国人児童生徒等指導者研修会

日時： 平成 30 年 10 月 23 日（火）10:00-16:15

場所： 岩手県盛岡地区合同庁舎 8 階講堂 B・C

主催： 岩手県教育委員会　岩手大学グローバル教育センター

いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会

参 加 者： 39 名

内　容：

1. 報告「日本語指導に関する国、県の動向」（県教育委員会　佐々木淳一）

2．事例報告　桜城小学校　八木橋　智子　　久慈小学校　荒川　守

3．情報交換（グループ討議）

4．ワークショップ「教科学習につなげる日本語指導の在り方～初期指導を中心として～」

（豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築樋博子）

＊参加者の反応から、外国につながる児童生徒に対する日本語教育、特に学習言語指

導の必要性に対す

る認識が現場で共有されていないことが明らかになった。しかし、岩手県の場合、当該児童生徒が少数

散在のため、指導体制の構築が困難であり、このような研修を継続しながら、情報を広めることが必要で

あることが確認された。

C. 多文化キッズキャンプ

日時：平成 30 年 1 月 12 日（土）～13 日（日）

場所：岩手山青少年交流の家（岩手県滝沢市）

参加者：子ども　26 名　留学生 15 名　日本人学生 14 名 保護者　4 名　スタッフ

6 名　計 63 名

概要：

外国人散在地域である東北地方では、学内外を問わず外国につながる子どもの学習、生活に関する指導・支援体制の整備が困難である上に、子ども自身やその家族、支援者が孤立する傾向がある。このような状況に対して、子どもたちの日本語学習・教科学習支援と交流を目的として平成 19 年度から合宿研修を実施している。今年度は岩手県内のほか、青森、宮城からも関係者が参加した。今年度は、本学の学生に加え、東北大学、東北学院大学の学生たちの協力も得た。経費は、中島国際交流財団助成金、

岩手大学グローバル教育センターおよび東北多文化アカデミーの資金と個人参加費

により支弁した。

＜成果と課題＞

協議会総会および指導者研修会は定例化しており、県内の外国人児童生徒指導に関わる機関、団体のネットワーク機能を果たしている。子どもの教育に関わる課題については、教育学部の更なる参画が望まれるが、人的対応が困難な状況にあり、今後、検討が求められる。また、事業予算の確保、実施体制についても、関係機関等の連携を図る必要がある。

2.2 日本語学習支援情報交流事業

日本語学習支援ネットワーク会議 18 in 山形

日 時 ： 2018 年 9 月 30 日（日） 10：30－16：20

場 所 ： 過剰セントラル（山形市）

主 催 ： 日本語学習支援ネットワーク会議１8 in 山形実行委員会

参加者： 8０名

内 容 ： 午前 全体会 10:30－12:00

［報告］山形県の在住外国人の現況について後藤崇文（山形県国際交流室）

［講演］外国人散在地域における日本語学習支援の在り方を考える～

「生活者としての外国人」のための日本語教育の視点から～

北村祐人（文化庁文化部国語課）

午後 分科会

［第一分科会］ 寄り添う学習支援とは

司会：足立祐子（新潟大学）

発題：余語美香（酒田市国際交流サロン）　横沢由実（ヤマガタヤポニカ）

財部仁子（神戸 YMCA 学院専門学校）

［第二分科会］　やさしい日本語の使い手の養成

司会：内海由美子（山形大学）　講師：柳田直美（一橋大学）

＜成果と課題＞

平成１７年度より始まった「日本語学習支援ネットワーク会議」は、東北地区の大学、地域の日本語学習支援に関する関係者、関係機関のネットワークを活用し情報交流を継続しており、今年度は山形のネットワーク強化につながった。来年度は国際教養大学が中心となり秋田での開催が予定されている。外国人住民の増加に伴い今後は行政との連携につながる情報交換会につなげていく必要がある。

報告：松岡洋子

夏期休暇補講および課外日本語学習支援報告

1. 概要

夏期休暇中に初級レベルの日本語学習を希望する学生を対象として夏期休暇日本語補講を実施した。この授業は本学の協定大学であるアメリカ・アーラム大学が短期研修（ＳＩＣＥプログラム）の日本語教育の一環としても活用した。

また、学習者の個別ニーズに対応するため、日本語教育を学ぶ学生による日本語チューター活動と、「日本語カフェ」を実施した。各内容は以下のとおりである。

① 夏期休暇日本語補講

期　間：　2018年8月27日～9月13日　9：00－12：00　（全６日×２コマ×2レベル）

受講者：　初級修了者（12名：うちSICE学生6名）

＜内容・スケジュール＞

	初級Ⅰ復習		初級Ⅱ復習	
	内容	担当	内容	担当
8月27日	漢字１（げんき review１－3）	大高	漢字１（Ｎ４トライアル）	宮
	聴解１（げんき review１－3）	坂本	聴解１（Ｎ４トライ	大高

			アル）	
9月3日	文法１（げんき review１－3）	坂本	文法１（Ｎ４トライアル）	加藤
	聴解２（げんき review 4-6）	坂本	漢字２（形容詞）	加藤
9 月 6 日	漢字２（げんき review 4-6）	佐藤	文法２（自動詞・他動詞）	松林
	文法２（げんき review 4-6）	佐藤	会話・聴解２（自動詞・他動詞）	坂本
9 月 10 日	聴解３（げんき review 7-9）	加藤	漢字３（位置・方向・量）	松林
	漢字３（げんき review7-9）	加藤	文法３（条件）	松林
9月13日	文法３（げんき review 7-9）	大高	会話・聴解３（条件）	松林
	漢字４（げんき review 10-12）	佐藤	漢字４（学校・科目）	大高
9 月 20 日	文法４（げんき review10-12）	佐藤	文法４（敬語）	大高

② 個別学習支援

授業以外に個別学習を希望する学生に対して、教育学部２名の学生による個別学習支援を行った。

実施時期：　前期　6～７月、　後期　11～1 月

対象：日本語研修コース学生１名、学部生５名、交換留学生２名、大学院生１名

③ 日本語カフェ

後期（10 月～1 月）の毎週火曜、木曜の昼休みにグローバルビレッジにおいて実施した。日本語学習を希望する留学生や日本語での交流を希望する留学生と日本人学生が参加し、グローバルビレッジのスタッフと日本語チューターが運営を担当した。

2. 成果と課題

夏期休暇補講は初級 2 レベル（各 1 クラス）で文法、漢字、聴解の復習を行った。アメリカ・アーラム大学の学生のほか、本学の学生も参加し、次の段階への橋渡しの効果が見られた。

また、日本語能力試験対策や日本語授業で学習に遅れの目立つ学生に対して個別にチュートリアルを実施したが、個々のニーズに対応することで一定程度の効果が見られた。しかし、対応する学生が十分に支援できないケースもあった。

さらに、今年度後期から開始された日本語カフェの活動は、留学生、日本人学生ともに好評であり、今後も継続するが、日本語学習支援を必要とする学生にとっては活用しにくい点もあり、その活動方法について検討していきたい。

報告：松岡洋子

教養教育科目・全学共通教育科目

1．日本事情 A・B

全学共通教育科目「日本事情A・B」は留学生か専攻や学年制限なして参加てきる日本文化のフロクラムである。「日本事情A」（前期）は日本の地域史をテーマにし、イントロタクション（1回）・陸奥（岩手県を中心に）（3回）・横浜（神奈川県）（1回）・土佐（高知県）（1回）・出雲（島根県）（3回）・筑前（福岡県）（1回）・琉球（沖縄県を中心に）（3回）・まとめと復習（1回ずつ）の順で日本各地の歴史、風土、文化を説明した。

「日本事情B」（後期）は基本的に日本の世界遺産をテーマにしたが、4回は木村先生の協力を得、「習性法則」の課題で講義はされた。その後の流れは下記の通りになった。紀伊山地・平泉・厳島神社・琉球王国・石見銀山・姫路城・明治日本の生産革命・原爆ドーム・長崎の教会群・まとめ・復習の順で講義を行った。

授業の基本的な形は講義だか、留学生はフレセンテーション、クラスワーク、ティスカッションも行った。留学生は日本語能力か限られているため、できるたけ単純で理解しやすい言葉や文法を使用して講義を行った。教科書も読みやすい本を選んだ（前期は数研出版の『基礎からの中学歴史』、後期はジャパンタイムスの『英語で伝えたい日本の世界遺産』）。この授業の履修を契機に留学生は自分の専門以外の日本文化や歴史に触れ、 日本の様々な事情をよりよく理解てきた。30年度の参加者は前期7名、後期も7名であった。

担当：アンデス・カールキビスト

2．多文化コミュニケーション A・B

日本人学生、外国人留学生共修科目である多文化コミュニケーションA（前期）、多文化コミュニケーションB（後期）を実施した。この科目は、IHATOVO グローバルコースの「コミュニケーション」領域の授業として位置づけられており、多文化社会におけるコミュニケーション課題をト

ピックとして取り上げ、討論、共同作業を通じた実践的な授業を行った。合宿研修を授業に組み込んでいるため、その移動、授業効果等を勘案し、履修者は日本人学生、留学生各 20 名に制限した。

前期（多文化コミュニケーション A）は学部2年次および交換留学生が主たる受講者である。今年度も二戸市教育委員会の依頼により、中学生（19 名）と岩手山青少年交流の家で合同合宿を行った。合宿では多文化コミュニティでの課題として、（今年度は「**多文化な学校のルール作り**」）を与え、グループでの共同作業の成果を発表させた。

後期（多文化コミュニケーション B）は学部1年次および交換留学生が主たる受講者で弘前大学、秋田大学、東北大学との合同合宿を岩手山青少年交流の家で行った（合宿については「北東北3大学合同合宿研修報告」参照）。

この授業は、留学生、日本人学生の共修教育として、他大学、中学生等の多文化接触の機会として、多文化コミュニケーション能力の中で「意識啓発」の意義がある。今後も継続予定である。

担当：松岡洋子・尾中夏美

3. 現代の諸問題（教育とグローバル化）

1年生を対象とし 54 名が受講した。岩手に縁があってグローバルに活躍するゲストスピーカー（以下 GS）5 人からキャリアを積み上げる過程について聴くことを軸に実施した。流れとしては事前課題で GS から提示された資料を読んで質問を準備する。講話を聴いてから4，5名で構成されるグループで講話内容をまとめ、それをベースにディスカッションを行い、GS の態度、考え方、能力などを分析しポスタープレゼンテーションを実施。これを 5 回繰り返す。最終的には、5 人の GS の共通項を抽出し、グローバル人材の特性をまとめてポスタープレゼンテーションを行った。これを踏まえ、大学生活の中で自分にとって必要と思われる考え方や能力を育成するためにどのように送っていくかの決意表明を各自がポスターにまとめて動画を撮り、一般公開しない設定でアップロードした。グループの構成メンバーは2回サイクルで更新することにより多様性の確保とコミュニケーションスキルの涵養を目指した。今後もグローバル人材が遠い存在ではないことを理解し、体験者から身につけるべき知識・能力などを学ぶとともに、グループ作業等を通じてコミュニケーション能力とプレゼンテーション技能等の向上を図っていきたい。

担当：尾中夏美

4. 初年次ゼミナール（トビタテ！岩大生）

「トビタテ！留学 Japan」の申請用紙を完成させる、という作業を通して、具体的なプロジェクトの立て方と、読み手が具体的に内容を把握できる書き方の基礎が習得できる講義内容とし、限られたスペースの中でいかに具体性が高く情報密度の高い文章を作文するかを中心的課

題とした。履修者は人社学部1年生1名、教育学部2名であった。毎回 1 項目ずつ記載項目に記入し、相互に評価し、それを元に改訂していくという作業を行った。最終的には、実際に採択となった申請書を参考にして、説得力のある申請書を完成するとともに、最後は、二次審査と同じ形式を採用して 4 分間の口頭発表も実施し相互評価を行った。この授業の受講者からトビタテ！留学 Japan 地域人材コースに 2 名が採択となった。

担当：尾中夏美

5. 現代の諸問題（英語討論入門）

この授業の目的は、日本人学生が英語をツールとしてディスカッションや口頭発表を実施し、論理立てて主張する手法や英語でのコミュニケーションに自信を身につけることにある。今期は 3 年生 1 名、2 年生 1 名、米国からの交換留学生 3 名、ロシア人交換留学生 1 名、留学生の家族である中国人 1 名が受講した。交換留学生と日本人学生が混ざる小グループでテーマに関して賛成・反対の口頭発表を行い、それまでのプロセスでの自分の学びを評価するという内容で実施した。ディベートのテーマは”Should the death penalty be allowed?”, “Should same-sex marriage be allowed?”、そして3つ目は学生たちの希望から”Should euthanasia be allowed?”に決まった。ディスカッションは英語で実施し、発表については日本人は英語、留学生は日本語でチーム毎に協力してそれぞれ発表した。

担当：尾中夏美

6. 地域と国際社会

「持続可能な開発目標（SDGs）」を軸に、世界の課題と地域の課題を相関的に捉え、それらがいかに自分に関わっているか、当事者意識とリアルな日常から課題解決を考える力を養うことを目的とする。「足元である地域の問題を構造的に世界の問題と関連づけてとらえ、新しい社会のあり様をその地域から発想する（山西 2008）」ことを目指し、貧困、児童労働、教育格差、ジェンダー課題など、持続可能な社会をつくるために取り組むべき課題について理論と事例から理解を深めた。ディスカッションやグループワーク、口頭発表といったアクティブラーニングを通じ、国際社会で必須の発言力やプレゼンテーション能力をも向上を図った。後半は学生の課題解決型プレゼンテーション（フェアトレードの地域普及、SDGs達成へのビジネス、ワークライフバランスの社会実装、ひとり親を取り巻く課題の改善提案、家庭でのジェンダー課題、主観的幸福の向上等）を実施し、当事者として課題解決提案を行うとともに、プレゼンテーション能力の向上を図った。外部講師として 5 月 24 日に外務省国際機関人事センター木下氏による「国際機関へのキャリアパス」を、6 月 14 日に特定非営利活動法人インクルいわて山屋理恵理事長による「地域に広がるこども食堂」を講演いただき、知見を深めた。これらの講義は一般公開とし、県南からの高校生や地域からの方々の参加があった。

報告：平井華代

7. 英語で学ぶ日本文化（いけばなB）

全学共通教育科目「英語で学ぶ日本文化」は留学生、日本の学生が組んで、専攻や学年制限なして参加てきる日本文化フロクラムで、イントロダクション、盛り花の稽古（5回）（4回は非常勤講師の協力を得た）、いけばなの歴史①（いけばな入門）・生花（しょうか）の稽古（5回）・いけばなの歴史②（いけばなの伝統）・復習（2回）の順で日本の文化の1つであるいけばなの勉強、体験をした。

授業の基本的な形はお稽古したが、留学生と日本の学生の交流の場にもなり、いけばなの歴史の勉強を行った。教室内では英語を使い、日本の学生にとっては英語の練習にもなった。花材は留学生、日本の学生共に自己負担した。（お稽古1回につき千円、計10回のお稽古の花材は合計一万円）

この授業履修を契機に留学生に限らず日本の学生も知らなかった日本文化や歴史に触れ、知り得なかったそれらを深く勉強てきた。30年度の参加者は10名。（留学生3名、日本学生は7名）。

担当：アンテス・カールキビスト

課題設定型研修（地域課題演習 F）『三陸ジオパーク視察研修：頼むぜ助っ人！三陸ジオパーク観光ルートのキャッチフレーズ探求』の実施

日程：2 月 20 日～21 日（事前研修 2 月 14 日、事後研修 2 月 22 日）
参加者：合計 36 名（学生 31 名＋引率教員 3 名＋三陸ジオパーク職員 2 名）
引率教員・業務補助：石松弘幸（岩手大学国際連携室）、熊谷誠（岩手大学・地域防災センター）、芝陽子（岩手大学理工学部大学院工学研究科）、杉本伸一（三陸ジオパーク推進協議会事務局）、林ちはる（三陸ジオパーク推進協議会事務局）

概要：

1. 2 月 14 日～22 日の中の計 4 日間、岩手大学及びいわて高等教育コンソーシアムの科目として、「三陸ジオパーク研修：頼むぜ助っ人！三陸ジオパーク観光ルートのキャッチフレーズ探求」を実施した。今回の研修には日本人 26 名、留学生 5 名（岩手大学学生 30 名、盛岡大学学生 1 名）が参加し、留学生・日本人学生混成の 5 グループ（各グループ6～7名）に分かれて、一泊二日で三陸ジオパークにおける観光地（浄土ヶ浜、田老、北山崎、龍泉洞）を訪問した。参加者は、『みる（風景）』、『たべる（食・土産）』、『まなぶ（防災）』の各テーマの下、観光ルートを紹介するキャッチフレーズ、写真を含んだ A4 版 1 枚のチラ

シを作成した。今回の研修には、引率者として、岩手大学国際連携室・石松弘幸准教授、地域防災センター・熊谷誠助教、理工学部・芝陽子准教授のほか、三陸ジオパーク推進協議会事務局の杉本伸一氏、林ちはる氏が同行した。

2. 2 月 14 日の事前研修では、研修の行程、グループ分けと課題の説明を行った後、三陸ジオパーク推進協議会杉本伸一講師及び岩手大学地域防災センターの熊谷誠助教が三陸ジオパークの全体像と今回の訪問先につき講義を行った。後半は、石松准教授が中心となり、グループワークの第一回目を実施した。
3. 20 日～21 日の本研修では、1 泊 2 日で三陸ジオパークの各観光地を訪問し、観光客が「是非ここに行きたい！」と思えるような写真を撮影し、それぞれの訪問地の魅力を一言で表したキャッチフレーズを、グリーンピア三陸みやこ、岩泉町民会館の会場でグループごとに議論した。
4. 翌 22 日には、事後学習として全グループが、研修の成果を発表し、岩手県、三陸ジオパーク推進協議会事務局、岩手県北バス株式会社、岩手大学地域防災センターの各スタッフが審査員を務め、講評を行なった。

報告：石松弘幸

国際研修 SCIP：北欧（エネルギーと持続可能な社会）

1．趣旨と概要

本科目は、英語で得られる情報を収集、分析、判断し、決定する能力を育成する研修を通して、卒業後グローバルな視点から地域のリーダーとして課題解決を行う能力を培うことを目的としている。この授業は「エネルギーと持続可能な社会」をテーマとし、海外での研修の前後に事前・事後研修を実施する。学生は事前研修では工学部、農学部、岩手県庁、グローバル教育センター教員によるオムニバスの講義を受ける事でテーマに関する基礎知識を習得する。同時にテーマに関わる英語の講義の聴講や関連する英語の文書を、ICT 教育プラットフォームを活用して学習することにより、英語による情報収集能力を高める。研修は9月に10日間、ベクショー（スウェーデン）で行い、エネルギー関連の事情に関する講義を受け、発電所やエネルギー分配基地等の現地視察も行う。帰国後の事後研修ではそれぞれの情報を持ち寄り、口頭発表や報告書にまとめる。

2．実施内容

【スケジュール】

日 付	活 動	場 所
4 月 19 日（木）9･10 コマ	オリエンテーション （尾中先生・アンデス）	GB-2A
4 月 26 日（木）9･10 コマ	事前講義①（山口　明） 「再生可能エネルギー概論」	GB-2A
5 月 10 日（木）9･10 コマ	事前講義②（野崎明裕） 「岩手県のエネルギー事情」	GB-2A
5 月 17 日（木）9･10 コマ	ディスカッション① （尾中先生・アンデス）	GB-2A
5 月 24 日（木）9･10 コマ	映画を観る①（アンデス） 「不都合な真実」	GB-2A
5 月 31 日（木）9･10 コマ	事前講義③（伊藤幸男） 「木質バイオマスエネルギー概論」	GB-2A

6 月 7 日(木)9･10 コマ	ディスカッション② (尾中先生･アンデス)	GB-2A
6 月 14 日(木)9･10 コマ	映画を観る②(アンデス) 「不都合な真実2放置された地球」	GB-2A
6 月 21 日(木)9･10 コマ	事前講義④(高木浩一) 「エネルギーとは何か」	工学部 3 号館 127 番教室(大学院講義室)
6 月 28 日(木)9･10 コマ	ディスカッション③ (尾中先生･アンデス)	GB-2A
7 月 5 日(木)9･10 コマ	事前講義⑤(アンデス)(英語) 「About Sweden」	GB-2A
8 月 21 日(火)終日	県内エネルギー施設視察 (野崎明裕)	県内
8 月 22 日(水)10:30~12:00	出発前オリエンテーション (尾中先生･アンデス)	GB-2A
9 月 10 日(月)~ 20 日(木) (成田着は 21 日)	海外研修	スウェーデン＋ デンマーク
10 月中旬	まとめ(得た情報の整理、ディスカッション、印象交換)	GB-2A
10 月下旬	プレゼンテーションの準備(作成)	GB-2A
11 月上旬	プレゼンテーションの準備(練習)	GB-2A
11 月中旬	コース報告①(尾中先生.アンデス) 口頭発表	グローバルビレッジ
12 月上旬	コース報告② レポート	

【単位付与】教養教育単位2単位 、国債教育単位2単位(合計4単位)

【参加者】

学部課程	学年（人数）
理工学部物理材料	2 年（1）3 年（1）
理工学部システム創成工	2 年（3）
農学部応用生物化学	2 年（1）
農学部食料生産環境	3 年（1）
理工学部化学・生命理工	3 年（1）

3. 成果

30年度の参加者である8名の学生らは全般的に英語や海外に対する興味関心が向上した。帰国後に英語の勉強を進め、海外留学を含め、国際性を高める意識が見られた。

4. 経費

平成30年度留学生交流支援制度（ショートビジット）プログラムにより8名分、1 名当たり8 万円の支援が受けられることが決定していたため、1名を除いて奨学金を付与し個人負担は軽減できた。プログラム参加費は基本的に学生の自己負担の形で行い、30年度は約20万円になった。（上記の奨学金を得た学生の自己負担は約12万円）

報告 ：アンデス・カールキビスト

国際研修 SCIP:フィリピン （貧困と持続可能な社会）

1. 概要

(1)本科目は、貧困と持続可能な社会をテーマに、グローバルな課題を地域の視点から理解し取り組む志向を持つリーダーに求められる資質を養成することを目的とした、フィリピン・セブ島で実施する約2週間の海外研修である。1週目はサンカルロス大学語学研修所で英語研修を実施した。2 週目はセブ市及びマンダウエ市の都市インフォーマル地域に暮らす子供と家族を支援する現地NGOの活動に視察・参加するフィールドワークを実施した。

(2)日本とフィリピンにおける貧困、格差、ジェンダー平等、支援、発表やインタビューの方法等、英語を交えつつ、講義、文献購読、国内関連団体への訪問、発表を通じて学ぶ事前研修を実施した。帰国後は事後研修を通じ、学びを深めたほか、口頭発表・報告書作成を行い、学びを総括した。

(3)受け入れ先はグローバル教育センター―との覚書を締結しているサンカルロス大学 External Relations Office 及び Bidlisiw Foundation Inc.である。海外送金を中心とする事務手続きの一部は、京王観光株式会社が代行した。

2. 日程と研修内容

以下のように、事前事後研修及び現地研修を実施した。

(1)事前事後研修

以下の日程と内容で事前事後研修を実施した。

	日程(予定)	授業で取り上げるテーマ
1	4 月 24 日	オリエンテーション、自己紹介、事前アンケート記入
2	5 月 8 日	英語で自己紹介、世界の富の配分を体験 SDGs:開発途上国と日本の課題とは
3	5 月 15 日	貧困と開発の理論:貧困、豊かさとは。相対貧困と絶対貧困
4	5 月 22 日	貧困分析:セブの都市貧困地域に暮らすこどもの事例から
5	5 月 24 日	外務省国際機関人事センター木下悠矢氏「国際機関での仕事をしたい人のためのキャリア・ガイダンス」
6	5 月 29 日	日本の国際協力:ODA、学生発表:日本の対比 ODA、JICA
7	6 月 5 日	グローカル講演会:開発援助の最前線に立つ NGO ワーカー滝田ひろゆき氏による体験談
8	6 月 14 日	NPO 法人インクルいわて山屋理恵理事長「岩手とこどもの貧困:こども食堂のとりくみ」
9	6 月 19 日	NGO について、ビデゥリシウ財団の活動

10	6 月 26 日	学生発表:フィリピン(文化社会、歴史、政治経済、日比関係)
11	7日3日	盛岡市こども未来課訪問:子供の貧困、盛岡市の取り組み
12	7 月 10 日	学生発表:日本のリアル学生　英語で発表
13	7 月 17 日 7 月 24 日	学生発表:日本の貧困(①ひとり親、②学生と奨学金、③子供、④ホームレスとワーキングプア、⑤女性・貧困・ジェンダー、⑥生活保護と支援制度、⑦こども食堂と民間支援)
14	7 月 31 日	こども食堂×岩手大学(注1)
15	8 月 21 日	旅行代理店京王観光　渡航前オリエンテーション
16	8 月 24 日	フィリピンから来日中の JICA 研修生(行政官)と交流
17	9 月 4 日	渡航前準備、現地ケータイ操作練習、交流準備　英語で日本の貧困課題発表
18-19	9 月 25-26 日	事後研修振り返り、報告書
20	11 月、 2018 年 5 月	国際月間、留学週間での報告会

(注1)　こども食堂×岩手大学「えいごであそぼう！」概要

【日時】2018 年 7 月 31 日(火)12:20－14:30

【場所】岩手大学中央学生食堂、学生センターB 棟 1 階多目的室

【主催】岩手大学グローバル教育センター、特定非営利活動法人インクルいわて

【参加者】39 名(内訳:岩手大学フィリピン海外研修履修学生 6 名、グローバル教育センター教員 2 名、インクルいわて職員 2 名、地域からの親子 23 名:内こども 1 歳～9 歳が 15 名、地域からの視察参加者 6 名:内岩手医科大学学生 3 名、養護教諭 3 名)

【目的】1. こども食堂や社会的包摂への取り組みと地域課題を学ぶ、2. 交流を通じた学びの機会と学生のアクションの場を提供する。

【内容】:企画実施進行はフィリピン海外研修の参加学生が主体となって下記の内容を実施した。

1. フィリピン概要:フィリピンの地理や現地の社会問題などの発表とクイズ
2. レクリエーション:ゲーム①フルーツバスケット②フィリピン国旗あてクイズ

(2)現地研修

以下の通り、2018 年 9 月 9 日から 9 月 21 日まで実施した。グローバル教育センターより2名の教員が交代で現地引率を行った。

日程		午前	午後
1 日目	9 月 9 日(日)	成田空港	セブ　マクタン空港到着
2 日目	9 月 10 日(月)	サンカルロス大学語学研修	英語研修開始、インタビュー

		開講式	
3 日目	9 月 11 日(火)	英語研修	
4 日目	9 月 12 日(水)	英語研修	
5 日目	9 月 13 日(木)	英語研修	
6 日目	9 月 14 日(金)	英語研修	
7 日目	9 月 15 日(土)	ゴミ山コミュニティ訪問(Umapat Dump site community)	ハウジングプロジェクト訪問(Jansenville Housing Project)
8 日目	9 月 16 日(日)	自由行動	
9 日目	9 月 17 日(月)	ブリーフィング @ Bidlisiw Foundation マンダウエ市社会福祉サービス(City Social Welfare Service)訪問	元被支援児童へのインタビュー(2 名)
10 日目	9 月 18 日(火)	● スラム内家庭訪問、被支援家庭母親へのインタビュー、交流(於:Barangay Mantuyong, Mandaue City) ● 行政のひとり親家庭支援プログラム説明会見学(於:HELPS Center) ● 村役場訪問	● コミュニティピア―サポートグループ(School-based peer support group)活動見学、交流(Barangay Suba, Cebu City) ● 漁港に暮らすホームレスの人々訪問(於:Fish port, Barangay Sawang-Calero, Cebu City) ● 振り返りセッション
11 日目	9 月 19 日(水)	学生による生計向上小規模起業提案:たこやきデモンストレーション	● ビデゥリシウ財団事務局長との意見交換 ● 自由行動
12 日目	9 月 20 日(木)	修了発表会準備	修了発表会、修了証書授与 振り返りセッション
13 日目	9 月 21 日(金)	セブ・マクタン空港	帰国

3. 単位

海外研修(教養教育科目)に 2 単位、海外研修事前事後研修(国際教育科目)において 2 単位、合計 4 単位を付与した。

4. 参加学生:5 名

人文社会学部 2 年生

教育学部 2 年生

理工学部　4 年生

男女内訳(女性 3 名、男性 2 名)

＊理工学部よりもう一名の参加予定があったが、体調不良により現地研修はキャンセルした。

5. 奨学金

JASSO より4名に奨学金が支給された。

6. 成果

(1)事前研修:日本とフィリピンの貧困課題について理論と実地研修により理解を深めた。地域でこども食堂を実施している、特定非営利活動法人インクルいわてと共催で「がくせい食堂×岩手大学」を実施した(注1)。これにより、学生自身の運営能力、自信の向上につながっただけでなく、こども食堂への理解が深化した。また事前研修では、日本の課題を英語で話せるようになることを一つの目標に据えて、課題の理解と英語練習を実施した。現地で「日本にはホームレスはいないでしょう。」といった現地の当事者の方からの質問に説明をしたり、奨学金の返済にあえぐ日本の学生の状況を説明する学生がいたことは、事前研修の成果といえる。

(2)英語研修:本年度はこれまで課外で実施していたサンカルロス大学学生へのインタビューを授業の一環に位置づけ、さらに会話中心の英語力を高めるプログラムに再構成した。テーマは、日替わりで環境、貧困、ジェンダー平等とした。生きた英語を学び、使う度胸の養成を行った。最終日に、総括として、現地での学びと日本の貧困に関わる課題のプレゼンテーション発表を学生各自英語で実施した。サンカルロス大学の学生や教師との質疑応答を行った。現地と事前研修の学びを総括し、プレゼンテーション能力を高める格好の機会となった。

(3)フィールドワーク:都市貧困地域の家族を支援する Bidlisiw 財団及び行政機関(CSWS)への視察を通じて官民連携による支援を知る機会を設け学びを深めた。支援を受けた若者二名に対するインタビューでは、支援を受けて変わった自身のライフストーリーを聞く機会を設けた。こどもの貧困脱却に有効な支援の鍵について考えを深めた。

(4)事後研修:インタビューを行った二名の元支援者の若者のライフストーリーを振り返り、どのような支援が貧困の連鎖を断ち切るために有効かを意見交換した。また Bidlisiw 財団のプログラムを振り返り、日本で大学生による同様の活動が展開できないかといった意見交換がなされた。

7. まとめと今後の展開

日本の社会的弱者の排除や包摂に関する課題を把握し、フィリピンの貧困や支援について学んだ後に現地研修を行ったが、厚みのある事前研修が現地での学びを大いに深めた。も

盛岡市こども未来課によるこどもの貧困への取り組みの講話を伺えたことや、地域で社会包摂に取り組むインクルいわてさんと共同でこども食堂を実施できたことは、研修内容を深めただけでなく、地域と大学との連携という点でも大きな一歩であった。ご協力に感謝申し上げるとともに、今後さらなる連携を進めたい。

学生の学びという点からも大きな手ごたえを感じた。当初、友人に誘われて研修に参加したという学生は、現地研修終了後に、自分の専門分野を通じて社会的に弱い立場に置かれている人々に役立つような研究をしたいと語った。また、困難にあっても家族を大切に思うフィリピンの若者の心に触れ、「これからはもっと家族と話す時間をもとうと思うようになった」と語った学生もいる。こども（中学生）が地域のこどもに性教育を行う場面に衝撃を受けた学生は、大学生として同様の活動ができないか模索したいと語った。このように、学生たちは、フィリピンの事例を学んだだけでなく、それらをいかに日本社会の課題解決に応用できるかを真剣に考え、行動を模索していた。フィリピンといういわゆる開発途上国から、日本が学べることは何かという視点で行われている研修は少ない。今後、参加した学生たちが、新しい視点からの学びを、自分の身の回り、地域社会、世界に還元し、ウェルビーング（幸福、よりよき生）の改善に取り組んでくれることを期待しつつ、引き続き本プログラムの開発と実施を行いたい。

報告：平井華代

国際研修 SCIP:イタリア （アートと持続可能な社会）

1. 研修の概要

本研修では、アートをテーマとして、イタリア人学生との交流やイタリアルネッサンスの歴史の学習を通して見えてくる欧州との相違点から、学生が日本の文化や交流のリソースについて再考する機会を提供した。今回はモザイクの制作活動を岩手のデザインを題材に行った。後半はイタリアルネッサンスの舞台となったフィレンツェで美術館や教会など世界遺産となっているアートを、彫刻の専門教員の解説の元に深く学ぶ機会を提供した。

2. 海外研修内容

【スケジュール】

日数	日 付	出 発 地	便 名	到 着 地	滞 在 地 ・ 日 程
1	3 月 11 日（月）	成田(13:20)	AZ787	Milano(18:10)	成田空港第1ターミナルビル北ウィングカウンター前集合 宿舎:Hotel Michelangero Milan
2	3 月 12 日（火）	Milano	貸切バス	Carrara	Carrara カーヴェ見学、町中探索等 宿舎:Alberica 10
3	3 月 13 日（水）				モザイク研修とカラーラ学生との交流等 宿舎:Alberica 10
4	3 月 14 日（木）				モザイク研修カラーラ学生との交流等 宿舎:Alberica 10
5	3 月 15 日（金）				モザイク研修カラーラ学生との交流等 宿舎:Alberica 10
6	3 月 16 日（土）	Carrara	鉄道	Firenze	美術館等視察研修:ドゥオーモ周辺 宿舎:Era Rental Apartments
7	3 月 17 日（日）				美術館等視察研修:ウフィツィ美術館、オルサンミケーレ美術館、アカデミア美術館

					宿舎:Era Rental Apartments
8	3 月 18 日(月)				美術館等視察研修:サンジョバンニ洗礼堂、サンタマリアノヴェッラ教会、サンロレンツォ教会、サンマルコ教会、バルジェロ美術館、カーサブオナロッティ、サンタローチェ教会、ミケランジェロの丘、サンミニアート教会 宿舎:Era Rental Apartments
9	3 月 19 日(火)				美術館等視察研修:ピッティ宮殿、サンスピリト教会、ブランカッチ礼拝堂、マリノマリーニ美術館 宿舎:Era Rental Apartments
10	3 月 20 日(水)	Firenze(11:10) Roma(14:55)	AZ21678 AZ784	Roma (12:00)	機中泊
11	3 月 21 日(木)			成田(11:10)	着後解散

【参加者】

人文社会科学部 4 名、理工学部 3 名、農学部 3 名

男女内訳 男子 3 名、 女子 7 名

【宿舎】

ホテルやアパートメント泊

3. 事前事後研修 (国際教育科目 2 単位)

回数	日付	授業内容	担当教員
1	10 月 16 日	研修オリエンテーション イタリアルネッサンスの歴史と芸術家の活動について、文献やビデオなどを使いながら講義する。	金沢 尾中
2	10 月 23 日	イタリアルネッサンスの歴史と芸術家の活動について、文献やビデオなどを使いながら講義する。	金沢
3	10 月 30 日	イタリアルネッサンスの歴史と芸術家の活動について、文献やビデオなどを使いながら講義する。	金沢
4	11 月 6 日	ミケランジェロを中心とした作品の見方と人間ミケランジェロについて、文献やビデオなどを使いながら講義する。	藁谷
5	11 月 13 日	ミケランジェロを中心とした作品の見方と人間ミケラン	平野

		ジェロについて、文献やビデオなどを使いながら講義する。	
6	11 月 20 日	ルネッサンスとカッラーラの関係：芸術素材を通した交流をテーマに、文献やビデオなどを使いながら講義する。	平野
7	12 月 4 日	カッラーラでの制作に備えた作品作りの準備を始める。モザイクへの理解を深め、制作する作品のテーマを考える。	藁谷
8	12 月 11 日	カッラーラでの制作体験に備えた下絵の制作。	藁谷
9	12 月 18 日	カッラーラでの制作体験に備えた下絵の制作。	平野
10	1 月 15 日	カッラーラでの発表に備えた英語プレゼンテーション原稿を作成し発表の練習をする。	田中
11	1 月 22 日	現地での交流を想定した英語会話を練習する。モザイクについて文献やビデオなどを使って講義する。	田中
12	1 月 29 日	現地での交流を想定した英語会話を練習する。モザイクについて文献やビデオなどを使って講義する。English Time などの個別英語指導でのプレゼンテーションや英語でのやりとりの練習をする。	田中 尾中
13	2 月 18 日	出発前オリエンテーション。旅行スケジュール確認、海外研修の心得と持ち物の確認などを、ハンドブックを使用しながら行う。	尾中
14,15	4 月 5 日	帰国報告とレポートの作成と提出、振り返り	尾中

4. 奨学金

JASSO 奨学金が条件を満たした 9 名に給付された。

報　告　:尾中夏美

国際研修 SCIP:インドネシア(世界遺産と持続可能な社会)

1. 趣旨と概要

本科目は、「国際研修
SCIP:北欧(エネルギーと持続可能な社会)」と同類のプログラムである。テーマは世界遺産で、海外研修先はスラバヤとジョクジャカルタ(インドネシア)となり、英語に自信のない学生のために作成したプログラムで、日本語通訳者が付いている。海外研修費用(バスレンタル、従業費、案内、準備など)の多くはスラバヤのアイルランガ大学の負担となっている(協定の条件に従ったもの)。海外研修は8月末から10日間、レクチャー、遺跡訪問、ジャワ文化体験などを行う。

2. 実施内容

【スケジュール】

日 付	活 動	場 所
4 月 24 日(火)9･10 コマ	コース内容の紹介	GB-2A 松岡先生、ｱﾝﾃﾞｽ
5 月 1 日(火)9･10 コマ	講義(1)「日本の世界遺産(目的、意義、好機、問題点)」	GB-2A 佐藤先生
5 月 8 日(火)9･10 コマ	講義(2)「岩手県の世界遺産(1)平泉」	GB-2A 樋口先生
5 月 29 日(火)9･10 コマ	講義(3)「岩手県の世界遺産(2)釜石と橋野高炉」	GB-2A 伊藤先生
6 月 12 日(火)9･10 コマ	講義(4)「遺跡の保護や活躍」	GB-2A 伊藤先生
6 月 26 日(火)9･10 コマ	講義(5)「ジャワ島の歴史:ボロブドゥール遺跡・プランバナン寺院群」	GB-2A ベロニカさん
7 月 3 日(火)9･10 コマ	インドネシアの生活について (ハウツー イン インドネシア)	GB-2A アンデス
8 月 19 日(日)終日 (8:30~17:30)	県内研修(1)平泉 中尊寺、毛越寺、柳御所など	学生センターA 棟の入り口

8 月 20 日(月)終日 (8:30~17:30)	県内研修(2)橋野・釜石 採掘坑跡、橋野高炉跡、鉄の歴史館	学生センターA 棟の入り口
8 月 22 日(水)5・6 コマ	出発前オリエンテーション	GB-2A 松岡先生、ｱﾝﾃﾞｽ
8 月 27 日(月)~ 9 月 6(木)	海外研修(別紙)	
10 月中旬	まとめ(得た情報の整理、ディスカッション、印象交換)	GB-2A 松岡先生
10 月下旬	プレゼンテーションの準備(作成)	GB-2A 松岡先生
11 月上旬	プレゼンテーションの準備(練習)	GB-2A 松岡先生
11 月中旬	コース報告 (松岡先生.アンデス) 口頭発表	グローバルビレッジ

【単位付与】教養教育単位2単位 、国債教育単位2単位(合計4単位)

【参加者】

学部課程	学年
人文社会科学部人間文化課程	2
人文社会科学部人間文化課程	2
理工学部システム創成工	2
農学部食料生産環境学科	2
農学部食料生産環境学科	2
人文社会科学部国際文化課程	4

3. 成果

30年度の参加者である6名の学生らは全般的に遺跡、歴史、海外に対する興味関心が向上した。帰国後に様々な勉強を進め、海外留学を含め、国際性を高める意識が見られた。

4. 経費

平成30年度留学生交流支援制度（ショートビジット）プログラムにより8名分、1 名当たり7万円の支援が受けられることが決定していたため、1名を除いて奨学金を付与し個人負担は軽減できた。プログラム参加費は基本的に学生の自己負担の形で行い、30年度は約12万円になった。（上記の奨学金を得た学生の自己負担は約5万円）

報告 ：アンデス・カールキビスト

国際研修 SCIP：台湾 （経済交流と持続可能な社会）

1. 研修の概要

本研修では、親日国である台湾を研修地として海外から日本がどのように見られているかについて体験的に学んだ。さらに、既存の日台交流活動を踏まえ、将来的な可能性や岩手とのさらなる交流のリソースを探すことを目的としたプロジェクトを実施することにある。研修には日本語を主として使うため、異文化理解を深めるための言語的ハードルは低いと思われる。研修は本学協定校である国立高雄師範大学に依頼した。研修内容は挨拶など簡単な中国語の研修のほかに、文藻外語大学の日本語学習者対象にインタビューを実施して台湾人の目を通した理解の深化、日本とのビジネスや共同研究を実施する研究所やショップの訪問、地元商業施設などの調査を通して、岩手からどのような経済交流が可能かを考え、最終日にはポスター発表を実施した。帰国後参加者の中からさらに日台のプロジェクトに参加し、日本から台湾訪問者を増加させるためのプロジェクトに加わる学生も出た。本研修にはプロジェクト活動があるため、岩手大学教員が引率した。

2. 海外研修内容

【スケジュール】

3 月 19 日（火） 成田空港第 1 旅客ターミナル集合 10:30 成田(12:25)-高雄国際空港(15:45)BR107 午後：チェックイン	3 月 20 日（水） 午前：オリエンテーション 午後：金屬工業研究發展中心訪問 (14:00-16:00)	3 月 21 日（木） 午前：初級中国語研修 午後：国立高雄師範大学の学生との交流会	3 月 22 日（金） 午前：初級中国語研修 午後：文藻外国語大学訪問(15:00-17:00)	3 月 23 日（土） 午前：高雄市立歴史博物館訪問(10:00-12:00) 午後：プロジェクト活動
3 月 24 日（日） 終日；劉淑恵老師による地理学視察	3 月 25 日（月） 午前：初級中国語研修 午後：拍拍 Pets' and Design 訪問@台南市(13:00-16:00)	3 月 26 日（火） 午前：初級中国語研修 午後：プロジェクト活動	3 月 27 日（水） 午前：プロジェクト発表準備 午後：プロジェクト活動の成果発表	3 月 28 日() 午前：チェックアウト(4:30) 高雄国際空港(7:00)-成田空港(11:25)BR108 着後解散

【参加者】

人社学部 7 名、農学部 1 名

男女内訳　男子 1 名、 女子 7 名

【宿舎】

国立高雄師範大学の学生寮に 1, 2 名ずつ宿泊した。

3. 事前事後研修 （国際教育科目 2 単位）

回数	日付	授業内容	担当者
1	10 月 16 日	授業オリエンテーション 全体スケジュール、パスポートの有無、奨学金情報などの提供	尾中
2	10 月 23 日	ウェブサイトからわかる日台の経済交流の現状についてディスカッション	尾中
3	10 月 30 日	もりおか歴史文化館見学	尾中
4	11 月 6 日	岩手県庁職員から岩手県の台湾との交流の実際と課題について講話	岩手県商工労働観光部産業経済交流課海外マーケット担当主査石沢友紀氏
5	11 月 13 日	県庁職員から得た情報を整理	尾中
6	11 月 20 日	分担された書籍のブックレポートと質疑応答、ディスカッション。10 分／人。質疑 5 分程度。	尾中
7	12 月 4 日	分担された書籍のブックレポートと質疑応答、ディスカッション。10 分／人。質疑 5 分程度。	尾中
8	12 月 11 日	海外からの観光客誘致のための必要条件について考える	尾中
9	12 月 18 日	岩手県観光課職員による講話	岩手県観光課主任主査藤原ひろみ氏
10	1 月 8 日	台湾からの留学生による中国語研修と台湾文化の紹介	台湾人留学生
11	1 月 15 日	台湾人留学生との交流会	台湾人留学生2名
12	2 月下旬	出発前オリエンテーション。旅行スケジュール確認、海外研修の心得と持ち物の確認などを、ハンドブックを使用しながら行う。	尾中
13	4 月 8 日	帰国後：現地での学びを共有する	尾中
14	4 月 18:日	帰国後：帰国報告会	尾中
15	4 月上旬	帰国後：最終レポートを提出する	尾中

4. 奨学金

JASSO 奨学金が条件を満たした 7 名に給付された。

5. 報告会

報告会はポスターセッションを実施し、岩手県庁職員の訪問や岩手日報の取材があった。

報　告　:尾中夏美

国際教育科目

1. 国際協力・開発援助論

貧困を始めとした開発途上国が直面する諸問題について考察するとともに、開発に関連して生起する諸問題や、国際協力・開発援助の仕組みや政策、国際協力分野におけるキャリアパスについての理解を深めることを目的とする。国際協力・開発援助に関わる政府、NGO、国際機関等、様々なアクターの特徴、開発に向けてのアプローチについての理解を深めた。学生の積極的な参加と発言を促すため、講義のみならず学生による発表やディスカッション、ワークショップを交えたアクティブラーニング形式で進めたほか、現場での体験談や交流を交えた授業とした。具体的には、実際のフィリピンの先住民族のニーズ調査に基づき、開発援助プロジェクトの計画・立案をプロジェクトサイクルマネージメント（PCM）を使い、ワークショップ形式で行い、援助現場の実際について理解を深めた。さらに、日本国際協力機構（JICA）を通じ被災地の復興現場の視察と研修に訪れたフィリピンの若手国家公務員 15 名と交流・意見交換会を実施した（10 月 23 日）。また、国際協力分野における公募情報の入手と応募方法、必要なスキルやキャリアパスについて演習を交えて理解を深めた。

報告：平井華代

2. 国際講義 Global Studies

This course was conducted in English and attended by both Japanese and international students. Through understanding Sustainable Development Goals (SDGs), this course aimes at fostering students' awareness of local and global issues around the following two categories: equity and sustainability. Local issues are often interconnected with global issues. It is imperative to be aware of and understand the relations and consider possible solutions to achieve sustainable society. The course focused on poverty, gender equality, population, and the movement of people at local and global level with focus on Japan and United States of America. Japanese and international students jointely participated in the course and active disucssions were observed, followed by lectures. The students conducted individual small scale researches on the above mentioned topics and made presentations in English.

報告：平井華代

3. Iwate Studies A・B

国際教育科目「Iwate Studies A・B」は日本語能力の低い留学生の為に行う日本文化のプログラムである。「Iwate Studies A」(前期)は岩手の歴史をテーマにし、講義と見学の繰り返しで行った。イントロダクション・講義① 先史(縄文時代～古墳時代)・見学①(岩手大学ミュージアム)・講義② 蝦夷(飛鳥時代～平安時代前期)・見学②(志波城の跡)・講義③ 平泉(平安時代中期～後期)・見学③(遺跡の学ぶ館)・講義④ 南部氏(鎌倉時代～江戸時代)・研修④(盛岡城跡、櫻山神社)・講義⑤ 盛岡市(江戸時代～大正時代)・見学⑤(岩手県立博物館)・講義⑥ 近代の岩手(昭和時代～平成時代)・見学⑥(盛岡市内:鉈屋町)・まとめ・復習の順で岩手の歴史を説明した。授業の基本的な形は講義だが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。

「Iwate Studies B」(後期)は岩手の文化をテーマにし、岩手大学内のサークルや盛岡市内の施設を見学する形で行い、復習のため幾つかの講義もあった。イントロダクション・仏教(報恩寺)・民俗学(岩手県立図書館)・茶道体験(盛岡公民会館)・神道(盛岡八幡宮)・南部鉄器(イワチュウ)・日本酒①(菊の司)・日本酒②(グラスと)・日本酒③(朝開)・伝統的な町作り(鉈屋町)・和食(刺身)・まとめ・復習の順で岩手において体験できる日本の様々な文化を勉強し、体験させた。

見学は大学負担でタクシー移動し、施設の利用料などは留学生・教員共に自己負担。授業は英語で行い、見学場所の各施設のガイドの英語力が低い際は教員が通訳した。30年度の参加者は前期8名、後期は6名であった。

担当:アンデス・カールキビスト

4. Comparative Japanese History A・B

「Comparative Japanese History」は日本語能力の低い留学生を中心に行う授業だが、日本学生も参加できる日本文化プログラムでもある。「Comparative Japanese History A」(前期)では日本神話をテーマにし、海外の様々な神話と比較を行った。イントロダクション・日本神話入門・日本神話と印欧神話・大陸からの影響①(セイント ジョージとスサノヲ)・大陸からの影響②(ギリシア神話と日本神話)・日本神話と東南アジア神話・日本神話と政治①(神武天皇)・日本神話と政治②(ヤマトタケル)・地方の神話と「風土記」・地方の神話と自治制(出雲神話)(2回)・日本神話と貿易・奈良時代仏教の伝説・復習・まとめの順で様々な視点から日本神話を説明した。

「Comparative Japanese History B」では江戸時代の日本をテーマにイントロダクション・歴史的な背景・家族・商品・政治(2回)・外交(2回)・社会・経済・娯楽(2回)・宗教・復習・まとめの順で講義を行い、江戸時代の日本を様々な視点から説明した。

授業の基本的な形は講義だが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。教材として「Comparative Japanese History A」の授業内では『古事記』を始め『日

本書紀』、『出雲国風土記』、『日本霊異記』などの資料を英訳で読んだ。教室内で英語を使い、基本的に英語の論文も宿題として読み、レポートを英語で書かせた。「Comparative Japanese History B」では Constantine Nomikos Vaporis『Voices of early modern Japan』を読む予定が有ったが受講生不足のため休講になった。

本授業履修を契機に留学生に限らず日本の学生も知らない日本文化や歴史に触れ、知り得なかった史実を深く勉強できた。30年度参加者は前期7名（6名は留学生、1名は日本学生）で、後期は休講した。

担当：アンデス・カールキビスト

5. Japanese Traditional Culture A（いけばな A）

「Japanese Traditional Culture A」は留学生、日本の学生が組んで、専攻や学年制限なしで参加できる日本文化プログラムである。前期に行い、日本いけばな（池坊）をテーマにし、イントロダクション（1回）・いけばなの歴史①（いけばな入門）・盛り花の稽古（5回）・いけばなの歴史②（いけばなの伝統）・生花（しょうか）の稽古（5回）・復習（2回）の順で日本の文化の1つであるいけばなを勉強、体験した。

授業の基本的な形はお稽古だが、留学生と日本の学生の交流の場にもなり、いけばなの歴史の勉強を行った。教室内では英語を使い、日本の学生にとっては英語の練習にもなった。花材は留学生に自己負担した。（お稽古1回につき千円、計10回のお稽古の花材は合計一万円）

この授業履修を契機に留学生に限らず日本の学生も知らなかった日本文化や歴史に触れ、知り得なかったそれらを深く勉強できた。30年度の参加者は10名（5名は留学生、5名は日本学生）。

担当：アンデス・カールキビスト

6. グローバリゼーションと世界（平成 30 年度前期）

6.1 授業の目的・到達目標

今日、様々な場面で使われる「グローバリゼーション」という言葉の意味及び、グローバル化の実際の状況に関する認識を深め、受講者が、社会生活を営む際に有益な情報及び知見を提供することが本講義の目的である。「グローバリゼーション」とは何かというテーマにつき、その概念の意味の検討及び今日の状況につき、情報、人、市場、富、環境といった観点から検討を行う。到達目標は、「グローバリゼーション」という概念の意味と、実際に世界で起こる諸現象について理解することである。

6.2 授業の概要

最初に、「グローバリゼーション」という言葉の意味に関する議論を概観し、その解釈につき議論を行った。その後、「情報とグローバル化」では、情報伝達の加速・情報量の増大とリアリティの把握の可能性に関して議論し、「人とグローバル化」では、人の移動、人的資本に関する現状を概観した。「富とグローバル化」では、富の移動と平等・不平等につき、「市場とグローバル化」では、市場の開拓の必要とその歴史的展開を、「環境とグローバル化」では、地球の歴史と人類の歴史、環境問題と今後の展望につき概観し、グローバリゼーションの現状に関する理解を深めた。

6.3 授業の形式

講義と学生参加の発表及びディスカッションを交えて行なった。

報告：石松弘幸

7. 多文化社会論（平成 30 年度後期）

授業の目的・到達目標：今日の多文化社会における様々な問題と共生のための課題について、理論的視角と取り組みのケースを学習することによって、今後受講者が日本や外国の多文化社会や共生のありかたについて議論をするための、一つの礎を提供することが本講義の目的。到達目標は今日の多文化社会における様々な問題と共生のための課題を理解することである。

授業の概要：今日の多くの社会は「多元的である」とか「多文化的である」といわれる。また、同時に多元的・多文化的な社会において、他者や異文化との共生の必要性も議論されている。たしかにグローバリゼーションのもとで国境を越えた人の移動も多くなり、複数の文化によって構成される国においては、先住権や文化維持権をめぐる論争などもしばしば見受けられるが、今日の多元社会や多文化社会においてはなにが問題とされ、他者や異文化と共生をするためには、どのような課題が解決されなければならないのだろうか。この講義では、主に現代政治理論の分野における多文化社会の理論や論争を紹介し、ヨーロッパの多文化社会をめぐる問題と共生に向けての制度やその他の取り組みについて議論を行った。

授業の形式：講義と学生参加の発表及びディスカッションを交えて行った。岩手県庁や国際交流協会を訪問し、多文化状況への対応及び国際交流の関係者にインタビューを行い、意見交換も実施した。

報告：石松弘幸

短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究報告

1. 概要

交換留学文系コースおよび日本語日本文化研修留学生に対する必修科目として「個別研究」を課している。今年度は、グローバル教育センター専任教員４名の指導・助言の元、それぞれのテーマで研究し、日本語または英語でポスター発表を行った。（なお、芸術系コースの学生については、それぞれの所属において、作品制作などに取り組み、作品発表会を行った。）

2. 研究テーマ

各学期の研究テーマは以下の通りである。

前期　　（発表会　　平成 30 年年 7 月 24 日）	
所属	研究課題
韓国・群山大学	日本の大学生の主観的幸福感ー岩手大学生の事例からー
フランス・ボルドー第３大学	女武士
フランス・ボルドー第３大学	ヴィジュアル系
フランス・ボルドー第３大学	日本でのフェミニズムの認識
タイ・ｻｲｱﾑ大学	飲み会のマナー
タイ・ｻｲｱﾑ大学	外国人がラーメン屋に行って気がつくこと
中国・西北大学	明治時代と現代の芸妓の勉強内容の比較

中国・西北大学	「武士道」と「三国志演義」に基づく　忠義精神の考察
中国・西北大学	外国語を勉強してもどうして話せないのか ―日本語学習者を例として―
アメリカ・ﾉｰｽｾﾝﾄﾗﾙｶﾚｯｼﾞ	日本の中でのキリスト教カトリック
中国・清華大学	日本現代文学における上海体験
アメリカ・アラスカ大学アンカレッジ校	日本の少子化
アメリカ・テキサス大学オースティン校	ローマ字の活用と未来
アメリカ・テキサス大学オースティン校	日本人の食生活
ﾛｼｱ・ｻﾝｸﾄﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立文化芸術大学	オウム真理教の事象に関する日本の青少年の意識 ：岩手大学生の場合
ﾛｼｱ・ｻﾝｸﾄﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立文化芸術大学	岩手大学におけるロシア語学習

後期　　（発表会　平成 31 年 1 月 22 日）	
所属	研究課題
韓国・群山大学	日本の大学生の韓国語学習
中国・寧波大学	日中宴会文化に関する対照研究
中国・寧波大学	芸能人の活動の日中比較
中国・寧波大学	日中大学生経済状況における比較研究 ーアルバイトを中心としてー
中国・曲阜師範大学	日中音楽著作権の比較　ーカラオケを例として―
中国・曲阜師範大学	日中の幼稚園の比較
中国・曲阜師範大学	源氏物語から見た　　平安貴族の桜に対する思い
ﾛｼｱ・ｻﾝｸﾄﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立文化芸術大学	方言の理解と使用
ﾛｼｱ・ｻﾝｸﾄﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立文化芸術大学	日本語とロシア語のビジネスｅメールの比較
中国・西北大学	延安時期の女性雑誌の独立意識比較について
アメリカ・ノースセントラルカレッジ	日本の宗教の見方

3. 現状と今後の展開

今年度も、研究に初めて取り組む学生が多く、研究手法等の説明を集合授業で行った。十分に教育効果が見られることから、今年度も最終報告はポスター発表の形式をとった。また、日本語力が十分ではない履修対象者が増えていることから、研究内容を充実させることを優先させ、英語での発表も一部認めることとし、言語能力に配慮した。

指導学生数は、今年度も昨年度とほぼ同数だったため、グローバル教育センター専任教員での指導体制を継続したが、原籍校の卒業論文をテーマとする学生もいること

から、受け入れ教員の指導も受けさせることなど、指導体制について検討が求められる。

報告：松岡洋子

北東北国立3大学＋東北大学合同合宿研修

1. 実施概要

本合宿研修は、留学生と日本人学生との共修教育の連携を図ることを目的とし秋田大学、弘前大学と本学の３大合同で学平成 16 年度から行われている。岩手大学は教養教育科目「多文化コミュニケーションＢ」の一環として実施し、また、第３期中期計画の大学間連携事業として位置づけられたものである。今年度は昨年度に引き続き東北大学も参加し４大学での実施となった。活動としては、大学紹介、学生主導によるアイスブレーク、大学混成のグループでの共同作業として文化差を表す漫画創作を行った。

実施時期・場所　：　平成30年11月 24日（土）～25日（日）　　岩手山青少年交流の家

参 加 者　：

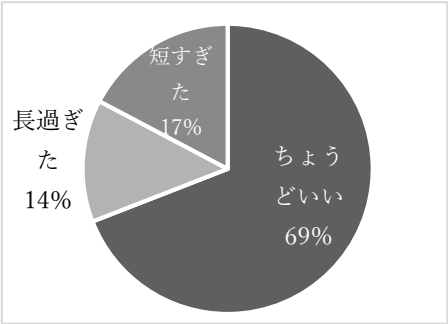
	秋田	岩手	東北	弘前	計
日本人学生	7	21	3	16	47
留学生・外国人学生	12	17	19	20	68
引率・指導教職員	2	2	1	1	6
計	21	40	23	37	121

経　費：　　参加者は各自2500円を施設利用経費（食費4回分、シーツクリーニング代）として負担し、移動費（借り上げバス）および文具等経費は各大学で負担した。

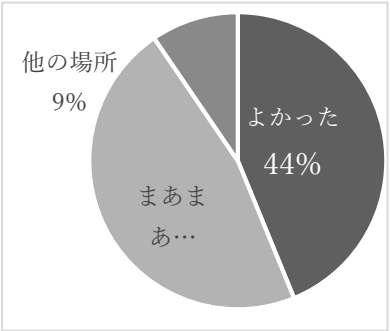
2. 参加者の反応

参加者アンケートの結果は概ね肯定的であり、共修教育の効果が認められた。以下にアンケート結果を記す。

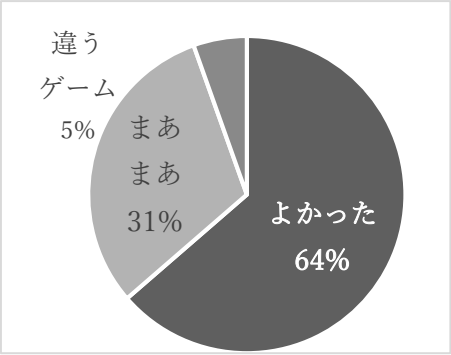
合宿期間



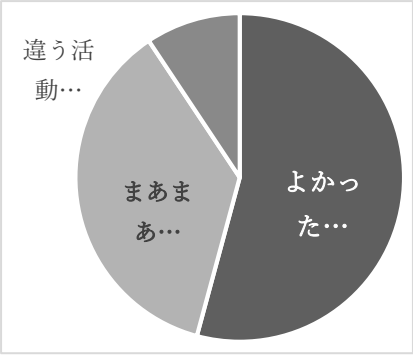
会場



コミュニケーションゲームの満足度



共同作業（文化差漫画作成）



＜感想＞（自由記述）＊一部抜粋。下線部分は学びの効果として筆者が加筆。

・ほかの大学の学生と一緒に合宿して私たちにとっては良いコミュニケーションだ。みんな一緒にゲームして楽しかった。また、作業をする時一緒にアイディアを出すために頭をしぼって一緒に作品を完成するように頑張りまして、チームワークが大切であることに気づいた。そして国によって異文化で自分の国だけではなく、ほかの国の文化も勉強になった。みんな楽しくて完成して、また友達になってうれしい。2日間でみじかい

ですね。離れることが悲しい。次の機会が、楽しみしだ。

・他大学の学生と共同作業をするということでマンガの作成は意見をだし合う中でのディスカッションにより共通の話題が見つかることや、他国ならではの体験などを聞くことができ非常に良い内容だったと思う。しかし、作業をしない時間も少々あった気はするので、その時間は作業にあてるもしくは学生全体で自由にディスカッションや交流をする時間にあててもよかったと思う。他大学の留学生と交流できたので非常に良い思い出になった。

・他の大学や他の国の学生と交流した。とても楽しかった。他の国の文化を知って、新しい知識をたくさん学んで、視野を広げた。

・活動自体は良かったが、場所が手狭だったので、もっと広い場所の方が良いと思う。

・多様な言語や異なる大学の人たちと交流できたことで、今まで知らなかったこと、発想などたくさんのことを学べた。また、中国人の友だちが中国語でコミュニケーションしているのを見て、自分も中国語を勉強しようと強く思った。

・私は中国、韓国の学生と活動した。おかげで中国と韓国の文化をたくさん学ぶことができた。ネットでは知りえない、同年代同士だからこそ話し合える話題もあって楽しかった。他の国の方とももう少し話す機会があればよかったと思う。

・勉強、生活をしている環境が違うので、それぞれの考え方の違いや文化の違いがあって、それを楽しみながら話をすることができた。始めは不安だったが、すぐに打ち解け

ることができてよかった。

・話せる学生たちが少し限定されているように感じた。もっと簡単で色んな活動をしてほしい。

・It was fun and interesting. But I think if the number of students are lesser, the more we can interact with other students.

・他の文化で生きてきた人たちと交流することで、それが自分の文化を見直すきっかけとなり、他国の文化に関する知識が増えるのとともに、自分の文化に対する理解も深まってよかった。

3. まとめ

留学生と日本人学生の共修教育として、異文化及びコミュニケーションの重要さに対する気づきを促進する教育効果が一定程度認められる。しかし、4 大学で実施することで全体の規模が拡大し、施設面、教育効果面で課題が散見された。次回は、弘前を会場に、北東北国立 3 大学での実施が予定されている。

報告：松岡洋子

デ・ラ・サール大学（フィリピン）英語研修

1. 研修の概要

本プログラムの概要は以下の通りである。

① 本プログラムは参加者が英語イマージョン環境を実現させ、かつ財政的負担をできるだけ軽減した英語研修プログラムとして実施した。

② フィリピンはマン・ツー・マン指導で知られるが、多国籍のクラスメイトとの英語による交流の教育的意義を重視することから、通常英語クラスへの参加とした。受講科目は現地で実施されるプレースメントテストの結果に従ったレベルから各自が 3 科目を選択した。

③ 岩手大学とデ・ラ・サール大学は 3 年間の事業協定を締結し、デ・ラ・サール大学が実施する英語コースに 9 名の学生を派遣した。

④ 学生寮への手配や授業料の支払い、事前事後研修など、研修実施に係るロジスティックスは CIEE に外部委託した。

⑤ 現地から事後に送付される評価表に従い、翌年度 7 月に単位認定手続きを教員が一括して行う。

2. 実施内容

【スケジュール】

履修説明会　11 月 1 日（木）
事前研修　1 月 18 日（金）　第 1 回オリエンテーション
　　2 月 18 日（月）　第 2 回オリエンテーション
海外研修　2 月 27 日（水）～3 月 23 日（土）
事後研修　4 月 5 日（金）

【参加者】

教育学部　1 年生 2 名　2 年生 2 名　3 年生 1 名
農学部　1 年生 4 名

男女内訳　男子 4 名、 女子 5 名

【受講科目一覧】

科目名	受講人数
Conversational English	7

English Grammar	10
Reading Comprehension & Vocabulary	4
Grammar	6

3. 課題

授業に他大学の日本人参加があり、日本人のみのクラスになった。今後の課題としたい。

報　告　:尾中夏美

ヤングリーダーズ国際研修@陸前高田報告

1. 研修概要

ヤングリーダーズ国際研修は陸前高田市グローバルキャンパスにおいて、「グローカルな交流資源と持続可能な社会」をテーマとして、地域社会に存在する外部との交流資源を多様な視点から検討し、新たな活用について提言にまとめ、日英両言語で発表する。今回は防災をテーマとした陸前高田市の姉妹都市であるクレセント市の中高生との交流事業計画を企画した。さまざまな国、地域の学生が協働し、社会的課題について考え、その解決策を探る力を養成することが本プログラムの大きな目的である。岩手大学の他、立教大学や西南学院大学などから集まる日本人と留学生の参加者が協働作業を通じて、自覚を持ったリーダーとしての役割を果たすことで、グローバル・コミュニケーション技能の向上を図る。

2. プログラム期間

日　程		活　動
9月1日（土）	午前	岩手大学に集合
		防災・減災についてのワークショップ
	午後	陸前高田市に移動、市内視察
		防災局防災課中村吉雄課長補佐による講話（市役所）
9月2日（日）	午前	気仙大工左官伝承館において武蔵氏、村上氏による講話
	午後	自主防災リーダーによる講話（グローバルキャンパス）
		コミュニティーセンターと防災関連品の備蓄場所視察
		避難経路視察
		避難所炊き出し訓練（アバッセ「ほんまるの家」）
9月3日（月）	終日	クレッセント市中高生と陸前高田市中高生の合同防災
		研修プログラム企画立案作業（グローバルキャンパス）
9月4日（火）	終日	同上
9月5日（水）	午前	発表準備（グローバルキャンパス）
	午後	戸羽市長を迎えて研修プランの発表会（グローバルキャンパス）
		終了後盛岡に向けて出発

3. 参加者内訳（計23名）

岩手大学参加者　14名（内　留学生8名）

立教大学参加者　　4名（内　留学生2名）

西南学院大学参加者　2名
岩手大学大学院生リーダー　3 名
引率教員　　2 名（岩手大学グローバル教育センター　松岡洋子・尾中夏美）

4. 活動場所

主な活動場所：陸前高田グローバルキャンパス　https://rtgc.jp/
宿舎　　：二又復興交流センター　http://pact-rt311.org/hutamata/

5. 活動の様子

最終日の活動はガンダイニングの取材を受けた。

報　告：尾中夏美

海外研修「カリフォルニア・イノベーション研修」「グローバル・プロ養成プログラム」

1. 趣旨と概要

グローバル・プロ養成プログラムとカリフォルニア・イノベーション研修は日本の他大学と合同で開催され、他大学から参加した大学生とともにカリフォルニア州シリコンバレーの企業訪問、現地でグローバルに活躍する日本人、日系人による講話と交流、スタンフォード大学・サンノゼ州立大学訪問と米国大学生との意見交換と意見報告会などの活動を通じて、グローバルなキャリア意識を高めることを主眼とした研修である。カリフォルニア・イノベーション研修における約1週間の研修参加者には事前のオリエンテーション、事後に帰国報告を行った。

2. 実施内容

【スケジュール】

カリフォルニア・イノベーション研修　2018 年9月8日～16 日

【単位付与】

カリフォルニア・イノベーション研修　全学共通教育科目「キャリアを考える」2単位

グローバル・プロ養成プログラム　　国際教育科目「海外研修」2単位

国際教育科目「海外研修事前事後研修」2単位

3. 参加者

カリフォルニア・イノベーション研修

教育学部　　4 年生　1名（女子）

4. 奨学金付与

グローバル・プロ養成プログラムには JASSO 奨学金2か月分が用意されたが、利用できなかった。

5. 募集チラシ

報告：尾中夏美

米国アーラム大学サイスプログラム関連事業報告

1. 2018 年度サイスプログラム概要

岩手大学では米国インディアナ州にあるアーラム大学と 2003 年 8 月 11 日に学術協定を締結し、2005 年度にはさらに学生交流の覚え書きを交わした。本学はアーラム大学が毎年盛岡市に学生を派遣して実施するサイスプログラム（SICE: Studies in Cross-Cultural Education）に対して以下の支援を行っている。

(1) サイス学生に対する日本語教育の提供

(2) サイスプログラムの引率教員がサイス参加学生に対して授業を行う教室の提供

また、サイスプログラム参加学生は岩手大学の学園祭である不来方祭でも留学生会と協力して模擬店を出すなどして、岩手大学学生と連携しながら大学行事にも参加している。今年度のプログラムの概要は以下の通りである。

受け入れ期間：2018 年 8 月 27 日（月）～11 月 29 日（木）

参加人数：6 名

2. ハローパーティー

岩手大学生とサイス学生との交流の場を提供する目的で、ハローパーティー（日英での交流）を行った。

日時：10 月 4 日（木） 16:30-18:00

3. English Camp

アーラム大学サイスプログラムと岩手大学の共同事業として、English Camp を実施した。詳細については本報告書「地域への支援事業」を参照。

4. 学内留学

サイス学生は引率教員の専門分野の講義をアーラム大学の教育プログラムの一環として英語で受講する。岩大生の英語能力向上に資する為岩手大学とサイスプログラム担当者とで協議して、若干名の岩大生がサイスプログラムの引率教員の講義を聴講できることとなり、岩手大学ではこれを「学内留学」と呼んでいる。履修学生には単位付与は行っていなかったが、今年度から人文社会科学部専門科目として単位が与えられることになった。しかし、今年度は履修者がいなかった。

5. アーラム大学サイスプログラム引率教員による特別講義

サイスプログラムの受け入れ期間中に一度、例年引率教員は国際月間の事業として専門分野に関連した特別講義を実施する。今回は、「日米の所得格差：測定の課題、傾向と比較」と

題してワバッシュ大学の Kealoha Widdows 教授が平易な英語を使って 11 月 15 日に講演会を実施した。

報　告:尾中夏美

平成 30 年度新入生オリエンテーション報告

1. 実施したオリエンテーション等（前期及び後期にそれぞれ実施）

・留学生オリエンテーション

国際課及び保健管理センターから、新入生に必要な手続き及び日本での生活や履修登録等について説明を行った。また、盛岡東警察署から生活上の注意点について説明があり、安全・快適な新生活をスタートさせる一助とした。説明は、グローバル教育センター及び国際課教職員が英語及び中国語の同時通訳を行った。

・国際交流会館オリエンテーション

新入居者の紹介を兼ね、入居者全員を対象に国際交流会館での生活上のルール及び寄宿料等についての説明を行った。説明後は入居者の自己紹介の時間とし、入居者相互の交流の場とした。

・キャンパスツアー及びライブラリーツアー

キャンパスツアーでは、サークルU、岩手大学留学生会及び中国人留学生学友会が中心となり、岩手大学キャンパスの各施設の場所や行き方について、案内及び説明を行った。

ライブラリーツアーでは、学内の図書館の使用方法の説明を行った。留学生は、英語グループと中国語グループに分かれ、図書館職員から説明を受けた。サークルU、岩手大学留学生会、中国人留学生学友会及びグローバル教育センター教員が図書館職員の説明を英語又は中国語の通訳を行った。

・チューターオリエンテーション

平成 30 年度にチューターを行う学生に対して、チューターの概要説明、注意事項及び手続きについて説明を行った。

2. 各種オリエンテーション等の実施日程等

2.1 前期

(1)留学生オリエンテーション

日　時：平成 30 年 4 月 10 日(火)14:00～14:55
会　場：理工学部　銀河ホール
対象者：40 名

(2) キャンパスツアー、ライブラリーツアー

日　時:平成 30 年 4 月 10 日(木)14:30～15:30

会　場:図書館等

対象者:40 名

(3)国際交流会館オリエンテーション

日　時:平成 30 年 4 月 5 日(木)10:00～11:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:13 名(国際交流会館入居者)

(4)チューターオリエンテーション

日　時:平成 30 年 4 月 13 日(金)16:30～17:10

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:55 名

2.2　後期

(1)留学生オリエンテーション

日　時:平成 30 年 9 月 26 日(水)14:00～14:10

会　場:理工学部　銀河ホール

対象者:46 名

(2)キャンパスツアー、ライブラリーツアー

日　時:平成 30 年 9 月 27 日(木)15:30～16:30

会　場:図書館等

対象者:46 名

(3)国際交流会館オリエンテーション

日　時:平成 30 年 9 月 28 日(金)11:00～12:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:15 名(国際交流会館入居者)

(4)チューターオリエンテーション

日　時:平成 30 年 10 月 12 日(金)16:30～17:10

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:59 名

海外留学支援事業

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

1. 海外留学・研修オリエンテーション

実施日程:5 月 18 日(金)～24 日(木)

オリエンテーションの内容は、表 1 の通りである。

表 1. プログラム

日付	時 間	内 容
5 月 18 日	12:00～13:00	課題解決シンガポール研修(人社)
	16:30～17:20	国際ボランティア・国際エコボランティア(全学)
	16:50～17:20	国際研修@フィリピン―貧困と持続可能な社会(全学)
5 月 21 日	12:10～12:25	体験報告:国際研修@イタリア―工芸体験報告(全学)
	12:25～12:40	体験報告:国際研修@台湾―国際ビジネス(全学)
	12:40～12:55	体験報告:国際研修@北欧―エネルギーと持続可能な社会(全学)
	16:30～16:50	岩手大学派遣プログラム概要説明
	16:50～17:10	国際研修@イタリアーデザイン(全学)
	17:10～17:30	ドイツ短期研修(農学)
	17:30～18:00	国際研修@北欧―エネルギー、国際研修@インドネシア―世界遺産(全学)
5 月 22 日	12:10～12:40	シリコンバレー短期研修・インターンシップ研修(全学)、事前事後研修説明
	16:30～16:50	米国・カナダ交換留学説明(全学)
	16:50～17:20	国際研修@台湾―国際ビジネス(全学)
5 月 23 日	12:15～12:35	トビタテ！留学 Japan@ニュージーランド(スカイプにて)
	12:35～12:55	トビタテ！留学 Japan 地域人材コース@ドイツ
	16:30～16:50	岩手大学派遣プログラム概要説明
	16:50～17:20	国際研修@フィリピン―貧困説明と体験報告(全学)
	17:20～17:50	フィリピン英語研修説明と体験報告(全学)
5 月 24 日	16:30～16:50 16:50～17:10	岩手大学派遣プログラム概要説明 フランス交換留学・短期研修(人社)
	17:10～17:30	ロシア交換留学(全学)

	17:30～17:50	隊短期教育実習・北米交換留学等（教育）

2. 留学説明会

全学対象の交換留学申請のための説明会を以下のように実施した。

日程：7 月 12 日（木）

対象となるプログラム：（米国）テキサス大学オースチン校、アーラム大学

（カナダ）セント・メアリーズ大学

3. 個別留学相談

個別留学相談は学生それぞれで異なる空き時間に個別対応するため、不定期に実施している。相談受付のポスターは常時掲示しているので、希望者は国際課を通すか直接メールで相談時間を予約する。平成 30 年度はのべ 71 件の留学相談があった。トビタテ！留学 Japan 全国版や地域人材コースに関する相談が増加した。

表 2.所属別のべ人数

学部	人社学部	教育学部	理工学部	農学部
学部生	5	14	3	15
院生	0	0	0	1

4. Super English, Step-up English, Foundation of English

留学や海外研修を目指す学生の英語基礎トレーニングコースとしてステップ・アップ・イングリッシュを実施し、またこのコース修了者で一定レベルに達した学生対象に、TOEFLiBT®で交換留学が可能となるレベルに到達させることを目標とする Super English を実施している。1 学期 11 週間開講し、英語力で一定条件を満たす学生が Step-up English を履修できる。

表 3. 受講者数

		2018 年度前期					2018 年度後期				
SUE	所属学部	人社	教育	理工学	農学	合計	人社	教育	理工学	農学	合計
	人数	1	2	0	0	3	1	1	0	4	6
SE	所属学部	人社	教育	理工学	農学	合計	人社	教育	理工学	農学	合計
	人数	3	2	0	1	6	1	1	1	1	4

5. 国際月間

日程：11月1日（木）～11月30日（金）

（報　告:尾中夏美）

多言語多文化交流空間 Global Village

1. 活動概要

(1)グローバル教育センターは学生センターB 棟 1 階に常設する多言語多文化交流空 Global Village(以下グローバルビレッジ)において、以下の 3 事業を展開している。

①グローカルイベント・ワークショップ(国際交流・異文化理解・地域理解)

②日本語カフェ(日本語で留学生と交流、会話)

③English Time(英語個別相談、指導)

(2)活動は今年度 205 回(上記事業①41 回、②36 回、③127回)実施した。参加人数の合計は延べ 1589 名であった。うち、留学生は延べ 688 名(43%)、日本人学生は全学部から延べ 901 名(57%)(表1)。多様な国際企画の元、留学生と日本人学生が活発に集い、グローカルな体験を積む機会を創出することができた(図1)。

	グローカルイベント	日本語カフェ	English Time	English Time イベント	合計
開催回数	41	36	127	1	205 回
参加者総数	694	427	454	14	1589 名
内留学生 (交換留学生数)	424 (130)	224 (182)	8 (0)	3 (1)	688 名 (313 名)
内日本人学生	294	203	446	11	901 名

表1　2018 年グローバルビレッジ活動回数及び参加者内訳

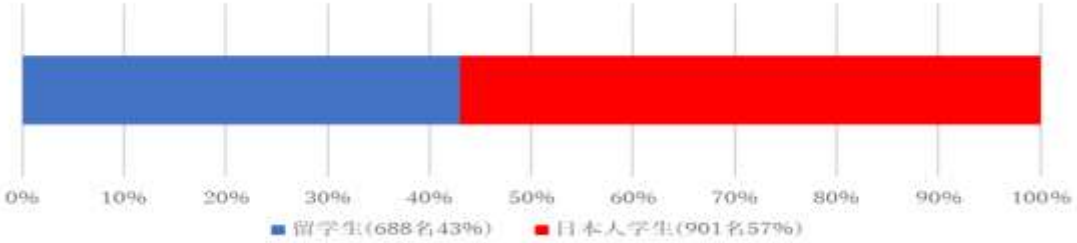


図1　グローバルビレッジ参加者中留学生と日本人学生の割合

2. グローカルイベント・ワークショップ

(1)国際交流・異文化理解・地域理解に関わる 41 のイベントを開催した(表2)。イベント内容は、伝統文化を楽しむクリスマスパーティーや新年会、フィリピン行政官との意見交換などの

「交流事業」を 9 回、留学生のお国文化紹介など「留学生による企画」を 9 回、外務省の国際キャリアセミナーや英語によるロボットワークショップなどの「講演」を 12 回、ネパールでのインターンや海外研修体験など、「学生体験談」を 11 回実施した。これら留学生と日本人学生が共修する多種多様な国際教育の企画を実施し、キャンパスにいながらグローカルな体験を積む機会を提供した。参加者アンケート調査の結果、参加者の 100%が「参加してよかった」という高い満足度を示し（図2）、国際交流・異文化理解への関心を喚起することができた。運営面では、広報資料・ツールの充実化と広報場所の拡大を図った他、理工学部キャンパスでの実施を試行した。学生スタッフの育成は、常駐教員と学生スタッフとの定期会合の実施と連絡指導体制の強化により、連携と学生スタッフによる運営能力が向上した。その結果、学生によるイベントの企画運営が約半数にのぼり、国際的企画運営能力や発表力が順調に育成された。

No.	日時	種類	企画名	講師・進行	内容
1	2018 年 4 月 28 日 12:10- 12:50	交流 ①	Welcome Party	学生スタッフ	新規交換留学生との交流会を実施した。
2	5 月 24 日 10:30- 12:00	講　演 ①	外務省による国際キャリアガイダンス	外務省国際機関人事センター 木下悠矢氏 岩手大学 村上清学長特別補佐/客員教授 平井華代准教授	JPO 制度の情報提供のほか、元国連職員による体験談を実施。グローバルキャリアパスへの関心を喚起した。高校生の参加があった。
3	5 月 28 日 12:10- 12:50	留　学 生①	パキスタンと日本比較 レクチャー	アブールアサール (パキスタンからの教員研修生)	自国と日本の教育の相違点について発表した。
4	6 月 5 日 13:00- 14:30	講　演 ②	グローカルセミナー「NGO で働くには」	特定非営利活動法人緊急開発支援機構 JADE パレスチナ事務所 滝田　裕之氏	国際人道援助 NGO の現場での職務や職場環境などの講演を実施した。
5	6 月 14 日 10:30- 12:00	講　演 ③	グローカルセミナー 「地域に広がる子ども食堂」	NPO 法人インクルいわて 山屋理恵理事長	盛岡市内で実施されている子ども食堂の事例と社会包摂への

					取り組みについて講義した。
6	6 月 15 日 12:10- 12:50	交　流 ②	多言語で 折り紙	学生スタッフ	折り紙に関するクイズや作品づくりを実施した。フィリピン大学講師が参加した。
7	6 月 18 日 12:10- 12:50	学　生 体　験 談①	海外インターンシップ体験談ベトナムと カンボジア	須田槙一 (人文社会科学部二年)	ベトナムとカンボジアでのインターンシップ体験談を行なった。
8	6 月 22 日 12:10- 12:50	留　学 生②	ロシアンミュージックコンサート	スミノヴァマリア (ロシアの交換留学生) ヤズマメドヴァ　アイヌル (トルクメニスタンの交換留学生)	コンサートが行われ、多くの観客が訪れた。
9	7 月 6 日 12:10- 12:50	交　流 ③	七夕	学生スタッフ	話の鑑賞・クイズ・短冊書き・笹飾り付け等を体験した。
10	7 月 10 日 16:45- 18:00	交　流 ④	さんさ体験	岩手大学国際課職員山下千佳氏	留学生をはじめとする参加者が岩手の文化を体験した。
11	7 月 13 日 12:10- 12:50	講　演 ④	太極拳	岩手大学非常勤講師佐竹一郎氏	太極拳の体験型ワークショップを実施した。
12	7 月 20 日 12:10- 12:50	留　学 生③	タイ LGBT	アピワットポン　ワシン (タイの日研生)	タイの LGBT について事例報告した。
13	7 月 25 日 12:10- 12:50	留　学 生④	ソビエト映画	スミノヴァマリア (ロシア交換留学生) ヤズマメドヴァ　アイヌル (トルクメニスタン交換留学生)	ロシア(ソビエト)のコメディ映画に関するプレゼンテーションを行なった。

14	10 月 19 日 12:10- 12:50	交　流 ⑤	Welcome Party	学生スタッフ	2018 年度後期、新規の交換留学生入学に伴い、歓迎会を実施した。
15	10 月 22 日 12:10- 12:50	学　生 体　験 談②	ネパールでのインターン体験レクチャー	佐藤由季也(教育学部 4 年)	ネパール NGO での教育インターンでの体験を語った。
16	10 月 25 日 12:00- 13:30	交　流 ⑥	JICA 研修員(フィリピンの行政官)と学生の交流会	平井華代准教授	フィリピン人 JICA 研修員 15 名、日本人学生 12 名、アメリカ人交換留学生3名が英語で意見交換を行った。
17	10 月 29 日 12:10- 12:50	留　学 生⑤	パキスタンと日本の教育比較レクチャー	アブールアサール(パキスタンからの教員研修生) 平埜あゆみ(教育学部 3 年) 千葉夕里奈(教育学部 3 年)	アサールさんがパキスタンの教育を紹介し、千葉さん、平埜さんが教育実習での体験を基に日本の教育を紹介した。
18	11 月 5 日 12:10- 12:50	学　生 体　験 談③	SCIP プログラム報告会	尾中夏美教授 松岡洋子教授	グローバル教育センターが主催する課題解決型海外研修(SCIP) プログラム参加者による体験談を実施した。
19	11 月 13 日 12:10- 12:50	学　生 体　験 談④	海外留学体験報告会①	学生スタッフ 国際課職員	各学部の留学プログラム・トビタテ留学 JAPAN・交換留学プログラムに参加した学生(各回 3 名)が留学の報告を行なった。
20	11 月 15 日 12:10- 12:50	学　生 体　験 談⑤	海外留学体験報告会②	学生スタッフ 国際課職員	
21	11 月 16 日 12:10- 12:50	学　生 体　験 談⑥	海外留学体験報告会③	学生スタッフ 国際課職員	

22	11 月 20 日 12:10- 12:50	学生体験談⑦	海外留学体験報告会④	学生スタッフ 国際課職員	
23	11 月 21 日 12:10- 12:50	学生体験談⑧	海外留学体験報告会⑤	学生スタッフ 国際課職員	
24	11 月 22 日 12:10- 12:50	学生体験談⑨	海外留学体験報告会⑥	学生スタッフ 国際課職員	
25	11 月 30 日 16:30- 18:00	学生体験談⑩	トビタテ留学 JAPAN 留学報告会	尾中夏美教授 国際課職員	秋田大学、岩手大学、弘前大学の6名の学生が報告した。
26	12 月 7 日 12:10- 12:50	講演⑤	カンフー体験ワークショップ	岩手大学非常勤講師佐竹一郎氏	盛況だった一回目を受け、再度カンフー体験会を実施した。
27	12 月 10 日 12:10- 12:50	講演⑥	日本語学校での体験談	會田篤敬特任助教	日本語学校での教員経験を語った。
28	12 月 14 日 12:10- 12:50	講演⑦	英語読解学習法講座	會田篤敬特任助教	英語読解学習法を教えた。
29	12 月 17 日 12:10- 12:50	学生体験談⑪	留学体験談	山口大河 (人社 2 年) 吉田太一 (理工 2 年)	山口さんがインドネシアへの留学体験を話し、吉田さんはスウェーデンでの留学体験について語った。
30	12 月 20 日 12:10- 12:50	交流⑦	クリスマスパーティー	学生スタッフ	ゲームやクイズを通じ、国籍の垣根を超えた活発な交流を行った。
31	2019 年 1 月 15 日 16:30- 18:00	講演⑧	国連難民映画祭（UNHCR）2018（シリアに生まれて）	学生スタッフ	シリア難民について映画を通じ問題意識を醸成した。
32	1 月 21 日	講演⑨	英語聴解学習法講座	會田篤敬特任助教	英語聴解学習法を指導した。

	12:10- 12:50				
33	1 月 22 日 12:10- 12:50	講　演 ⑩	ロボット作りワークショップ	岩手大学非常勤講師サイモン氏	英語でロボット作りを行なった。
34	1 月 22 日 12:10- 12:50	留　学 生⑥	交換留学生による個別研究修了発表会	松岡洋子教授	交換留学生がポスター発表を行なった。
35	1 月 25 日 12:10- 12:50	講　演 ⑪	大学院体験談/日本語教育	国際課相川和慶氏 會田篤敬特任助教	日本の大学院(修士課程/日本語教育分野)生活を語った。
36	1 月 28 日 12:10- 12:50	留　学 生⑦	インドネシアと日本:教育比較	ベロニカプスパサリ氏(インドネシア教員研修生)	滞在経験を元に、教育の共通点と相違点を語った。
37	1 月 31 日 12:10- 12:50	交　流 ⑧	ニューイヤーパーティー/ 新年会	学生スタッフ	餅つきの実演と実食等正月を楽しむ新年会を実施した。
38	2 月 1 日 12:10- 12:50	留　学 生⑧	日本語研修コース修了 発表会	松岡洋子教授	留学生が日本語で「わたしのくに」を発表した。
39	2 月 1 日 12:10- 12:50	講　演 ⑫	対人心理学 講座	會田篤敬特任助教	対人関係が円滑になる心理学的視点を教えた。
40	2 月 4 日 12:10- 12:50	留　学 生⑨	留学生による 日本留学 体験談	ザッカリーイアン(アメリカからの交換留学生) 黄勝楠(中国からの交換留学生) 馬春燕(中国からの交換留学生) アブールアサール(パキスタンからの教員研修生)	アメリカ・中国・パキスタンからの交換留学生が日本での思い出についてプレゼンテーションを行なった。
41	2 月 8 日 12:10- 12:50	交　流 ⑨	留学生の お別れ会	学生スタッフ	ゲームや交流など 2 月修了の交換留学

					生を対象にお別れ会を実施した。

表 2　2018 年度に行われたグローバルビレッジ活動の一覧

(2)参加者の満足度:アンケート調査より

参加者のアンケート調査によると、有効回答数 196 のうち、169 名(86%)がとても良かった、27 名(14%)が良かったと返答し、100%の参加者による満足が得られた(図 2)。

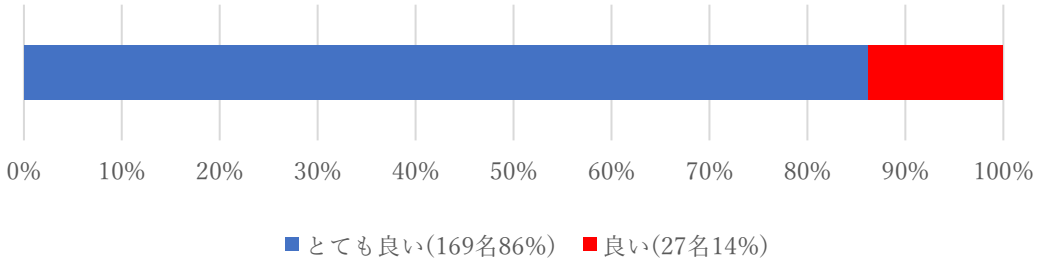


図2　参加者満足度

3. 日本語カフェ

日本語カフェを 36 回実施した(開催日程は表 3 に記す)。参加者数は延べ 427 名であった(参加者の内訳は図 3 に記す)。火曜日と木曜日の昼休みに開催し、昼食の持ち込みも可能であった為、手軽に国際交流に参加できる機会を提供できた。日本人学生にとっては日本語で国際交流ができるというメリットがあり、留学生にとっては日本語学習支援を受けることができるため、双方にとって有意義な機会となっていた。また、日本語カフェに参加した学生がグローカルイベントや English Time に参加する動きも多数見られたため、日本語カフェが多くの学生にとっての国際交流への入り口になっていたことも窺えた。

開催月	開催日
5 月	8 日、10 日、15 日、17 日、29 日、31 日
6 月	5 日、7 日、12 日、14 日、18 日、19 日、21 日、26 日、28 日
7 月	3 日、5 日、10 日、12 日、17 日、19 日、26 日
10 月	11 日、16 日、18 日、23 日、30 日
11 月	開催なし
12 月	4 日、6 日、11 日、13 日、18 日
1 月	10 日、15 日、24 日、29 日
2 月	開催なし

表 3 日本語カフェ開催実績一覧

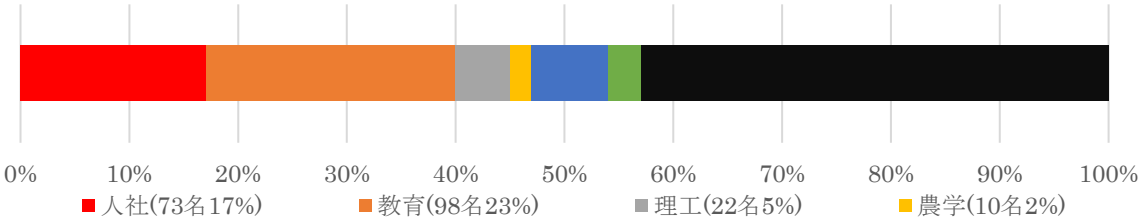


図 3　English Time 参加者内訳

4. English Time（英語個別相談）

English Time を 127 回実施した（開催日程は表 4 に記す）。参加者数は全学部から延べ 454 人であった（参加者の内訳は図 4 に記す）。前期は担当教員 2 名（英語ネイティブ教員 2 名）が担当していた。後期からは日本人教員 1 名が加わり、担当教員 3 名の体制で行なわれた為、英語を話すことに抵抗がある学生も気軽に利用できる環境を提供できた。また、学生間での口コミが様々な学生の参加を促していたこと、及び一度きりではなく何度も参加している参加者が多数いたことから English Time 参加者の満足度の高さが窺えた。相談内容としては、英会話練習・英語学習方法に関する相談・留学準備・TOEFL 等のテスト対策・英語プレゼンテーションの確認が主なものであった。

開催月	開催日
5 月	2 日、7 日、9 日、14 日、16 日、17 日、21 日、23 日、24 日、25 日、28 日、30 日、31 日
6 月	4 日、6 日、8 日、11 日、13 日、14 日、15 日、18 日、20 日、22 日、25 日、27 日、29 日
7 月	2 日、4 日、5 日、6 日、9 日、11 日、12 日、13 日、18 日、19 日、20 日、23 日、25 日 26 日、27 日、30 日
10 月	1 日、2 日、3 日、4 日(2 回)、5 日、9 日、10 日、11 日(2 回)、15 日、16 日、17 日、18 日、19 日、22 日、23 日、24 日、25 日(2 回)、26 日、29 日、30 日、31 日
11 月	1 日、2 日(2 回)、5 日、6 日、7 日、8 日、9 日(2 回)、12 日、13 日、14 日、15 日、16 日、19 日、20 日、21 日、22 日、26 日、28 日、27 日、29 日、30 日(2 回)
12 月	3 日、4 日、5 日、6 日、7 日(2 回)、10 日、11 日、12 日、13 日、14 日、17 日、19 日、18 日、21 日
1 月	7 日、9 日、11 日、15 日、16 日、21 日、22 日、23 日、25 日(2 回)、28 日、29 日、30 日、31 日
2 月	1 日(2 回)、5 日、8 日、12 日、15 日、19 日、26 日

表 4　English Time 開催日一覧

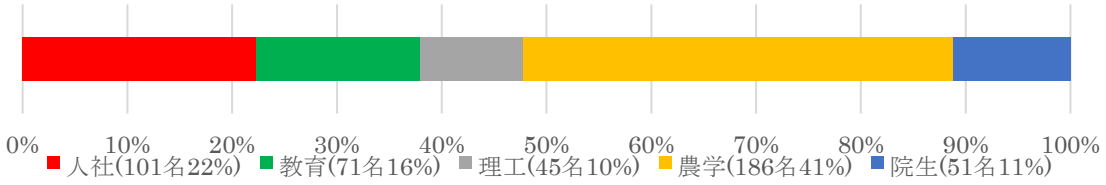


図 4　English Time 参加者内訳

5. まとめ

多言語多文化交流空間 Global Village 開設から 3 年目を迎えた今年度は、3 事業の常時展開、活動の多様化と広報の拡大を実現した結果、参加者総数が 1589 人となり、前年度比 3 倍の伸びとなった。これを可能としたのは、Global Village 常駐教員、グローバル教育センター教員、学生スタッフ、関連部局、協力いただいた教職員、学生、地域の方々との連携強化と創意工夫によるところが大きく、この場を借りて感謝したい。

留学生と日本人学生参加者割合は凡そ 4:6 で、双方が積極的に参加する活発な国際教育プログラムを展開し、参加者 100%から満足を得た。学内にいながらにして国際環境を創出し、学生のグローカルな体験の場を創出の場を提供する、という当初の目的は達成されたといえる。運営面における今年度の具体的な改善点は以下の通り。

・広報資料の充実、広報場所の拡大と広報ツールの多様化(Twitter、Instagram 開始)

・イベント実施場所の多様化(理工学部キャンパスでのイベントの実施)

・学生スタッフとの定期会合の開始と学生スタッフによる運営機能の強化

次年度は、今年度までの活動を踏 ko まえ、戦略的な活動展開を図る。本学独自のグローカルな教育活動の場としての Global Village を、学生及び地域の国際共修の場として発展させたい。

報告:平井華代、 會田篤敬

IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ報告

1. 概要

グローバル教育センターでは、岩手に顕在化するグローバルな課題を理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営している。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成する。対象は新カリキュラム学生（平成 28 年度～30 年度入学生）である。

2. コースのコンセプトと構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の 4 つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されている。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与される。A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に1つ以上受講・参加し、一定程度の Global Mileage を獲得した者には IHATOVO グローバルコース履修認定証を授与する。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰を行う。また、海外研修、留学などの際にインセンティブを与えることも検討されている。なお、今年度までは試行期間とし、全学年が新カリキュラムに移行する平成 31 年度より本実施とする。

IHATOVO グローバルコース・ゴールド達成 2000 マイル以上獲得
IHATOVO グローバルコース・シルバー達成 1200 マイル以上獲得
IHATOVO グローバルコース・ブロンズ達成 800 マイル以上獲得

【教育活動の分類】

カテゴリー	推奨授業（例）	推奨課外活動（例）
A. 外国語	英語発展等	Foundation of English, Super English、ニイハオ！漢語、海外語学研修等
B. ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	多文化コミュニケーション、現代の諸問題等	グローカル語り場、多文化ｷｯｽﾞｷｬﾝﾌﾟ、English Camp 等
C. 国際教養	地域と国際社会、Comparative Japanese、国際講義等	がんちゃん国際フォーラム、国際講演会等
D. 実　践	地域課題演習 E,F、海外研修―世界から地域を考える、キャリアを考える等	学内留学、海外インターンシップ、国際ボランティア等

3. 実施状況

平成 30 年度は、外部委託システム manaba の運用を停止し、情報基盤センター技術部が構築した Global mileage system に運用管理を全面的に移行した。これは、毎年必要となる manaba の利用経費を削減すること、また、管理を一元化して効率的にプログラムを運用するためである。これに伴い、IHATOVO グローバルコース参加は、これまでの学生の自主的な参加宣言による manaba 登録によるものではなく、Global mileage の獲得実績により認定するよう変更を行った。また、過去 3 年間の試行による実績を勘案し、認定マイル数の見直しを図った。さらに、理工学部で展開されたグローバルポイントを当システムに統合し、学部の類似事業との連携を図った。

4. 今後の展開と課題

Global village においてマイル付与対象事業を大幅に増加させたこと、対象授業を徐々に増加させたことにより、マイル獲得学生が増加してきた。また、情報基盤センター技術部の協力により、当該課外事業のマイル登録を簡便にするため、カードリーダー方式による登録システムを構築し、運用を開始したことで、登録にかかる時間や確認作業の効率が大きく改善された。ただし、マイル付与対象事業、授業の増加により、領域区分の見直しなどを要する点が派生し、今後改善を行う。次年度は全学部生が新カリキュラム対象学生となることから、認定、表彰を定期的に行う予定である。

報告：松岡洋子

―地域支援・地域連携業務報告―

地域日本語教育支援事業報告

3.　事業の趣旨

外国出身の住民が増加する地域社会のコミュニケーション課題解決の一助とすることを目的として、地域日本語教育支援事業を平成 17 年度から継続実施している。平成 30 年度は、子どもの学習支援事業（情報交換会、指導者研修会および合宿研修)、地域の日本語教育に関する情報交換事業を実施した。

4.　事業内容

2.1　子どもの学習支援事業

A. いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日時：　平成 30 年 7 月 11 日（水）15 時～16 時 30 分

場所：　岩手大学学生センターA 棟会議室

参 加 者：岩手県教育委員会　佐々木　淳一　　盛岡市教育委員会　熊谷　一史

一関市教育委員会　伊藤　彰子　　(公財)岩手県国際交流協会　畠山　智禎

いわて多文化子どもの教室むつみっこくらぶ　村井　好子

岩手大学教育学部 大野　眞男（議長）

グローバル教育センター　松岡　洋子　　国際課長　八重樫　敬（事務局）

＜協議内容＞

・研修会、学習支援活動等の協議会としての事業の報告および計画（指導者研修会、多文化ｷｯｽﾞ ｷｬﾝﾌﾟ等）を承認後、各地域教育委員会および民間支援団体からの活動報告を経て情報交換を行った。今年度は文科省の日本語指導が必要な児童生徒の調査年にあたり、現在、調査結果を集計中であること、民間の支援者の活動継続が困難に

なっていることを含め指導・支援体制が整備されていないことなどの課題が共有された。なお、NIKK は支援者の都合により活動が休止されている。

B. 平成 30 年度日本語指導が必要な外国人児童生徒等指導者研修会

日時： 平成 30 年 10 月 23 日（火）10:00-16:15

場所： 岩手県盛岡地区合同庁舎 8 階講堂 B・C

主催： 岩手県教育委員会　岩手大学グローバル教育センター

いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会

参 加 者： 39 名

内　容：

1. 報告「日本語指導に関する国、県の動向」（県教育委員会　佐々木淳一）

2．事例報告　桜城小学校　八木橋　智子　　久慈小学校　荒川　守

3．情報交換（グループ討議）

4．ワークショップ「教科学習につなげる日本語指導の在り方～初期指導を中心として～」

（豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築樋博子）

＊参加者の反応から、外国につながる児童生徒に対する日本語教育、特に学習言語指

導の必要性に対す

る認識が現場で共有されていないことが明らかになった。しかし、岩手県の場合、当該児童生徒が少数

散在のため、指導体制の構築が困難であり、このような研修を継続しながら、情報を広めることが必要で

あることが確認された。

C. 多文化キッズキャンプ

日時：平成 30 年 1 月 12 日（土）～13 日（日）

場所：岩手山青少年交流の家（岩手県滝沢市）

参加者：子ども　26 名　留学生 15 名　日本人学生 14 名 保護者　4 名　スタッフ

6 名　計 63 名

概要：

外国人散在地域である東北地方では、学内外を問わず外国につながる子どもの学習、生活に関する指導・支援体制の整備が困難である上に、子ども自身やその家族、支援者が孤立する傾向がある。このような状況に対して、子どもたちの日本語学習・教科学習支援と交流を目的として平成 19 年度から合宿研修を実施している。今年度は岩手県内のほか、青森、宮城からも関係者が参加した。今年度は、本学の学生に加え、東北大学、東北学院大学の学生たちの協力も得た。経費は、中島国際交流財団助成金、

岩手大学グローバル教育センターおよび東北多文化アカデミーの資金と個人参加費により支弁した。

＜成果と課題＞

協議会総会および指導者研修会は定例化しており、県内の外国人児童生徒指導に関わる機関、団体のネットワーク機能を果たしている。子どもの教育に関わる課題については、教育学部の更なる参画が望まれるが、人的対応が困難な状況にあり、今後、検討が求められる。また、事業予算の確保、実施体制についても、関係機関等の連携を図る必要がある。

2.2 日本語学習支援情報交流事業

日本語学習支援ネットワーク会議 18 in 山形

日 時 ： 2018 年 9 月 30 日（日） 10：30－16：20

場 所 ： 過剰セントラル（山形市）

主 催 ： 日本語学習支援ネットワーク会議１8 in 山形実行委員会

参加者： 8０名

内 容 ： 午前 全体会 10:30－12:00

［報告］山形県の在住外国人の現況について後藤崇文（山形県国際交流室）

［講演］外国人散在地域における日本語学習支援の在り方を考える～

「生活者としての外国人」のための日本語教育の視点から～

北村祐人（文化庁文化部国語課）

午後 分科会

［第一分科会］ 寄り添う学習支援とは

司会：足立祐子（新潟大学）

発題：余語美香（酒田市国際交流サロン）　横沢由実（ヤマガタヤポニカ）

財部仁子（神戸 YMCA 学院専門学校）

［第二分科会］　やさしい日本語の使い手の養成

司会：内海由美子（山形大学）　講師：柳田直美（一橋大学）

＜成果と課題＞

平成１７年度より始まった「日本語学習支援ネットワーク会議」は、東北地区の大学、地域の日本語学習支援に関する関係者、関係機関のネットワークを活用し情報交流を継続しており、今年度は山形のネットワーク強化につながった。来年度は国際教養大学が中心となり秋田での開催が予定されている。外国人住民の増加に伴い今後は行政との連携につながる情報交換会につなげていく必要がある。

報告：松岡洋子

岩手県留学生交流推進協議会事業報告

1. 岩手県留学生交流推進協議会総会

平成 30 年 11 月 19 日(月)、岩手大学学生センターB 棟1階多目的室で岩手県留学生交流推進協議会総会を行った。

総会には 15 の構成団体が参加し、平成 29 年度事業報告に続き、平成 30 年度事業計画として、①広報誌「留学生いわて」№31 の発行、②「第6回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展」の開催、③「グローバルキャリアフェアin岩手」への協力、④外国人留学生フィールドツアーin Tohoku、外国人留学生フィールドスタディ in Iwate の開催について、それぞれ審議のうえ実施することとした。

また、「平成 30 年度トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム地域人材コース」の採択状況や構成団体の平成 30 年度地域交流等実施計画、平成 30 年 5 月 1 日及び 11 月 1 日現在の各高等教育機関に在籍する外国人留学生数、平成 2 年度～29 年度間の岩手県内留学生数の推移やその間 10 回にわたり実施した岩手県内外国人留学生アンケートについて報告があった。

2. 本協議会協力事業「グローバルキャリアフェア in 岩手」の開催

岩手県及びいわてグローカル人材育成推進協議会(会長:岩手県知事 達増拓也)では、昨年度に引き続き、2018 年 11 月 3 日(土・祝)にホテルメトロポリタン盛岡を会場として「2018 グローバルキャリアフェア in 岩手」を開催した。

フェアには、外国人の採用に関心がある製造業やサービス業、旅行業など県内 17 の企業・団体が出展し、約 50 名の県内留学生や国際交流員等が参加した。参加企業からは、「採用したいと思う人材に会うことができた」、「たくさんの方と話すことができた」等の評価をいただいた。当協議会では、今後も関係団体等と協力しながら、県内留学生等の県内就職や定着に向け取り組んでいく。

3. 第5回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展

毎年開催している“ 岩手のいいところ” 写真展は、今年度から初めてインタグラムを活用し、岩手県内の大学・専門学校に在学中の留学生から写真を募りました。結果、合計 67 作品がインスタグラムをとおし投稿され、その中から 11 作品が受賞した。

受賞作品に限らず、「わたしと岩手」というテーマのもと、留学生が美しいと感じた岩手の景色や風景、岩手で暮らす留学生の日常を切り取ったようなものなど、多様で趣のある写真が多く投稿されました。受賞作品の中には、最も多くて 137 件もの「いいね！」が付く等、インスタグラムをとおして写真が投稿されたことにより、世界中の方に岩手をテーマとした写真を楽しんでいただく機会にもなった。

平成 31 年2月 20 日に行われた表彰式では、受賞者に表彰状と各協賛企業から提供された賞品が贈呈された。岩手県留学生交流推進協議会長の岩渕明岩手大学長からは留学生に対し、「素晴らしい写真を投稿いただき感謝します。留学生の皆さんは、日本人とは違う視点で岩手の魅力を見出すことができるでしょう。勉学と共に、四季折々の風光明媚な自然等、魅力を多く持つ岩手の良さを、自分自身でも堪能するとともに、ぜひ世界に向けて発信していってください。」とお祝いの言葉が贈られた。

＜協賛団体＞

株式会社久慈琥珀
八幡平リゾート株式会社
岩手大学滝沢農場
軽米町山下善昭

＜表彰作品＞

(1)岩手県留学生交流推進協議会長賞
馬　春燕(マ シュンエン)　中国／岩手大学
(2)株式会社八幡平リゾート株式会社
ERDENEBAATAR TSETSEGJARGAL(エルデネバータル ツェツェグジャルガル)
モンゴル／岩手大学
LE THI QUE ANH（レ ティ クエ アン） ベトナム／盛岡情報ビジネス専門学校
(3)株式会社久慈琥珀賞
NGUYEN DIEU LINH(グェン ディエウ リン)　ベトナム／盛岡情報ビジネス専門学校
BUATONGSRI PUWANART(ブアトンシー プワナート)　タイ／岩手大学
LE THI NGOC ANH(レ ティ ゴック アン)ベトナム／盛岡情報ビジネス専門学校
(4)いいね！賞(いいね！数による選出)
ASAR ABUL(アーサル アブル)　パキスタン／岩手大学
(5)事務局優秀賞
TSERENSAMBUU MANDUKHAI(ツェレンサンブー マンドハイ)
モンゴル／盛岡情報ビジネス専門学校
WANG QIN WEI(オウ シンイ)　中国／上野法律ビジネス専門学校

報告:国際課

地域への支援事業 (English Camp)報告

1. 趣旨

本事業は東日本大震災直後から釜石市、田野畑村への教育支援として、岩手大学と岩手大学の協定校である米国アーラム大学が協働して運営する事業である。合宿期間中、英語だけで行う体験学習を通じて、中学生たちに国際交流に興味を持つきっかけを作るとともに、英語学習への意欲を育み、広く世界で活躍できる人材(グローバル人材)の基礎を構築することを趣旨とする。同時に、岩手大学生は英語を実用的に使いながら、文化背景の異なるチームメイトと協働作業を行うことにより、言語能力、異文化対応力、積極性などの向上が見られることが、教育効果として検証されている。今年度は地域創生専攻の院生1名がグローバルコミュニケーション科目履修のリーダーとして参加した。

2. 実施内容

【期　間】

2018 年 11 月 10 日(土)～11 月 11 日(日)

【場　所】

国立岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢村)

【参加者】

中学生:	田野畑中学校　3 名	釜石中学校　3 名	岩大付属中学校　2 名
	飯岡中学校　1 名	黒石野中学校　2 名	大宮中学校　2 名
	北松園中学校　1 名	仙北中学校　1 名	下橋中学校　1 名

岩手大学生: 6 名　アーラム大学生: 6 名　ALT: 5 名

引率教員: 岩手大学 1 名　アーラム大学 2 名　釜石市 1 名

【研修内容】

日本語でのオリエンテーション終了後は日本語使用禁止で 2 日間を過ごした。岩手大学生と留学生は混在小チームに分かれ、英語を使ったゲームやクラフト作りなどの活動を企画運営した。中学生は学年や所属中学校が異なる生徒を組み合わせて留学生、日本人大学生と同室宿泊させることで、英語を使うことと同時に「知らない人」とのコミュニケーション能力を育成する機会も提供した。

DATE	TIME	ACTIVITIES
November 10	11:30-12:00	Orientation（オリエンテーション）
	12:00-13:00	Lunch
	13:00-13:50	Session 1& 2 at Plaza Ihatovo
	14:00-14:45	Session 3
	14:50-15:35	Session 4
	15:35-16:00	Break（休憩）
	16:05-16:50	Session 5 at the Gym
	16:50-17:30	Move to the Dormitory Wing（宿泊棟に移動）
	17:30-19:00	Dinner
	19:00-19:45	Session 6
	20:00-22:30	Take a bath.　Relax.　Get ready to go to bed.
	22:30	Lights out.　Good night!
November 11	6:30	Wake up!
	6:30-7:00	Get dressed.　Wash your face.
	7:00-7:30	Cleaning time
	7:30-9:00	Breakfast.　Move your bags to the seminar room.（持ち物を研修室に移動）
	9:00-9:50	Session 7
	10:00-10:055	Session 8
	10:55-11:15	Break
	11:15-12:00	Wrap-up（まとめ）and cleaning
	12:00-13:30	Lunch
	14:00	Departure

報　告：尾中夏美

留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～

2018 年のガーデンパーティーは 8 月 11 日(土)に行われました。ガーデンパーティーは、岩手大学留学生会と学生サークル「サークル U」等の主催により、岩手大学のキャンパスで開催されるもので、留学生と地域住民との異文化交流を目的としたものである。

当初は開催日を 7 月 7 日(土)に考えていたが、雨で中止となり、8 月 11 日に変更となった。日にちの変更と、お盆の直前だったこともあり、「お客さん少ないだろう」と思われたが、たくさんの方々が足を運んでくれた。

会場には、インドネシア・スペイン・モンゴル・タイ・バングラデシュ・中国・韓国・台湾など、九つの料理屋台が並び、来場者は留学生が作った各国の料理を楽しんでいた。ガーデンパーティー終了の 30 分前には売り切れの屋台も多く、地域の方や日本人学生が留学生と楽しく触れ合い、多種多様な文化を体験する貴重な機会となった。

1. 日時

平成 30 年 8 月 11 日(土) 12:00～15:00

2. 場所

岩手大学中央食堂前

3. 主催

岩手大学留学生会、サークルU、岩手大学グローバル教育センター、
公益財団法人盛岡国際交流協会、盛岡情報ビジネス専門学校

4. 参加者

学生・教職員・一般市民

5. 参加屋台

8 ヶ国・地域（インドネシア・スペイン・モンゴル・タイ・バングラデシュ・中国・韓国・台湾）

報告：国際課

高大連携ウィンターセッション報告

1. 概要

これまで 12 月下旬に高大連携ウィンターセッションが実施されており、グローバル教育センターから2コマの提供をしている。参加学生を 2 分割し、同時に 2 つの授業を教員 2 名で実施した。

2. 実施内容

【期　間】

2017 年 12 月 26 日（水）

【タイトル】

グローバルなマインドとグローカルなアクション

―グローバル化時代の地域リーダーに必要な知識と技能とは―（尾中）

―SDGs から考える世界と日本のこどもの貧困（平井）

【参加人数】

県内高校　1，2 年生　202 名

【研修内容】

参加高校生を尾中156 名、平井 46 名で 2 分割し、それぞれの教室においてアクティブ・ラーニング形式で授業を行った。1 グループは 5～6 名程度の小グループに分けた。グループが別々の学校所属の生徒で構成されるように、予め事務の方で座席表を作成してもらった。生徒たちは与えられたディスカッションテーマに沿って、初対面のチームメイト達と意見交換や情報共有などを行って、グローバルな視点から地域課題を考えたり、グローバルな課題と身近な課題の関連性に目を向けて課題について考えるという活動を体験した。

報　告：尾中夏美、平井華代

日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等

【海　外】

1　中国　「日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2017」、「協定校上海海洋大学訪問」

日　　時:5 月 13 日、14 日、15 日

場　　所:上海、杭州

参 加 者:岩渕明学長、上村松生副学長、平原英俊工学部教授、崔華月国際課

2　韓国　「日本留学フェア（韓国）」、「協定校明知大学訪問」

日　　時:9 月 9 日、10 日、11 日

場　　所:ブサン、ソウル

参 加 者:松岡洋子グローバル教育センター教授、朴賢淑三陸復興・地域創生推進機構准教授、竹原裕二入試課、山根康介国際課

【国　内】

1　外国人留学生のための進学説明会（東京会場）

日　　時:2017 年 7 月 9 日（日）

会　　場:【東京会場】 サンシャインシティ　文化会館展示ホール D

参 加 者:松岡洋子グローバル教育センター教授、福井ゆきの入試課、村山香織国際課

2　外国人留学生のための進学説明会（大阪会場）

日　　時:7 月 15 日（土）

場　　所:【大阪会場】梅田スカイビル　アウラホール及びステラホール

参 加 者:尾中夏美グローバル教育センター准教授、山根康介国際課主任

3　北東北国立三大学国際交流担当者による進学説明会

日　時:12 月 5 日（火）15:00～16:40（各大学紹介・質問タイム／大学毎に実施）

訪問先:盛岡情報ビジネス専門学校日本語学科

参加者:岩手大学、秋田大学、弘前大学国際交流担当教職員

【海　外】

1　中国　「日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2018」、「協定校華南理工大学訪問」

1．1　日中大学フェア&フォーラム　in CHINA2018

【概要】

日　　時:2018 年 5 月 12 日(土)～13 日(日)

場　　所:広州花園酒店（広東省広州市越秀区環市東路 368 号）

使用言語:日本語・中国語（同時または逐次通訳）

参 加 者:日中大学・高等専門学校学長(もしくは学長レベル相当者)
岩手大学参加者:上村 松生(副学長)・平原 英俊(理工学部教授)
崔 華月(国際課外国語専門員)・藤崎 聡美(理工学系技術部技術専門職員)

科学技術振興機構(JST)と中国の国家外国専家局が主催する大学・人材・技術交流を目的とする日中間最大規模のイベント「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018」が 5 月 12 日午後から広州市の花園酒店で開催された。

【プログラム】
5 月 12 日(土):日中大学学長等個別会談、日本大学フェア、日本技術展、日中交流会
5 月 13 日(日):日中大学フォーラム

■日中大学学長等個別会談
趣旨:日中の学長同士の意見交換を通じて、トップレベルの交流の促進につなげる
会場:広州花園酒店3F ファンクションルーム(アジサイ・ハイビスカス)
■日本大学フェア
趣旨:現地大学等との学術交流、協力関係締結、日本への留学希望者への情報提供
対象:中国の大学の国際交流担当者、日本へ留学希望の大学生・高校生等
会場:広州花園酒店3F ファンクションルームフロア
■日本技術展
趣旨:研究成果・技術シーズ展示を通じた、技術移転、国際産学連携の促進
対象:中国の大学・研究機関・企業の産学連携担当者等
会場:広州花園酒店3F ファンクションルームフロア
■日中交流会
趣旨:日中の関係者に人的ネットワーク拡大の場を提供する
会場:広州花園酒店 1 階国際会議センター

■日中大学フォーラム
趣旨:日中共同の課題について発表・議論し、日中韓の学術交流を深める
会場:広州花園酒店 1 階国際会議センター:第一部:第二部
3F ファンクションルーム:第三部
構成:第一部<開会式> 司会:中国国際人材交流協会弁公室主任 夏 兵
広東省人力資源・社会保障庁、広東省外国専家局:労 幟紅
文部科学省文部科学審議官:伊藤 洋一
中国科学技術部党組メンバー(国家外国専家局副局長):夏 鳴九

第二部＜関係機関による講演＞　司会：科学技術振興機構理事　甲田 彰

中国国際人材交流協会弁公室主任：夏兵

中小企業基盤整備機構副理事長：秋庭英人

日本技術士会専務理事：奈良人司

広東工業大学学長：陳新

国立高等専門学校機構理事長：谷口功

科学技術振興機構中国総合研究交流センター上席フェロー：沖村憲樹

第三部＜分科会（2 テーマ、5 会場）＞

A)ナンバーワンを目指す学科構築について

B）オンリーワンを目指す大学の経営理念について←本学のエントリーはこちら

【各事項の報告】

■日中大学学長等個別会談　5 月 12 日（土）　15:30～17:30

「日中大学学長等個別会談」は日中の大学の学長同士が直接交流する活動である。日中共に各大学(含：高専・関係機関)の学長・副学長・理事長などの代表者が参加したこの会談は、直接の「マッチング」として　非常に効果的な交流の場となった。双方にどのようなニーズがあるかなどの情報を交わすことにより、多くの協力プログラムや研究者派遣・交換留学など大学間交流の意向に関する基本的な方向性の把握に至った。本学では、上村松生副学長が下記の大学との会談を行った。

① 西北大学
② 河北外国語学院
③ 山東省科学院
④ 貴州医科大学
⑤ 石河子大学

■日本大学フェア　5 月 12 日（土）　15:30～17:30

30 を超す日本の大学・高専が出展し、現地の学生およびその保護者に各々の大学等の特徴をアピールした。日本留学に興味のある学生は各ブースで積極的に担当者へ質問をするなど、どのブースもにぎわっていた。その場で回答を得られるため、参加者の期待に応えた内容となったようだ。本学からは国際課の崔華月外国語専門員が参加者へ説明を行った。来場者リストと相談内容は以下の通り。

① 重慶長江師範学院
相談内容：日本語専攻学生の日本留学、交換留学プログラム、研究交流について

② 東北林業大学
相談内容：農業分野での交流について

③ 賀州学院
相談内容：修士課程のダブルディグリープログラム、学部生の交換留学プログラム、共

同研究について

④　銅仁学院材料化学工程学院

相談内容:博士課程への進学、共同学位プログラムについて

⑤　桂林航天工業学院

相談内容:英語での授業について

⑥　山東理工大学

相談内容:大学院の進学について、大学からの推薦にできないか

⑦　韶関学院

相談内容:学部生の交換留学、大学院の進学について

⑧　広西大学

相談内容:研究者交流、学部生の交換留学プログラムについて

⑨　桂林理工大学

相談内容:日本語専門の学生の交流、大学院の進学について

⑩　安徽省外国専門家局

相談内容:さくらサイエンスの受け入れについて

⑪　宿迁学院

相談内容:学部への進学、編入学について

⑫　広東科学技術職業学院

相談内容:学部への進学

⑬　天津工業大学

相談内容:理工系のインターンシップについて

⑭　鄭州市対外科学技術交流センター

相談内容:大学院生のさくらサイエンスの受け入れについて

⑮　井岡山大学

相談内容:研究者交流、学生交流について

対応:大学紹介パンフレットの配布と、相談内容に応じて、研究者紹介ページの紹介、入試制度(学部・大学院)の紹介をメインで行った。共同学位、英語による授業、短期サマープログラムなどについて、現在制度はないものの、今後実施を検討していることから、詳細についてはメール等で連絡することにした。

■日本技術展　5 月 12 日(土)　15:30～17:30

50 以上の日本の大学・企業が開発した多くの分野の技術が展示され、成果の実用化がアピールされた。自動車自動運転技術、自動車排ガス浄化触媒、産　業用ロボット、リハビリロボット、垂直離着陸機、8Kスーパーハイビジョン高精細ディスプレイ、スマートウォッチ、スーパーキャパシタ、ナノデバイス、工業廃水処理、医療器具、シニアライフ設備など、その分野は多岐にわたった。

本学からは理工学部の平原英俊教授が装置・デバイス分野に出展した。

■日中交流会　5 月 12 日(土)　18:00～20:00

「日中交流会」は科学技術振興機構(JST)と中国の国家外国専家局が主催する「日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2018」のプログラムのひとつである。日中両国の大学・高専・関連機関の学長・理事長や学術界の関係者が招待され、日中双方から約 800 人が参加した。

JST 中国総合研究・さくらサイエンスセンターの沖村憲樹上席フェロー、在広州日本国総領事館の齋藤法雄・総領事、広東省外国専門家局の楊佩軍副巡視員、JST の齊藤仁志副理事らの挨拶では、このイベントが年々規模を拡大していることや日中平和友好条約締結 40 周年を機にますます双方の交流発展に期待が高まること、今後も日中の相互理解を促進したいこと、そのためにはこういったイベントを人脈形成の場として活用して欲しいことなどが述べられた。

■日中大学フォーラム　5 月 13 日(日)　9:30～12:00　13:00～15:00

本フォーラムは日中交流会等の翌日に開催された。

午前の全体会は日中両国の 200 以上の大学、企業から集まった約 800 人が参加した。

広東省人力資源・社会保障庁の労幟紅副庁長、文部科学省の伊藤洋一文部科学審議官、中国国家外国専家局副局長で中国科学技術部党組織メンバーの夏鳴九氏らの挨拶では、折に触れ、中国改革開放 40 周年で日中平和友好条約締結 40 周年であることを強調したうえで、日中両国の大学間の協力と発展に立脚し、両国のテクノロジーや教育の分野の知恵の交流を促進すること、日中両国の大学のテクノロジー成果の転換・協力を深化させること、日中の大学の協力のための交流プラットフォームを構築していくことなどへの期待が述べられた。

午後の分科会では、日中の 54 校の学長、副学長が登壇し、「ナンバーワンを目指す学科構築について」「オンリーワンを目指す大学の経営理念について」という2つのテーマをめぐる論議を行った。分科会には、日中の大学 250 校の関係者が参加した。

本学からは上村松生副学長が登壇し、東日本大震災からの復興活動が本学の責務であることを紹介したうえで「以前の状態に戻すのではなくより良い状況を作るためには地域の活性化が必要で、その部分に大学の技術を活用するだけでなく、活用の先に人を育てることが重要である」と強調した。

尚、このフォーラムでは、午前の全体会・午後の分科会共に日本語・中国語の同時通訳が提供された。各会場に備え付けられた通訳ブースでは 2 名のスタッフが対応した。

1．2．華南理工大学訪問

日　　時:2018 年 5 月 14 日(月)9:30～

場　　所:華南理工大学/South China University of Technology(広東省広州市天河区五山)

岩手大学参加者：上村　松生（副学長）・平原　英俊（理工学部教授）
崔　華月（国際課外国語専門員）・藤崎　聡美（理工学系技術部技術専門職員）
華南理工大学対応者：康志新　教授（機械自動車工程学院教授、岩手大学 OB）
余莞婷　国际交流合作処職員
陳徳馨（機械自動車工程学院 D3、本学特別研究学生として在籍有）
華南理工大学面会者：王慶年　処長（国际交流合作処）

岩手大学理工学部と学術協定を締結している華南理工大学へ訪問し、学内施設等の視察や国際交流を担当する研究者との会談を行った。

華南理工大学は広州市内中心部よりやや西側に位置する大学で、広大なキャンパス内には図書館や講義・研究棟のみならず、教職員向けの住宅や学生寮、娯楽施設、ゲストハウスなどが備わっている。キャンパス内は移動用バスが往来するなど、設備面の充実も伺えた。

訪問中は華南理工大の康志新教授と康研究室の陳徳馨氏にご案内いただき、図書館や法学部講義棟（文化財指定）、ミュージアムを見学させていただいたのち、康教授の研究室並びに実験施設等を見学させていただいた。非常に広い実験室・工場施設には金属加工のための大型プレス機やワイヤー放電加工機、加工合金の濡れ性に関する接触角測定装置、環境への配慮のための金属分離揺床装置などが設置されていた。金属分離揺床装置などは導入されて日の浅い装置とのことだったが、先端研究の現場にも環境保全の観点が浸透しつつあることが見て取れた。

康研究室には昨年度のさくらサイエンスプランで平原教授の研究室に留学した学生が複数名おり、平原教授との再会を歓喜していたのが印象深い。留学プログラムを通して日本と中国との両国を知る学生が双方の懸け橋となり、さらに豊かな研究環境構築に貢献してくれることを願うと共に、こういったプログラムへの参加を通じて学生が豊かな経験を積めるよう、我々教職員が積極的にサポートする必要を強く感じた。

研究室並びに実験施設の見学後は、華南理工大学のゲストハウスにて国際交流担当の王慶年　処長主催による昼食会で持て成しを受けた。上村副学長と王副研究員との間では、今後の大学グローバル化推進に関する意見交換がなされ、双方の情報交流を密に進める旨の方向性を再確認した。

2　タイ・バンコク　日本留学フェア（JASSO 主催）

◇日本留学フェア（独立行政法人日本学生支援機構主催）

日　　時：8 月 26 日（日）9:30～17:00

場　　所：バンコク

参　加　者：理工学部　准教授　大坊真洋

グローバル教育センター　准教授　平井華代

国際課国際連携グループ　越田晶子

現地協力者：NARONGSAK PITCHAYAPISUT(現カセサート大学教員、岩手大学国際交流支援コーディネーター、元岩手大学修了生)

SAENYOT KHANUENGCHAT（元交換留学生、平成 30 年後期から岩手大学博士課程（総合科学研究科　理工学専攻）進学予定）

来場者数：バンコク会場 3,426 名

岩手大学ブース　56 名

主な相談事項：

・入試について（日程、必要な科目、手続き方法、語学要件（日本語能力試験）等）

・奨学金について（種類、金額、受給の可能生　等）

・日本での生活について（住居（寮・アパート）、生活費　等）

感　想：

・今回はタイ語版の大学概要を持参したが好評であった。現地の言語での対応は効果的だと思われる。（逆に日本語版の概要は担当者用のみでよい。）

・日本語でのコミュニケーションは困難なため、対応は英語及びタイ語となる。
今回は元留学生2名に手伝っていただき、タイ語で対応いただいたが、とても丁寧かつ熱心に説明いただき大変助かった。

・ブースを訪れない来場者（学生・保護者等）に対して、岩手大学の情報をまとめたチラシ等を配布して広報を行うことも効果的ではないかと感じた。

・留学生の視点で、必要な情報を英語で一箇所にまとめて提供できるホームページが必要。日本語と英語を混在させる方法は避ける。例えば、交換留学、インターンシップ、博士・修士入試、奨学金、留学生受け入れ促進プログラム、授業料免除、入学金免除、RA、特任研究員雇用、研究遂行協力員、宿泊（寮、民間）、英語版科目名リスト、英語版シラバス、修了要件などの情報を用意して簡単に辿りつけるようにする。

・就職まで面倒をみる現在の日本の工学系のやり方は、ユニークであり、上手くアピールできれば大きな強みになる。

◇協定校訪問

フェアの翌日には、協定校であるサイアム大学国際交流部を訪問し、担当の Carrie Zhu 先生と面会し、情報交換及び施設見学を行った。

3 マレーシア日本語学校訪問＆外国人留学生同窓会設立

○ 訪問目的

・外国人留学生同窓会マレーシア支部設立に向けて、卒業留学生との懇談会を行う。

・協定校であるマレーシアパハン大学訪問し、学生交流、研究交流、創立 70 周年記念国際シンポジウム等について打ち合わせを行う。

・本学への留学者増加につなげるため、帝京マレーシア日本語学院にて大学説明会を行う。なお、海外における国際広報業務を体験すること及びコミュニケーション能力の向上を目的とした海外業務体験研修として、国際課以外の若手事務職員 2 名も同行する。

○ 訪問期間 2018年11月30日（金）～12月5日（水）

○ 訪問メンバー

上村 松生　　副学長（農学部植物生命科学科教授）
山根 康介　　国際課主任
近村 元気　　学術情報課主任
伊藤 栞　　研究推進課主事

○概要

12 月 2 日 卒業留学生との懇談会

クアラルンプール市内ホテルにて、卒業留学生 5 名と懇談会を行い、外国人留学生同窓会マレーシア支部設立に向けて話し合いを行った。現在、中心となっている Isrami Ismail 氏は、卒業生 34 名の連絡先を把握しており、今後、会長を選出する等同窓会設立に向けて動いていく予定である。懇談会参加者は、日系企業に勤務したり、日本語講師であったり、卒業後も日本と関りがある人が多かった。懇談会はマレーシア支部設立に関する話題の他に岩手大学や日本での思い出を語る等、和やかな雰囲気で行われた。

12 月 3 日 マレーシアパハン大学訪問

マレーシアパハン大学ペカンキャンパスを訪問し、Mashitah 副学長表敬訪問を行い、お互いの大学紹介、岩手大学創立 70 周年記念国際シンポジウム開催のお知らせ、研究交流について話し合いを行った。工学分野では既に交流が進んでいるが、新たに防災分野での研究交流の可能性が感じられた。表敬訪問後は、ペカンキャンパスの動画作成スタジオ見学、語学授業の見学、研究室訪問を行った。昼食後、ガンバンキャンパスに移動し、研究室訪問を行った。日本で学位を取得した教員も多く、日本との研究交流に積極的であった。

※マレーシアパハン大学概要：工学と技術専攻の大学として創立。ガンバンキャンパスより 50km 離れているペカンキャンパスは 2015 年に完成した新設校舎。理工学部との部局間協定を 2010 年に締結。学部：薬学部、工学部、情報工学部、電気工学部、理学部、産業

マネジメント学部など

12 月 4 日　帝京マレーシア日本語学院での大学説明会

マレーシア政府派遣留学生候補者及び私費留学希望の学生併せて約 60 名を対象に岩手大学の紹介を行った。また、岩手大学を第1志望としているマレーシア政府派遣留学生候補者3名と面談を行った。

説明会後、大野好弘社長、清宮衛校長、炭谷憲一先生と情報交換を行った。その際、奨学金や岩手での生活等について質問があった。また、学生達が志望校を決定する時期が夏頃なので、春から夏に大学説明会を行うとより効果的であることがわかった。

4 カンボジア日本人材開発センター（CJCC）日本留学フェア

出張日程:2018 年 10 月 19 日（金）～10 月 20 日（土）
出 張 者:
　上村松生　副学長（国際連携・広報担当）・国際連携室長
　比屋根哲　連合農学研究科長
　石松弘幸　国際連携室　准教授
　山下千佳　国際課　主任
開催場所:カンボジア日本人材開発センター（CJCC）

≪フェア1日目≫
<u>インターナショナルスクールへの訪問</u>
日　　時:2018/10/19 9:30-11:00
場　　所:ñāsāstra International School (Boeung Keng Kang)
参 加 者:石松准教授、山下
参 加 大 学:東洋大学、国立6大学連合、亜細亜大学、岩手大学、立命館アジア太平洋大学

要点:
〇インターナショナルスクール施設内を見学後、校内のホールにてフェア参加大学の紹介及び質疑応答を英語にて行った。インターナショナルスクールへの訪問は日程に組み込まれていたものの、直前までどのような交流を行うのか不明だったため、大学紹介の事前準備をしていなかったが、参加した教員と職員で臨機応変に対応した。
〇大学紹介には、PC 等が使えない状況で、口頭や持参したマップを広げて紹介している大学が多かった。次回、同じような機会がある場合は、手持ちで日本地図や岩手の位置がわかるような地図を常に持参しておくと良いだろう。
〇説明会に参加した生徒は約200人。その中で日本への留学の興味があると思われるのは2

～3割程度であった（質疑応答の挙手の数から推測）。
○質疑応答では、日本に進学する際の奨学金はどのようなものがあるか、自分の学びたい専門が学べるかという質問が多かった。
○奨学金については、国立大学は国費に頼らざるを得ないが、私立大学は充実した奨学金プランを用意し PR に活用していた。

≪フェア2日目≫
日　　時：2018/10/20 8:30-16:00
場　　所：Angkor-Kizuna Hall, CJCC
参 加 者：上村副学長、比屋根連大科長、石松准教授、山下
参加大学：東洋大学、国立6大学連合、亜細亜大学、岩手大学、立命館アジア太平洋大学

要点：
○フェア2日目は大きく分けて、各大学の紹介（プレゼンテーション形式）と、ブースでのセッションで構成された。
○各大学の紹介は、午前と午後に用意されており、午前はブースが設置されているアンカーホールにて実施。持ち時間は各大学とも15分。持ち時間15分の前半で3～5分の大学紹介ビデオを放映した。本学は、岩手高等教育コンソーシアムで作成したビデオを使用した。一部内容が古くなっている部分があるため、大学広報ビデオ（英語版）の更新が必要であると感じた。
○ブースセッションでは、学部進学希望者33名、大学院進学希望者8名、非正規進学希望1名の合計43名が岩手大学ブースを訪れた。（来訪者名簿に記載があった者の数。記載せずに資料のみ配布の数も含めると50名以上が岩手大学ブースに訪れた。）来場者の割合は高校生が最も多く、次に名古屋大学日本法教育研究センター（カンボジア）で学んでいる学生が多いという印象。
○一大学ごとに一人のカンボジア人のアシスタントがサービスでついた。岩手大学ブースには前述の名古屋大学日本法教育研究センターの学生が来てくれ、ブースでの説明の際は非常に助かった。
○ブースでの質問は、自分の専門分野を岩手大学で学べるかということ、岩手大学に進学した際に得られる奨学金、岩手の位置、気候、住居（寮等）、授業料について、入学試験方法について等。既に日本語を学習している者は1～2割という印象。ブース対応はほとんどが英語での対応だった。EJU についての予備知識が全くない来場者も多かった。
○関心のある学部は、人文社会科学部9名、教育学部8名、理工学部17名、農学部6名だった。関心のある具体的な専門に記載があったものとしては、Business9名、法律6名、教育3名、I.T.２名、Material Science１名、Civil Engineering １名、Electrical Engineering １名、Environment 1名 等。

〇来場者が高校生なのか大学生なのか、また学年等、聞かなければわからない状況だったため、それらが一瞥して判別できるようなネームタグの導入を CJCC に提案した。(フェア後のフィードバックミーティングにて)
〇岩手大学としては初めてカンボジアでの留学フェアに参加した。奨学金を得なければ日本への留学は難しいという学生が多いため、国費奨学金を獲得できるような学生で、本学の教員とのマッチングが成立するかどうかが重要である。カンボジアから留学生を獲得するためには、モムアムノットさんのような卒業生達にサポートをいただき、また、今後展開が予想される JICA との連携等も活用しながら、多方向から継続してアプローチしていくことが必要であると感じた。

【国 内】

1 外国人留学生のための進学説明会(東京会場)

主　　催　独立行政法人　日本学生支援機構(JASSO)
日　　時　2018 年 7 月 8 日(日) 10 時 ～ 16 時
会　　場　【東京会場】 サンシャインシティ 文化会館展示ホール D
参 加 者　平井 華代 グローバル教育センター准教授
　　中川 和之 国際課教育グループ主査
　　村山 香織 国際課教育グループ事務職員
参加機関　184 機関
総入場者数 1867 名(H29 年 2263 名、H28 年 2669 名、H27 年 2844 名、H26 年 2536 名)
岩手大学ブース訪問者
　外国人学生
　　① 総計:41 名　※名簿に記入した学生数
　　(H29 年 44 名、H28 年 76 名、H27 年 73 名、H26 年 52 名、H25 年 56 名)
　　② 国・地域別:中国(26 名)、マレーシア(7 名)、ベトナム(2 名)、ブラジル(2 名)
　　スリランカ(1 名)、ドイツ(1 名)、台湾(1 名)、インドネシア(1 名)
　　③ 学部別:
　　・人文社会科学部(8 名)(うち大学院希望 4 名)
　　・教育学部(2 名)
　　・理工学部(12 名)(うち大学院希望 0 名)
　　・農学部(10 名)(うち大学院希望 2 名)
　　・特定学部なし(9 名)(うち大学院希望 4 名)
　　★学部希望(31 名)、大学院希望(10 名)
　日本語学校等来訪者　2 名
主な相談事項

大学概要： 岩手県と岩手大学の位置、周辺環境について
試験関係： 入試日程、必要な科目、出願手続きについて（学部、大学院ともに）
日本留学試験のボーダーライン
英語成績（TOEFL など）が必要かどうか
私費留学生入試の合格者割合（前年度の留学生入学者数）
過去問はもらえるか
納 付 金： 入学料および授業料の額
授業料免除の得やすさ（基準）、免除される割合、免除許可者の割合
奨学金について： 私費奨学金の種類、金額、受給者数、申請方法
生活状況： おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか
宿舎について： 学生寮の設備、寮費等必要経費、民間アパートの家賃相場について
その他の質問事項： 盛岡の気候、雰囲気、言葉のなまり等について
留学生在籍数、各国別の留学生在籍数
卒業後の就職動向について
留学生対象のイベントについて

【全体的な感想】

・猛暑の影響もあってか、昨年度よりさらに総入場者数が減少した。 また、今年度もブースが会場の一番奥まった場所だったため、人通りも少なく、訪問者数も伸びなかった。
・学部入試希望で、学びたい分野が明確な学生が多い印象だった。
機械（航空科学、自動車、ロボット）、デザイン（美術・工業両分野含む）、経済、経営、国際文化、農学、食品、環境などの分野を志望する学生の相談が多かった。
・昨年同様に PC や iPad を持ち込み、インターネット上で入試情報や研究者情報を説明した。
来場者には、今後自分でも調べることができるよう、HP での情報収集方法などを案内した。
・日本留学試験での点数のボーダーライン及び英語成績が必要かどうかを質問する学生が多数いた。
・オープンキャンパスのチラシも配布し、多くの学生が感心を持っていた。
・昨年から資料を入れて配布しているがんちゃんバックは、目に留まり PR 効果もあると感じた。

【昨年度から改善した点と今後の対応】

・地図・アクセス情報とキャンパスの四季の写真を掲示した。岩手の場所や気候が分からない学生も多かったため活用できた。雪の写真に興味を示す学生が多くアピールになった。
・手持ち資料や募集要項等、すべての資料をファイリングして 2 セット用意した。
長机にはテーブルクロスを敷き、机の上にはファイルと iPad だけを置くことで、雑然とすることなくすっきりと使うことができた。

・学生はシャープペンシルの方が使うのではないかとの声があったため、今年度からボールペンとシャープペンシルを用意。（どちらか 1 本を配付。）
・学部希望者のなかには、入試について具体的な質問がある学生もおり、可能な限り入試課からも参加していただければより正確な回答ができるのではと感じた。

2 外国人留学生のための進学説明会（大阪会場）

主　　催：独立行政法人日本学生支援機構
日　　時：7 月 14 日（土） 10 時 ～ 16 時
場　　所：大阪会場：梅田スカイビルアウラホール及びステラホール（大阪府大阪市北区大淀中1-1-88）
参 加 者：グローバル教育センター　教授　尾中夏美
　　入試課　主任　竹原裕二
　　国際課　主任　山下千佳
参加機関：　184機関（H29　131機関：国公立大学、私立大学、その他専門学校）
総入場者数：1，867名
（H29　1，761名、H28　1，633名、H27　1，322名、 H26　1，313名、H25　1，095名、H24　1，350名）

岩手大学ブース訪問者：
① 総計：学生　49名（H29　34 名、H28　30 名、H27　25 名、H26　43 名）、日本語学校等関係者2名
② 国別：中国（41名）、台湾（5名）、インドネシア（1名）、サウジアラビア（1名）、ベトナム（1名）
③ 学部別：
・人文社会科学部（23名）：心理学、歴史、芸術、経営学など（うち大学院希望8名）
・教育学部（3名）：特別支援教育など
・理工学部（11名）：知能・メディア、物理、化学、機械、航空宇宙工学など（うち大学院希望1名）
・農学部（6名）：農学、食品生産、獣医学など
・学部指定なし（8名）：（うち大学院希望3名）

主な相談事項：
大学概要：岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について
学習内容：関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて
　　（どのような授業があるのか、獣医学を学びたいが、外国人でも可能か、など）
就 職 先：岩手大学の留学生の卒業後の就職動向

入　　試：入試日程・必要な科目・手続き、出願資格について、日本留学試験の合格ライン、入試の過去問、英語成績（TOEFL など）が必要かどうか（入試には必要なくても、理系では英語論文を読んだりすることが必要なので英語力は必要と、対応）、

授業料等：入学料および授業料の額、授業料免除について

奨 学 金：学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性

生活状況：おおよその生活費

宿舎について：学生寮の有無、寮費等必要経費、寮の間取り、民間アパートの賃貸相場

その他の質問事項：研究生への出願方法について、盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

感想

1. 質問内容が、学びたいことを学習できる学部・大学院はあるか、指導してくれる教員はいるか、というものが多く、学びたい分野が明確な学生が多いので、どのような授業（カリキュラム）がわかる各学部のパンフレットが役に立った。
2. 入学者選抜日程（学部）と入学者選抜方法等のみを印刷してセットしておいたが、問い合わせが最も多いため、かなり役に立った。
3. 日本留学試験の合格点数、入試の過去の入手可能性についての質問が多く、回答できる範囲で対応した（日本留学試験の合格点は、非公表なので回答できない旨伝え、募集要項に記載されている日本語の最低点については学生と確認した。）。
4. ブースへの訪問者数の印象として、昨年と同様、大阪大学、九州大学、関西大学などの有名校は行列ができていた。京都大学、大阪大学進学コースのある予備校、美容やアニメ関係の専門学校も人気が高かった。その他の地方国立大学への訪問者数は、本学の訪問者数とほぼ同じ程度に感じた。
5. 今年も二つの会場に分かれていたが、昨年度を大幅に上回る数の留学生が来訪した。ある程度「国立大学」がブランドになっている印象があった。
6. 岩手大学が日本のどのあたりにあるか示すポスターを掲示したのが位置を説明する際に役だった。
7. 用意した資料がすべてなくなったため、予備的な意味も込めて、入試要項や研究者案内、国際交流の HP の QR コードを一枚紙にまとめておくと良いと思われる。

報告：国際課

―国際連携室　業務報告―

岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて

1. 国際連携室・国際戦略推進委員会の設置

平成 24 年度に策定した「岩手大学国際連携戦略」の具現化において、留学生の受け入れ及び学生の海外派遣の促進、学生及び教職員の国際的視野、外国語能力の向上など、海外大学との連携・研究交流推進などに係る方策・戦略を推進するための体制強化が求められる中、平成 26 年度に実施された教育研究支援施設改組の中で、「国際連携室」を新たに設置した。

また、国際化及び国際連携戦略の推進において、教育推進、研究推進、地域連携の各機構及び各学部・研究科との連携・協働により、全学としての各戦略項目の進捗状況等の確認、推進策の検討、各種課題の共有やその解決のための調整を図る場として「国際戦略推進委員会」を設置した。

2. 国際戦略推進のための各プロジェクトの設置

国際連携戦略を着実に推進するためにアクションプラン(Plan)を策定し、優先順位を付しながら、横断的な組織構成のもと、迅速かつ柔軟な対応（Do）を行う必要がある。

そのため各種戦略の進捗状況に合わせ、国際戦略推進委員会のもとに以下のプロジェクトを設置した。プロジェクトは従来の委員会方式に依ることなく、各種案件の必要性や緊急性に合わせて適宜設置・改廃を行い、迅速かつ柔軟に対応できるものとした。

2. 1　プロジェクト運営のポイント

・特定部局のみで対応が難しい横断的事項を中心にプロジェクトを設置する。
・案件に応じ既存の組織・委員会をもってプロジェクトの実質的運営を付託する。
・各プロジェクトには国際連携室構成員が必ず加わり、関連事業の実施（実施支援）を行う。
・各学部・機構等における国際関連事業推進の現状・課題等については、国際戦略推進委員会において共有を図るほか、各学部国際交流委員会等に国際連携室構成員が陪席等を行い、情報収集・提供に努め、国際戦略推進委員会等において、必要な支援の実施（または支援策の検討）を図る。

2. 2　各プロジェクトの概要（平成 30 年度現在）

（1）交流基盤整備プロジェクト

● 対応する国際連携戦略
・「グローバル化の意識を高めるキャンパス環境を整備する」
・「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」

● 推進するアクション

・キャンパス環境及び関連施設（宿舎、交流施設等）の整備
・グローバル化に対応した教職員のFD、SDの企画（教育推進機構等との協議に基づく）
・国際連携推進のための広報（広報室との協議に基づく）
・国際連携・国際交流に関する危機管理
・帰国留学生の組織化とネットワークの強化　など

（2）UURRプロジェクト

● 対応する国際連携戦略
・「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」
・「地域社会のグローバル化への対応に貢献する産学官民連携事業を実施する」

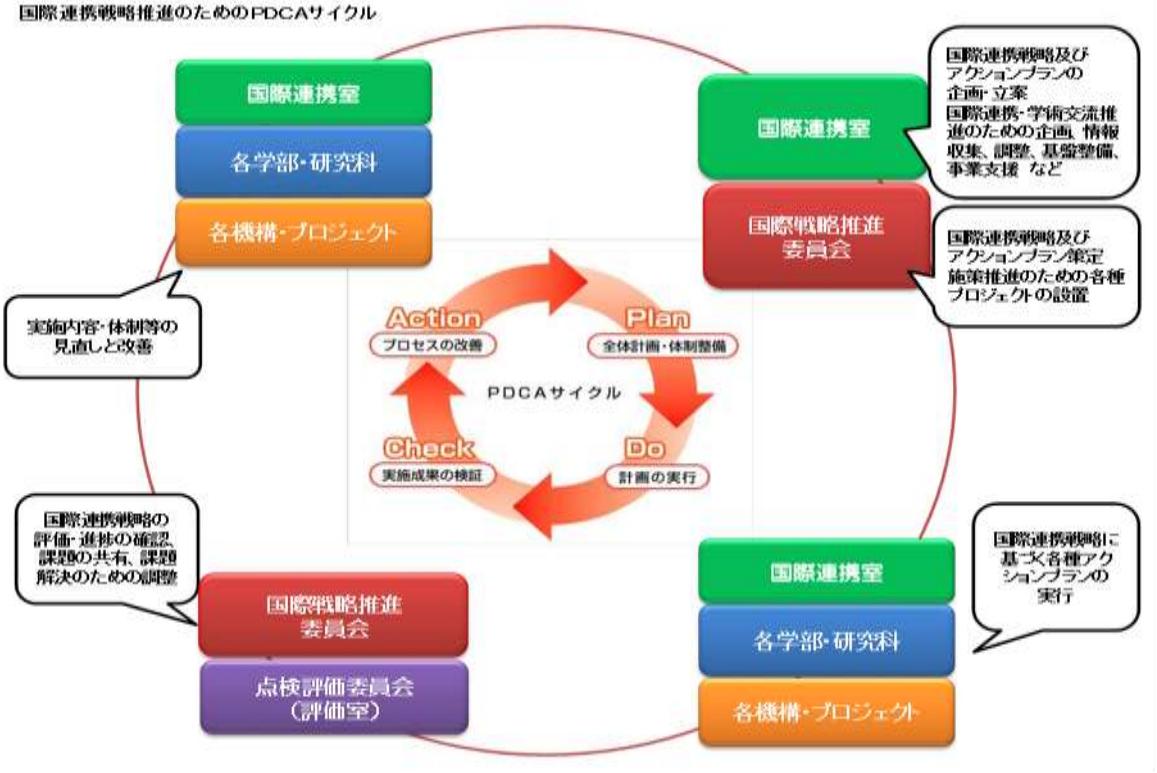
● 推進するアクション
・国際的な産学官連携事業、大学・地域間交流事業の展開
・COC 等と関連した特色ある国際連携・共同教育事業の推進
・海外拠点、連携拠点等の整備　など

2．3 プロジェクトの見直しについて

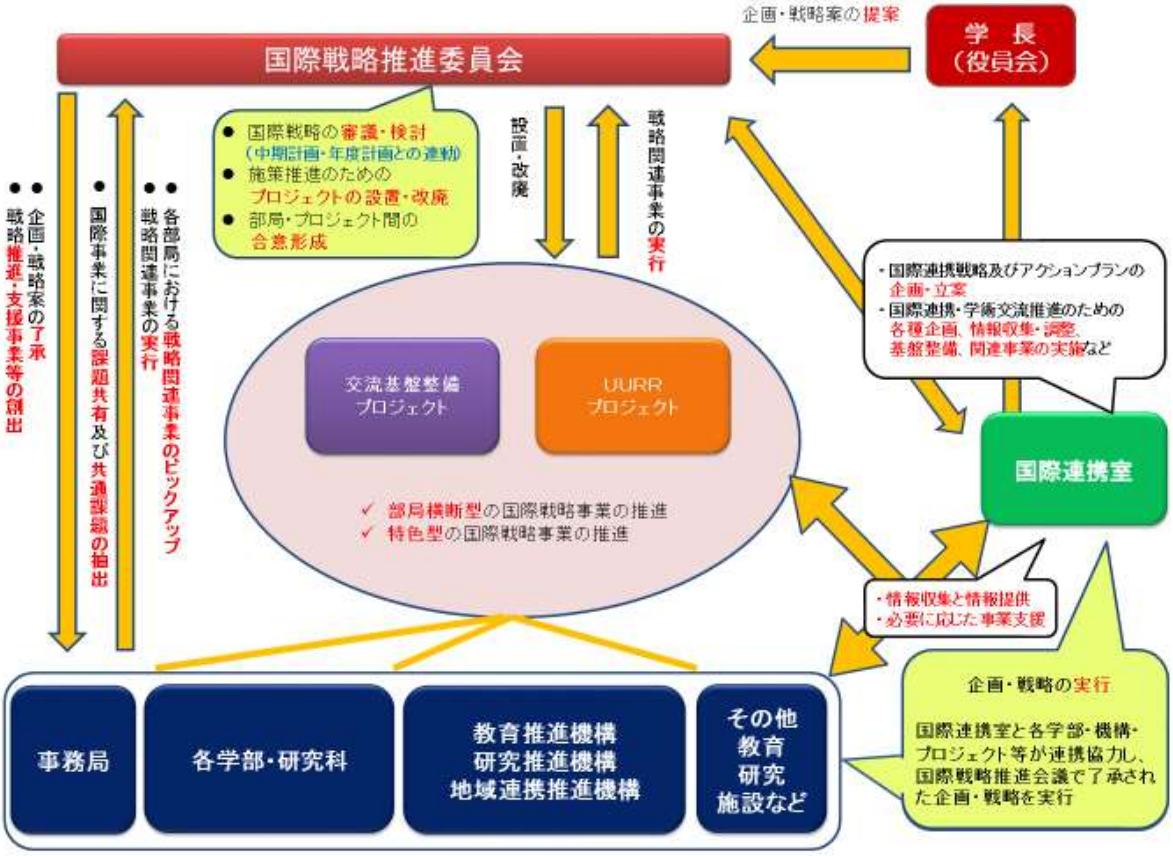
国際連携戦略及び具体的アクションプランを着実に推進するために、各プロジェクトを設置し対応してきたが、すでに通常業務として定着してきた事業や全く動きがない事業などがあり、活動実績がないプロジェクトについては平成29年度末をもって一度廃止とした。平成30年度からは「岩手大学第三期における国際連携戦略アクションプラン」及び「平成30年度国際連携室推進事項」に基づき事業を進めていくこととするが、今後、大学の方向性等を考慮しながら必要に応じて新たなプロジェクトを設置し本学のグローバル化を推進していきたい。

報告：国際課

国際連携戦略推進のためのPDCAサイクル



国際戦略推進業務の具体的流れ



第3回カナダ・サスカチュワン大学グウェナモス・センター教員によるアクティブ・ラーニング短期集中研修開催実施報告

研修日程:2018年8月3日(金)～8月8日(水)(4日間)
会場:岩手大学学生センター棟B グローバルビレッジ
講師:ウィノナ・パートリッジ(Ms. Wenona Partridge:サスカチュワン大学グウェナモス・センター講師)、TA(助手):ウィリアム・ブラネン(Mr. William Brannen:岩手大学グローバルビレッジ担当職員)
使用言語:英語　参加費用:無料
参加者数:4日間合計37名(【人文社会科学部】教員2名、事務職員1名、【教育学部】教員3名、【農学部】教員2名、【理工学部】教員6名、技術職員1名、【教育推進機構】:教員1名、【地域連携推進センター】教員1名、【国際連携室】教員1名、【非常勤講師(英語)】1名、【学務課】事務職員1名、【国際課】事務職員5名、【みちのくコカコーラ】12名)

1. 概要

計4日間の研修のうち、午前のクラス(3時間)では、パートリッジ講師が本学教職員を対象にアクティブ・ラーニングの理論・実践の研修を行ない、午後のクラス(3時間)では、教職員、事務職員及び今回TAを務めたブラネン講師が所属するみちのくコカコーラの職員を対象としたクリティカルシンキング(批判的思考)の理論・実践の研修が行なわ、参加者は積極的に議論に参加することが求められた。参加者には、パートリッジ講師より、サスカチュワン大学グウェナ・モス教育センターの修了証が手渡された。

2. 内容

8/3(金) 午前:教育法 ”Teaching Philosophy Statements: Introduction to reflective practice”(教育理念表明書:反省的実践入門)
参加人数:4名(人文社会学部:1名、理工学部:1名、地域連携センター:1名)

8/3(金) 午後:批判的思考 “Critical Thinking: Introduction to Kahneman’s ways of thinking and Dweck’s mindset paradigm”(批判的思考:ダニエル・カーネマンの「ファースト&スロー」及びキャロル・ドゥエックの思考様式論)
参加人数:12名(人文社会学部:1名(事務職員1名)、理工学部:2名(教員1名、技術職員1名)、農学部:1名(教員1名)地域連携センター:1名(教員1名)、教育推進機構:1名(教員1名)、国際課3名、みちのくコカコーラ:3名)

8/6(月） 午前：アクティブ・ラーニングの技法 “Active Learning Strategies: A practical introduction”(アクティブ・ラーニングの技法：教育現場で役立つアクティブ・ラーニングの技法紹介)
参加人数：9 名（人文社会学部：2 名、教育学部：1 名、理工学部：3 名、農学部 1 名、地域連携センター：1 名、教育推進機構：1 名）

8/6(月） 午後：批判的思考 “Interpersonal and Intercultural Skills: Introduction to the Single Story, personality types, and Strengths Based thinking”（対人関係及び異文化間で役立つ技術：画一的な一つの物語、パーソナリティーの種類、強みに注目する考え方）
参加人数：14 名（人文社会学部：2 名（教員 1 名、事務職員 1 名）、理工学部：2 名（教員 1 名、技術職員 1 名）、農学部：2 名（教員 2 名）、地域連携センター：1 名（教員 1 名）、教育推進機構：1 名（教員 1 名）、国際課 3 名、みちのくコカコーラ：3 名）

8/7(火） 午前：教育法 “Assessment Strategies: Introduction to objectives and alignment”(評価の方法：評価の目的と構成主義的整合性の紹介)
参加人数：9 名（人文社会学部：2 名、理工学部：2 名、教育学部：3 名、国際連携室：1 名、非常勤講師：1 名）

8/7(火） 午後：批判的思考 ”Creativity and Innovation: Introduction to Creativity and Kirton’s Adaption-Innovation Inventory”（創造性と革新：創造性とマイケル・カートンによる適応－革新（KAI）インベントリーの紹介）
参加人数：14 名（人文社会学部：2 名（教員 1 名、事務職員 1 名）、理工学部：1 名（教員 1 名）、農学部：1 名（教員 1 名）、教育推進機構：1 名（教員 1 名）、国際連携室：1 名（教員 1 名）、非常勤講師：1 名、国際課 4 名、みちのくコカコーラ：3 名）

8/8(水） 午前：教育法 “Novice to Expert: Introduction to concept mapping and Dreyfus’ model”(素人から専門家へ：概念配置とドレフュスの専門知識発達の 5 段階モデルの紹介)
参加人数：7 名（人文社会学部：2 名、理工学部：1 名、教育推進機構：1 名、地域連携センター：1 名、国際連携室：1 名、非常勤講師：1 名）

8/8(水） 午後：批判的思考 “Communications and Teams: Introduction to communication styles, directionality, and team dynamics”(コミュニケーションとチーム：コミュニケーション様式の多様性、志向性、集団力学の紹介)
参加人数：12 名（人文社会学部：2 名（教員 1 名、事務職員 1 名）、理工学部：1 名（技術職員 1 名）、教育推進機構：1 名（教員 1 名）、国際連携室：1 名（教員 1 名）、非常勤講師：1 名、学

務 1 名、国際課 2 名、みちのくコカコーラ:3 名）

3. 所感

今回の午前の教育法の研修内容（教育理念の記述法、Think Pair and Share 法、ギャラリーウォーク法、評価方法の考察）は、過去の研修で紹介されたものが中心であったが、午後の批判的思考のクラスは初めての試みで、また、事務・技術職員、民間企業の社員も参加したこともあり、異業種交流もでき、これまで以上に啓発的なワークショップとなった。

報告:石松弘幸

第4回岩手大学教員海外派遣事業実施報告

1. 事業概要

平成 27 年度より国際連携室では、岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成することを目的として、教員自らが研修先及び研修内容を自由にアレンジする、「自由選択型」と、本学の協定校（カナダ・サスカチュワン大学及び中国・精華大学）で研修を行う「協定校連携型」による教員海外派遣事業を実施してきた。第 1 回派遣（平成 27 年度　9 月～1 月）では計 5 名、第 2 回派遣（平成 27 年度 12 月～3 月）では計 4 名の派遣を行なった。本事業は、国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的としており、派遣された教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することが期待されている（参考：岩手大学教員海外派遣事業実施要項）。

2. 協定校連携型プログラムの概要

2.1 サスカチュワン大学（カナダ）

●概要：サスカチュワン大学（以下サス大）グウェンナ・モス・教育効果研究センター（以下 GMCTE：http://www.usask.ca/gmcte/ ）が実施している教育法のコースを受講し，教育法の実践と応用を学ぶため，サス大で通常行われている授業を聴講することを通じ，自らの担当科目を英語で教育するための技術を修得する。

●開始時期：研修希望者は 9 月もしくは 1 月のいずれかの時期に渡航し，3 ヶ月の研修期間中、以下の GMCTE が開講しているサス大の教員・大学院生向けの教育法訓練コースに参加。研修期間中は，サス大付属の語学学校において自己負担で英語コースを履修することにより英語力を強化することができる（IELTS テストで総合スコア 6.5 程度の水準をクリアしていれば，語学学校で英語コースに参加せず，GMCTE の教育法コースへの出席及び他の授業の聴講のみとすることも可能）。

2.2 清華大学（中国）

●概要：清華大学の短期研究者受入プログラムに参加し，清華大学対外漢語文化教学センター（International Chinese Language & Culture Centre）で中国語及び中国文化を習得すると共に研究交流を行う。日本語・日本事情関連分野の場合，清華大学日本語学科で授業（有償）を行うことも可能。清華大学には，英語による大学院修士課程もあり，英語による研究交流及び授業体験も可能。語学以外の専門分野での受け入れは,博士号取得済みで 3～5 年以上の教育経験を有することが条件。語学での受け入れは,修士以上

で教育経験を有することが条件。

●開始時期:9 月～11 月。 英語で開講される授業の受講や，日本語学科での授業を担当することを通じ，専門分野の教育力向上が期待できる。また，中国語能力をすでに有する教員は，中国語での授業体験も可能であり，中国語による教育力強化が見込まれる。清華大学には准教授以上の教員が 3,000 人以上在籍し，優れた研究実績を有しているため，研究分野における人間関係構築も期待できる。3ヶ月に亘り，清華大学・対外漢語文化教学センター(International Chinese Language & Culture Centre)で，自らのレベルに応じた中国語コースを受講し，中国語力を向上させると共に，各研究室での研究交流や授業の聴講を通じて，教育法の実践や応用についての理解を深める。参加者は，大学院で開講されている英語による授業の聴講も可能。

3. 派遣実績

第3回派遣(平成 29 年度 1 月～3 月: 計 1 名)

理工学部　阿部貴美 助教(協定校連携型・サスカチュワン大学:9 月～12 月)

4. 報告会

実施日:令和元年 6 月 10 日(予定)

参加者数:岩手大学教職員計 20 名

概要:第 4 回教員海外派遣事業参加者としてカナダの協定校サスカチュワン大学に 3 ヶ月間派遣された理工学部・阿部貴美助教は、研修内容とその成果について説明した上で、岩手大学の国際交流活動への貢献、教育内容・方法の改善につき提案を行なった。同報告会には岩渕明学長も参加し、報告会終了後には、これまの海外派遣事業参加者が参加し、今後の本事業のあり方や岩手大学の国際連携のあり方についての意見交換会が行なわれた。

報告:石松弘幸

別紙

岩手大学教員海外派遣事業実施要項

平成27年1月22日
国際戦略推進委員会 決定

1. 目的

岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成する。国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的とする。

なお、当該教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することとする。

2. 期待される効果

・岩手大学の国際交流関連事業に積極的に取り組み、大学運営において国際関係業務の核となる人材となる。
・教育内容・方法の改善に意識的に取り組み、派遣終了後、岩手大学において外国語等による国際的に水準の高い講義が実施可能になる。
・国際理解力、コミュニケーション能力が強化、育成される。
・派遣国に対する教育研究分野の理解が促進される。

3. 要 件

(1)資格: 派遣年度の4月1日現在、50 歳未満の本学教員(附属学校教員を除く)
(2)派遣期間: 派遣開始は原則として8月1日以降とする。派遣の期間は、3ヵ月から 10 ヵ月以内の継続する期間とし、承認後の期間延長は原則として認めない。
(3)派遣期間中の身分: 派遣期間中の身分は、本学教員であり、出張として扱われる。
(4)派遣者数: 毎年度4名以内
(5)受入機関: 原則として1カ所とする。申請者本人が選定し、先方の受け入れ許可を得た上で申請することとするが、それが困難な場合は本学協定校から選択するものとする。
(6)支給経費: 勤務場所と派遣先との往復1回分に係る交通費、及び滞在費を支給する(国立大学法人岩手大学旅費規則による)。ただし、滞在費については、派遣期間が6ヵ月未満の場合日額1万円、派遣期間が6ヵ月以上の場合日額8千円を上限として支給する。 その他、実施にあたり必要となる経費について、教員に配分される研究費等から充てることができるものとする。

(7)その他
①本事業は、サバティカル研修との重複申請を認めるが、本事業は教員の「国際業務能力向上」の機会を提供し、その成果を本学の国際関係事業に積極的に還元してもらうことを主目的とした事業であり、「自主的調査研究に専念できる」ことを主目的とするサバティカル研修制度とは目的が異なるため、申請に当たっては留意すること。なお、双方とも採用された場合、重複する期間については一方を辞退すること。
②本事業による派遣期間がサバティカル研修と連続する場合、本事業派遣先とサバティカル研修実施場所の移動にかかる旅費は別途協議により支給する。

4. 応募方法
申請時の所属部局を通じて応募すること。
(1)申請書類
□岩手大学教員海外派遣事業申請書(別紙様式1)
※本事業の趣旨から、帰国後、岩手大学に1年以上在職することが期待されていることを理解したうえで署名すること。
□部局長の推薦書(別紙様式2)
※推薦者数は、各部局2名まで。複数の場合は順位も付して連絡すること。
□受入機関に関する基本情報
□受入機関の同意書
※簡易和訳をつけること。受入機関での身分も明記されていること。
□航空賃等の見積書
※内訳記載があるもの。家族で行く場合は申請者分のみのもの。
(2)提出期限は別途定める。

5. 選 考
(1)本事業の目的に照らし、国際連携室による審査のうえ、国際戦略推進員会において決定する。
(2)審査結果については推薦のあった部局長に対して通知する。

6. その他
(1)採択された教員は以下の義務が発生する。
①派遣終了後、1ヵ月以内に、「帰国報告書(別紙様式3)」を提出すること。
②派遣終了後、1年以内に、事業報告会にて派遣概要及びその後の業務進捗状況の報告を行うこと。
③派遣終了後、1年経過後に「成果報告書(別紙様式4)」を提出すること。
④派遣終了後、大学及び学部等で企画する国際関連事業に積極的に協力すること。

(2)派遣修了後 1 年以内に自己都合退職した場合、当該事業にかかる費用について返還を求める場合がある。
(3)本事業による派遣に伴う所属部局における研究上・教育上・職務上の影響を最小限に留めるよう努力すること。

UURR プロジェクトー平成 30 年度事業ー

1. 平成 30 年度アジア・ジョイントシンポジウム 2018 「第 4 次産業革命と産学協同」

【開催地】韓国・国立ハンバット大学
【参加機関】岩手大学，国立ハンバット大学・韓国（HNU），大連理工大学・中国（IDUT），
【参加者数】

歓迎レセプション　計 30 名
基調講演　計約 50 名
分科会　計 44 名（「産学連携教育」10 名,「大学発ベンチャー・技術の商業化」12 名,「金型・鋳造技術」9 名,「金型・鋳造技術学生交流会」13 名）

【概要】

10 月 24 日：AJS2018　基調講演、各分科会

09:30-10:00 Meeting with President N1, #202

10:00-10:30 Opening Ceremony

Welcoming Speech

・Choi, Byoung-Wook, President of HBNU

ハンバット大学の韓国経済への技術・経済貢献の実績及び地域企業との共同研究等による協力関係の紹介。少子高齢化、技術の進化への対応が今後の重要な課題。

・Cha, Dong-Jin, Director of HBNU

ハンバット大学における地域の企業と協力による学生インターンシップの概要及び同大学が設置している地域協同センターの紹介。

・Wang Bo, Dean of DUT

AJS の参加大学における、地域貢献、協定等に関する共通点の指摘と、今後の貿易、科学技術に関する交流への期待の表明。AJS 参加大学による共同研究や論文の出版といった成果が得られることが望ましい。

・Yoshikawa, Nobuyuki, Vice President of IU

今回の AJS のテーマの一つ第 4 次産業革命に関する日本における展開の現状の紹介（タクシーの自動運転、ドローン技術の発展等）。科学技術の発達は人間にとって有意義であるが、国際交流と議論を通じて科学技術の発展の方向性を考えていくことが今後の課題。

10:30-12:00 Keynote Speech

・Title : Status of Industry-University Cooperation & Strategy to Support Employment & Start-up

- Cha, Dong-Jin, Director of HBNU

ハンバット大学は590名の教員、9800名の学生と、建築、環境、経済、経営、未来産業など 6 学部 27 学科を擁している。潤沢な予算と共に産学連携においては地元企業と緊密な協力関係を構築している。教育面でも地元企業との協力による産学連携教育を実施し、産学連携を組み込んだ学位コースを提供しており、研究者、学生と起業家の交流の機会を設けている。

・Title : Introduction of DUT and Its International Cooperation of S&T

– Zhao Meisen, Deputy Dean, Institute of Science and Technology of DUT

1949 年に中国の重点国立大学の一つとして設立され大連工科大学では、広大なキャンパスに学部、修士、博士課程の学生が学んでおり、国外からの留学生も多い。近年、科学研究の予算は増加しており、大学は産学連携の協力プラットフォームとしての果たす役割も多きい。特に高度技術分野において地元産業に対する研究協力を実現しており、産学協同プロジェクト、企業との交流を活発に行なっている。

・Title : Agri-Innovation Research at Iwate University

– Yoshikawa, Nobuyuki, Vice President of IU

岩手大学はその前身の盛岡農業学校以来120年の歴史があり、グローバルな環境での研究体制を構築し、イノベーションを実現してきた。今年7月、岩手大学ではその強みの一つである農学分野における基礎研究の成果を発展的に課題解決のために活用すべく「次世代アグリイノベーション研究センター」が設立された。

10 月 25 日　産業関連施設等視察・交流レセプション

1. Daejeon Technopark（大田テクノパーク）

大田テクノパークを視察し、概要につき同施設のガイドより説明を受ける。大田テクノパークは、地元企業が技術的試験を行なう設備を備えており、プラスチックなどを使った製品により起業を志す人たち向けに相談や専門家の紹介を行なっている。

2. K-ICT 3D Printing Daejeon Center in Daejeon Technopark（大田テクノパーク内3D プリンターセンター）

大田テクノパーク内の3D プリンターセンター を視察し、各種3D プリンター及びその生産品の説明につき、ガイドから説明が行なわれた。同センターでは、起業家等からの依頼により 3D プリンターによる試作品を生産しているとのこと。

3. 龍仁市「韓国民俗村」

韓国の伝統的な生活様式や農村の様子が再現された「韓国民俗村」を訪問し、視察を行なった。

4. 交流レセプション

ソウル市内韓国料理レストランにて、ハンバット大学工学部長 Lee Choong Gon 教授の主催により、韓国側学生を除く AJS2018 参加者全員が出席した交流レセプションが行なわれた。

【所感】

昨年大連理工科大学で AJS2017 が開催された際の課題である学生同士の交流が今回実現したことで、学生同士の交流が深まったことは大きな成果と考えられる。一方、各分科会では研究者の参加者数が少なく、学生発表の分科会以外での参加者がほとんど見られなかったが、これは AJS を開催するにあたってのミッションや、その意義の認識が薄れてきていることが大きな理由ではなかろうか。今後 AJS を継続実施し、この事業が参加者や大学にとり費用対効果に見合ったものとなるためには、事業の意義を参加大学間で再確認し、新たな試みも積極的に導入していく必要があると考えられる。

報告：石松弘幸

2.「東アジアの平泉（へいせん）を考える」国際会議報告書

岩手大学が平成 15 年度より国際的な大学間ネットワークや地域間交流を活用し、地域の発展に貢献するための UURR プロジェクト(University and University + Region and Region=大学・大学と地域・地域の連携事業)を推進してきた。このたび、平成 30 年度 UURR 事業の一環として、岩手大学で「東アジアの平泉を考える」国際会議を開催することにした。

今回の国際会議は、岩手大学平泉文化研究センター・岩手県・平泉町教育委員会・中国洛陽市文物考古研究院の共催となり、実施要項及び次第は次ぎのとおりだった。

【日時】2018 年 10 月 13 日(土) 10:00～16:30
【場所】岩手大学教育学部 1 号館講義室 E23
【次第】総合司会：菅野　文夫氏(岩手大学平泉文化研究センター部門長)
通訳：趙　虎龍氏(中国洛陽龍門石窟国際旅行社総経理)
※開会に先立ち、日本側の研究者を宇佐美公生氏が、中国側の研究者を趙虎龍氏がそれぞれ紹介した。
10:30 開会挨拶：岩手大学平泉文化研究センター長　宇佐美　公生氏
【報告】
1) 10:40～12:00　洛陽市文物考古研究院研究員　張　如意氏
演題：洛陽における隋唐期の園林遺跡　通訳：趙　虎龍氏
12:00～13:00　休憩
2) 13:00～14:30　洛陽市文物考古研究院隋唐研究室副主任　屈　昆傑氏
演題：洛陽の平泉遺跡調査報告　　通訳：劉　海宇氏
14:30～14:45　休憩
3) 14:45～15:15　岩手大学平泉文化研究センター客員教授　伊藤博幸氏
演題：日本国内の平泉寺について

4）15:15～15:45　平泉文化遺産センター館長／岩手大学平泉文化研究センター
客員教授　千葉信胤氏
演題:歴史資料としての平泉地名研究

5）15:45～16:25「東アジアの平泉を考える」ディスカッション

16:25～　　閉会挨拶:岩手県文化スポーツ部世界遺産担当課長　佐藤嘉広氏

研究成果の公開:

UURR 特集、論文 4 本、『岩手大学平泉文化研究センター年報』第 7 集、2019 年 3 月。

ISSN 2187-7904

Hiraizumi Studies
岩手大学
平泉文化研究センター年報

Centre for Hiraizumi Studies
2019 VOL.7

目次

【論文】
■華嚴仏教受容と仏学伝承　何　利群（He Liqun）……1
■西周の滅亡原因に関する新知見　宋　江寧（Song Jiang-ning）……21
■経筒にみえる宋人勧進者と「願文」―広東省南華寺出土五百羅漢銘文「広州願文」をめぐって―　石井ひさ子（Ishiguro Hisako）……29
■平泉：12 世紀におけるユニークな仏教政治の中心地　佐藤嘉広（Sato Yoshihiro）……45

【研究ノート】
■平泉の世界遺産及びその考古学の現状　劉　海宇（Liu Hai-yu）／アンデス　カールキビスト（Anders Carlqvist）……55
■南唐陵における法舎利埋納研究　劉　海宇（Liu Hai-yu）……69

【特集：UURR プロジェクト 2018】
■南唐陵陽城の園林遺跡研究　張　瑞亨（Zhang Ruey-i）……81
■平泉山法遺址調査報告　瞿　巨杰（Qu Kun-jie）……107
■藤原清衡と「平泉坊型」　伊藤博幸（Ito Hiroyuki）……123
■平泉の地名伝承について　千葉信胤（Chiba Nobutane）……135

【調査報告】
■中国唐代における法舎利埋納遺跡調査記　劉　海宇（Liu Hai-yu）……143

【史料集成】
■文学に表れた平泉文化の基礎的研究（その6）
―常陸坊海尊・清悦・残夢の物語―　相原康二（Aihara Koji）……174

【訂正】
■中尊寺供養願文の解説文の訂正について　劉　海宇（Liu Hai-yu）……175

【彙報】……179

報告:劉　海宇

岩手大学における国際交流に伴う危機管理体制構築に関する取組

1. 概要

近年、海外でテロ、騒乱、自然災害などが頻発しており、留学・研究等を目的として海外に派遣される学生や教職員に対し、安全対策が強く求められてきた。平成 24 年 5 月に示された「岩手大学の国際連携戦略」では、国際交流における危機管理体制の構築も掲げられており、岩手大学第 3 期中期計画においても国際連携・国際交流における危機管理体制の構築が明記されている。この方針に従い、岩手大学国際連携室及び国際課では、平成 28 年 4 月より民間危機管理会社・日本エマージェンシーアシスタンス社(※以下 EAJ)の留学生危機管理サービス(※以下 OSSMA)に加入し、学生及び学生の引率を行う教職員の海外派遣に際して必要な危機管理体制構築に向けて準備を進めてきた。平成 28 年度は本学が OSSMA と契約を行い、海外派遣される学生及び海外研修の引率などを行う教職員の OSSMA への加入の義務付けを通じて危機管理体制を充実させた。一方、平成 23 年に国際交流に関する本学の危機管理対応として作成された「岩手大学の学生の交流に係る危機管理マニュアル」につき、平成 29 年度に、その内容を更新し、OSSMA への連絡体制との連動を図ったものとして改訂版を作成した。今後は本改訂版危機管理マニュアルの学内での一層の定着を目指し、危機管理体制をより効果的なものとする。

2. 経緯

平成 30/4　平成 29 年度第 5 回国際戦略推進委員会で承認された「岩手大学海外派遣危機管理マニュアル」を大学 HP 上に掲載し公開。

平成 30/8　岩手大学「学生向け海外安全ハンドブック」の見直しの実施

平成 30/10　OSSMA を運営する EAJ 社主催が東京・一橋講堂で実施した、重大事故・事件発生時の保護者からの不信、メディアによる過熱報道、ネット炎上への対策に関する「OSSMA 危機管理講演会」に国際連携室教員が参加

平成 31/2　日本エマージェンシーアシスタンスの職員が来学し、OSSMA の発展型サービス「OSSMA PLUS」に関する情報を聴取し、大学による危機管理の現状や他大学の OSSMA の利用状況等に関する意見交換を実施

3. 今後の課題

平成30年度4月に公開した危機管理マニュアルの学内における宣伝・周知をさらに徹底し、学生や教職員の海外派遣に際しての危機管理体制を効果的なものとしていく必要がある。また、EAJ 社と平成 28 年度に導入した OSSMA の利用実績について、率直な意見交換を行い、他大学の実績や課題についても聴取しつつ、改善案を取り入れてもらえるように働きかける。来年度は、危機管理関連事案が発生した際のケースを想定して、EAJ 社による危機管理シミュレーション訓練も学内で実施し、さらなる危機管理体制の強化を図りたい。

報告：石松弘幸

第 1 回がんちゃん国際フォーラム実施報告 ケンジ ステファン スズキ氏

自然エネルギー先進国デンマークと『風のがっこう』の歩み」

平成 19 年度より継続して実施している、「がんちゃん国際フォーラム」は、「国際的視野をもった人材育成のため教育の国際化を推進する」との本学の教育目標に則り、国際社会の発展や、地域の国際化に貢献しうる人材の育成等のため、国際交流等の知識の啓発を促すための講演会であり、今回が通算 17 回目の開催となる。本学学生がグローバル化のなかでの地域のあり方を考え，持続可能な地域づくりの担い手となる国際理解力のある人材育成に資することを目的としている。平成 30 年度の講演会は、岩手県一関市出身で、環境活動家として日本国内での認知度が高く、環境保全、デンマークの福祉などに関する著書出版の実績があるケンジ ステファン スズキ氏を招いて、「自然エネルギー先進国デンマークと『風のがっこう』の歩み」というテーマで講演が行なわれ、本学の学生及び教職員を中心に約 60 名が聴講した。

日時：2018 年 4 月 19 日 10:30～12:00
場所：岩手大学 復興祈念銀河ホール
対象：本学学生・教職員および一般市民

講師：ケンジ ステファン スズキ氏
Kenji Stefan Suzuki、日本名：鈴木健司、1944 年生まれ
社会起業家、環境活動家。S.R.A.Denmark 代表、風のがっこう代表、風車運営会社 2 社の代表。現在デンマーク在住だが、年に数回来日し、講演活動などを精力的に行なっている。講演のテーマは環境・福祉・教育など、デンマーク国内の事情に関して多岐に渡る。著書に「なぜデンマーク人は幸福な国をつくることに成功したのか」（合同出版）、「デンマークが超福祉国家になったこれだけの理由」（合同出版）、「消費税25％で世界一幸せな国デンマーク」（角川 SSC 新書）、「デンマークという国を創った人びと」（合同出版）など

概要：講演では、スズキ氏がこれまで手がけてきたデンマークの風力発電機、バイオマスプラントの日本への普及活動や、1997 年に設立したデンマークにおける環境教育等の視察に訪れる日本人のための研修施設「風のがっこう」のこれまでの活動経緯、そしてデンマークの福祉制度についての議論が行なわれ、参加者はスズキ氏の興味深い話の内容に聞き入っていた。

アンケート結果

○所属		
岩手大学		
学生	47	（人社　10、教育8、理工　10、農15、総合科学研究科1、交換留学生4）
教員	1	
教員以外の職員	2	
その他	1	
他大学	1	（県立大学1）
一般の方	7	（NPO法人環境パートナーシップ1）

○今回の講演会を知ったきっかけは		
大学ＨＰ	6	
その他ＨＰ	1	（アイアシスタント１）
チラシ	8	
メール	3	
知人から聞いた	2	
その他	37	（授業27、新聞1、母親から1、先生から4、環バイからのアナウンス1、ツイッター１、環境パートナーシップいわて１、ケンジ　ステファンさん１）

○本日の講演はいかかでしたか		
とてもよかった	27	
よかった	16	
改善してほしい	1	（わかりにくかった１）

感想（一部抜粋）

・いま日本は高齢化、少子化による問題が拡散している。デンマークの労働環境や出産休暇などが高齢化の多くの問題を解決できる制度中の一つだと思う。少子化を防ぐためにはまず、その出産を奨励する制度が必要だと思う。そうすることで出生率は増加すると思う。あと、作業環境を改善し、出産休暇を勧めるとその高齢化や少子化はもとより、共に就職氷河期も解氷できると思う。

・自然エネルギーの発電が盛んであるヨーロッパのうちデンマークの風車について様々なことを知った。風車についての知識がない私でも興味深くお話を聞けた。

・日本とデンマークでは、環境の背景自体が異なりますが、それゆえのエネルギー生産と環境を切り離さないデンマークの考え方は、とても参考になりました。

・デンマークがなぜこんなにも環境への配慮に富んでいるのかということについて、技術的な側面、また文化的な側面からも掴むことができました。大学の講義にも今回聞いたことも生かしていきたいと思います。

・デンマークの教育は個人の個性や能力を引き出せることが重要視されていて日本とは反対だなと感じました。税金が高い分、衣食住の支援が手厚いので国民の不満がなく幸せの国の形成に繋がっているのだと思いました。

・実際にデンマークに在住しているスズキさんの講演を聞いて、風の学校設立の歴史やデンマークの教育政策をよく理解できた。

報告：石松弘幸

外国人留学生同窓会モンゴル支部・西安支部・長春支部の設立及び外国人留学生 OG・OB との懇談会 in 上海開催について

1. 外国人留学生同窓会モンゴル支部・西安支部・長春支部の設立

岩渕学長のモンゴルと中国の協定校訪問に併せて、外国人留学生同窓会モンゴル支部・西安支部・長春支部の各代表に支部設立看板を贈呈した。

９月４日（火）、モンゴル科学技術大学にて、モンゴル支部代表のグンジー　ゾリーグさん（現：モンゴル科学技術大学特任教授）にモンゴル支部看板の贈呈と、モンゴル在住の卒業生と懇談会が行われた。懇談会では、理工学部修了生及び連合農学研究科在学生（帰省中）、さくらサイエンスプログラム参加者から現況報告が行われ、卒業生の活躍を身近に感じた。

また、９月５日（水）には、モンゴル国立大学・西北農林科技大学・岩手大学の三大学による研究シンポジウムでウランバートルを訪問中の張　志毅さん（現：西北農林科技大学教授）と王　澤鵬さん（西北農林科技大学講師）に、西安支部の看板を贈呈しました。代表の張　志毅さんから、西北農林科技大学には岩手大学の卒業生が７名勤務しているほか、現在数名の学生が岩手大学に留学中で、これから卒業生ネットワークを強化していきたいと述べ、西安支部の今後の活動に期待が高まった。

モンゴル協定校の訪問を終え、中国吉林農業大学７０周年記念式典に参加するため、長春を訪れた岩渕学長から趙　蘭坡さん（現：吉林農業大学教授）に長春支部の設立看

板を贈呈した。当日は、懇談会も開催し、卒業生とその家族が１２名駆けつけた。卒業生の中には、吉林農業大学や吉林大学、吉林省農業科学院等で勤務している方や、吉林農業大学７０周年のため長春を訪れた広西師範学院で勤務中の方もいて、学長及び農学部から参加した先生や職員と懐かしい話題で会場は熱気に溢れた。

今回は、モンゴル支部・西安支部・長春支部と、三つの支部設立となった。岩手大学訪問団一同は、卒業生のみなさんの活躍を肌で感じ、その活躍はきっと大学の今後の発展に大きな力となると、思いを新たにした。

2. 外国人留学生 OG･OB との懇談会 in 上海

日　　時：平成 31 年 3 月 9 日（土）

場　　所：中国上海・復旦大学復宣酒店

参加者：卒業生・修了生・元交換留学生等 26 名、家族 2 名、上海岩手県人会 6 名、復旦大学関係者 4 名、岩手県大連事務所 1 名　計：39 名

岩手大学参加者：岩渕明学長、上村松生副学長、藪敏裕教授、劉海宇教授、崔華月外国語専門員古川教育学部主任　計：6 名

復旦大学叢培紅教授（工学研究科 2002 年修了・博士）と本学国際課の企画により、復旦大学復宣酒店にて上海及び浙江省、江蘇省など長三角地域の卒業生とその家族、上海

岩手県人会メンバー、岩手大学関係者ら総勢 45 名が集まって交流懇談会を行った。

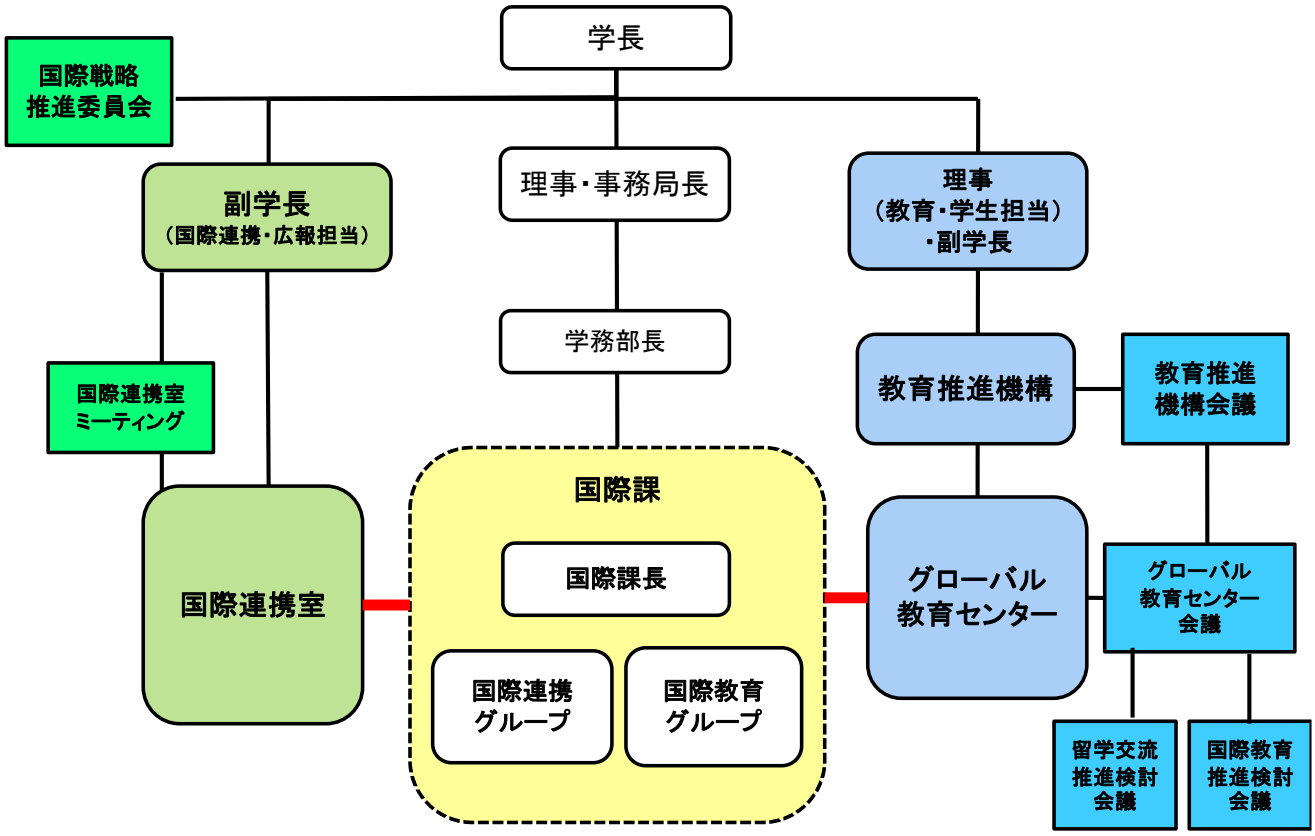
懇談会は上海理工大学毛偉先生（教育学研究科 2010 年・修士）の司会からスタートし、岩渕学長の挨拶、ガンダイニングの視聴（三回分)、参加者による自己紹介・近況報告、グローバルフェロー授与式が行われ、会場は友人や先輩、後輩、先生方との久しぶりの再会で賑わった。

懇談会では、叢培紅教授から同窓会支部の提案があり、寧波大学楊建華副主任（人文社会科学研究科 2001 年・修士）を会長とした、「長三角支部」の設立について、参加者から賛同を得た。今後、正式に届出を出す予定だ。

報告:国際課

―資料―

国際連携・国際教育関連　組織図



外国の大学との交流 Academic Cooperation between Universities/Faculties

平成 30 年 5 月 1 日現在

大学間協定 Universities

国名 Country	大学等名 Name of University	初締結年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
			学術交流 Academic Exchange	学生交流 Student Exchange
中華人民共和国 People's Republic of China	曲阜師範大学 Qufu Normal University	2002.9.25	○	○
	北京大学・石河子大学 Peking University Shihezi University	2003.12.5	○	
	西北大学 Northwest University	2003.12.9	○	○
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2005.5.23	○	○
	吉林農業大学 Jilin Agricultural University	2006.10.3	○	○
	寧波大学 Ningbo University	2006.10.28	○	○
	山東工芸美術学院 Shandong University of Art and Design	2016.7.21	○	○
	上海海洋大学 Shanghai Ocean University	2017.5.16	○	○
大韓民国 Republic of Korea	明知大学校 Myongji University	2004.7.13	○	○
	国立 HANBAT 大学校 Hanbat National University	2006.8.23	○	
	全南大学校 Chonnam National University	2009.9.1	○	○
	群山大学校 Kunsan National University	2016.1.27	○	○
台湾 Taiwan	高雄師範大学 National Kaohsiung Normal University	2011.7.8	○	○
タイ王国	サイアム大学 Siam University	2002.7.2	○	○

Kingdom of Thailand	キングモンクット工科大学トンブリ校 King Mongkut's University of Technology, Thonburi	2016.6.20	○	
	ラジャマンガラ工科大学ラーナ校 Rajamangala University of Technology Lanna	2017.7.26	○	
ミャンマー連邦共和国 Republic of the Union of Myanmar	パテイン大学 Pathein University	2016.12.4	○	
アメリカ合衆国 United States of America	オーバン大学 Auburn University	1998.11.6	○	
	アーラム大学 Earlham College	2003.8.11	○	○
	テキサス大学オースティン校 The University of Texas at Austin	2004.10.20	○	○
	アラスカ大学アンカレッジ校 University of Alaska Anchorage	2016.2.5	○	○
カナダ Canada	セント・メアリーズ大学 Saint Mary's University	2003.7.31	○	○
	サスカチュワン大学 University of Saskatchewan	2013.3.1	○	○
アイスランド共和国 Republic of Iceland	アイスランド大学 The University of Iceland	2011.2.16	○	○
ロシア連邦 Russian Federation	サンクト・ペテルブルグ国立文化大学 St. Petersburg State University of Culture	2000.3.28	○	○
モンゴル国 Mongolia	モンゴル国立大学 National University of Mongolia	2017.10.1	○	○

部局間協定 Faculties

部局名 Faculty in Charge	国名 Country	大学等名 Name of University	初締結年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
				学術交流 Academic Exchange	学生交流 Student Exchange
人文社会科学部 Humanities and Social Sciences	フランス共和国 French Republic	ボルドー・モンテーニュ大学 Université Bordeaux Montaigne	2007.7.6	○	○
	大韓民国 Republic of Korea	群山大学校 Kunsan National University	2011.1.20	○	○
教育学部 Education	中華人民共和国 People's Republic of China	北京大学芸術学系・哲学系・宗教学系 Peking University Department of Philosophy (Religion)	1998.8.21	○	
		清華大学中文系 Tsinghua University of Chinese Languages & Literature	2000.12.15	○	○
		山東工芸美術学院国際交流与合作処 Shandong University of Art and Design Office of International Exchange and Cooperation	2006.5.24	○	○
	イタリア共和国 Republic of Italy	カラーラ大学 Accademia di Belle Arti di Carrara	2005.10.5	○	○
	アメリカ合衆国 United States of America	ノース・セントラル・カレッジ North Central College	2002.9.6	○	○

	カ ナダ Canada	ブリティッシュ・コロンビア大学教育学部 The University of British Columbia Faculty of Education	2001.7.17	○	
人文社会科学部・教育学部 Humanities and Social Sciences, Education	中華人民共和国 People's Republic of China	清華大学人文学院 School of Humanities, Tsinghua University	2017.3.21	○	○
理工学部 Science and Engineering	中華人民共和国 People's Republic of China	新疆農業大学 Xinjiang Agricultural University	2003.11.10	○	○
		華南理工大学 South China University of Technology	2004.7.6	○	○
		西北農林科技大学信息工程学院 Northwest A&F University College of Information Engineering	2006.8.23	○	○
		西安科技大学計算機科学と技術学院 College of Computer Science and Technology, Xi'an University	2010.9.8	○	
		清華大学深圳研究生院 Graduate School at Shenshen, Tsinghua University	2016.7.5	○	
	タイ王国 Kingdom of Thailand	チュラロンコン大学理学部 Chulalongkorn University Faculty of science	2002.1.10	○	
		タマサート大学工学部 Faculty of Engineering, Thammasat University	2014.12.11	○	
		キングモンクット工科大学ラドカバン校理学部 Faculty of Science, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	2014.11.18	○	○

		カセサート大学 Faculty of Science, Kasersert University	2016.7.1	○	
	マレーシア Malaysia	マレーシアパハン大学研究イノベーション部門 Department of Research and Innovation, University Malaysia Pahang	2010.6.9	○	
	大韓民国 Republic of Korea	忠南大学校グリーンエネルギー技術専門大学院 Chungnam National University Graduate School of Green Energy Technology	2013.4.8	○	
	モンゴル国 Mongolia	モンゴル国立大学 数学とコンピュータサイエンス学院 National University of Mongolia School of Mathematics and Computer Science	2007.9.14	○	○
		モンゴル科学技術大学 Mongolian University of Science and Technology	2008.10.29	○	○
		人文大学情報通信マネージメント学院 University of the Humanities	2016.4.1	○	○
	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ工科大学工学部 Faculty of Engineering, Bangladesh University of Engineering and Technology	2003.12.23	○	○
	ﾌﾗﾝｽ共和国 French Republic	ピエール・エ・マリーキュリー大学化学部 Electrochemistry Department of Pierre & Marie Curie University	1997.4.19	○	
	ｷﾙｷﾞｽ共和国 Kyrgyz Republic	キルギス-トルコマナス大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyzstan-Turkey Manas University	2009.10.22	○	○
		キルギス-ロシアスラブ大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyz-Russian Slavic University	2010.12.1	○	○

	スウェーデン王国 Kingdom of Sweden	リンネ大学工学部 Faculty of Technology, Linnaeus University	2016.10.1	○	
	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	ベトナム国建設省建築材料研究院 Vietnam Institute for Building Materials of Ministry of Construction	2017.12.4	○	
農学部 Agriculture	アメリカ合衆国 United States of America	パデュー大学農学部 Purdue University.　School of Agriculture	1996.4.4	○	○
	ドイツ連邦共和国 Federal Republic of Germanly	ロッテンブルク大学 University of Applied Forest Sciences Rottenburg	2013.11. 6	○	○
連合農学研究科 Agricultural Sciences	モンゴル国 Mongolia	モンゴル生命科学大学 Mongolian University of Life Sciences	2014. 2.24	○	○
	バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	ダッカ大学生物学部 Faculty of Biological Sciences, University of Dhaka	2014.11.26	○	
グローバル教育センター Global Education Center	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	アイルランガ大学人文学部 Airlangga University Faculty of Humanities	2018.3.20	○	○
	台湾 Taiwan	台湾文藻外語大学日本語文系 Department of Japanese, Wenzao Ursuline University of Languages	2018.2.26	○	

岩手大学教員海外派遣事業（平成30年度分）実施要項

平成２９年10月２６日

国際戦略推進委員会決定

1. 目的

岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成する。国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的とする。

なお、当該教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することとする。

2. 期待される効果

・岩手大学の国際交流関連事業に積極的に取り組み、大学運営において国際関係業務の核となる人材となる。
・教育内容・方法の改善に意識的に取り組み、派遣終了後、岩手大学において外国語等による国際的に水準の高い講義が実施可能になる。
・国際理解力、コミュニケーション能力が強化、育成される。
・派遣国に対する教育研究分野の理解が促進される。
・教授法に関わるFD研修会や講演会、国際交流委員会等へ積極的に参画する。

3. 要　件

(1)資格：　派遣年度の4月1日現在、50 歳未満の本学教員（附属学校教員を除く）
(2)派遣期間：　派遣開始は4月1日以降とする。派遣の期間は、原則6ヵ月以内で、年度末を超えない範囲とする。承認後の期間延長は原則として認めない。ただし、住居確保や転居手続きの都合上、派遣期間前後1週間程度の滞在は認める。
(3)派遣期間中の身分：　派遣期間中の身分は、本学教員であり、出張として扱われる。
(4)受入機関：国際連携室が提示する協定校
具体的なプログラム内容は別紙のとおり。
※協定校以外への海外派遣（自由選択型）については本事業とは別途募集予定。
(5)派遣者数：　2名以内
(6)支給経費：　勤務場所と派遣先との往復1回分に係る交通費、及び滞在費を支給する（国立大学法人岩手大学旅費規則による）。ただし、航空運賃は最下級普通運賃（ディスカウント

エコノミー相当)とする。滞在費については、日額1万円を上限として支給する。 その他、実施にあたり必要となる経費について、教員に配分される研究費等から充てることができるものとする。
(7)語学力:研修先で主に英語でコミュニケーションを取る場合、IELTS 5.5/TOEFL-iBT 69-79/TOEIC 600-740 程度以上の語学力を有していることが望ましい。
(8)その他
①本事業は、サバティカル研修との重複申請を認めるが、本事業は教員の「国際業務能力向上」の機会を提供し、その成果を本学の国際関係事業に積極的に還元してもらうことを主目的とした事業であり、「自主的調査研究に専念できる」ことを主目的とするサバティカル研修制度とは目的が異なるため、申請に当たっては留意すること。なお、双方とも採用された場合、重複する期間については一方を辞退すること。
②本事業による派遣期間がサバティカル研修と連続する場合、本事業派遣先とサバティカル研修実施場所の移動にかかる旅費は別途協議により支給する。
③海外旅行保険については、必ず加入すること。

4. 応募方法
申請時の所属部局を通じて応募すること。
(1)申請書類
□岩手大学教員海外派遣事業申請書(別紙様式1)
※本事業の趣旨から、帰国後、岩手大学に1年以上在職することが期待されていることを理解したうえで署名すること。
□部局長の推薦書(別紙様式2)
※推薦者数が複数の場合は順位も付して連絡すること。
□航空賃等の見積書
※内訳記載があるもの。家族で行く場合は申請者分のみのもの。
(2)提出期限は別途定める。

5. 選 考
(1)本事業の目的に照らし、国際連携室による審査のうえ、国際戦略推進員会において決定する。
(2)審査結果については推薦のあった部局長に対して通知する。

6. その他
(1)採択された教員は以下の義務が発生する。
①派遣期間中、毎月定期報告書(別紙様式3)を提出すること。
②派遣終了後、1ヵ月以内に、「帰国報告書(別紙様式4)」を提出すること。

③派遣終了後、1年以内に、事業報告会にて派遣概要及びその後の業務進捗状況の報告を行うこと。
④派遣終了後、1年経過後に「成果報告書（別紙様式5）」を提出すること。
⑤派遣終了後、大学及び学部等で企画する国際関連事業に積極的に協力すること。
（2）派遣修了後 1 年以内に自己都合退職した場合、当該事業にかかる費用について返還を求める場合がある。
（3）本事業による派遣に伴う所属部局における研究上・教育上・職務上の影響を最小限に留めるよう努力すること。

平成 30 年度　留学生関係行事

前期	4 月	5 日(木)	平成 30 年度前期　日本語研修コース及び交換留学プログラム　開講式
		5 日(木)	交換留学プログラム履修説明会、国際交流会館オリエンテーション
		6 日(金)	岩手大学入学式
		10 日(火)	日本語オリエンテーション、ライブラリーツアー、キャンパスツアー
		10 日(火)	留学生オリエンテーション
		11 日(水)	前期授業開始
		25 日(水)	グローバルヴィレッジの留学生歓迎パーティー
	5 月	19 日(土)	盛岡・つなぎ間ロードレース大会
	8 月	7 日(火)	平成 30 年度前期　日本語研修コース及び交換留学プログラム　修了式
		7 日(火)～9 月 28 日(金)	夏季休業
		11 日(土)	留学生と市民のｶﾞｰﾃﾞﾝﾊﾟｰﾃｨｰ～世界の屋台村～
	9 月	1 日(土)～5 日(水)	ヤングリーダーズ国際研修 2018in 陸前高田
		26 日(水)	留学生オリエンテーション
		27 日(木)	平成 30 年度後期　日本語研修コース及び交換留学プログラム　開講式
		27 日(木)	交換留学プログラム履修説明会、日本語オリエンテーション、キャンパスツアー、ライブラリーツアー
		28 日(金)	国際交流会館オリエンテーション
		28 日(金)	前期成績発表
後期	10 月	1 日(月)	後期授業開始
		27日(土)～28日(日)	大学祭
	11 月	10 日(土)	フィールドツアー in Tohoku(十和田湖、奥入瀬渓流、十和田市現代美術館)
		28 日(水)	フィールドスタディ in Iwate 工場見学(岩泉乳業、浄土ヶ浜)
	12 月	2 日(日)	外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 in クワラルンプール
		24日(月)～1月 6 日(日)	冬季休業
	1 月	17日(木)	留学生フィールドスタディ　スキー　in　八幡平
	2 月	15 日(金)	平成 30 年度後期　日本語研修コース及び交換留学プログラム　修了式

		18 日（月）	フィールドスタディ in Iwate 企業訪問(みちのくコカコーラボトリング㈱、リコーインダストリアルソリューションズ㈱)
		21 日(木)	第6回外国人留学生による"岩手のいいところ"写真展 インスタグラム留学生フォトコンテスト「わたしと岩手」表彰式
	3 月	9 日(土)	外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 in 上海
		22 日（金）	卒業式
		23 日（土）～31日（日）	春季休業
		29日（金）	後期成績発表

平成 30 年度海外学生受入・派遣実績

学部等	受入学生数	内訳	派遣学生数	内訳
人文社会科学部	9	韓:群山大学 1 露:サンクトペテルブルク国立文化大学 3 米:アラスカ大学アンカレッジ校 1 中:山東工芸美術学院 3 仏:ボルドー・モンテーニュ大学 1	12	米:テキサス大学オースティン校 1 韓:群山大学 1 韓:明知大学 3 中:寧波大学 1 仏:ボルドー・モンテーニュ大学 4 露:サンクトペテルブルク国立文化大学 2
教育学部	13	中:寧波大学 3 中:曲阜師範大学 3 中:西北大学 1 中:清華大学 1 米:ノースセントラルカレッジ 1 タイ:サイアム大学 2 タイ:パンヤピワット経営大学 1 イタリア:カラーラ・アカデミア 1	7	中:寧波大学 1 イタリア:カラーラ・アカデミア 1 米:ノースセントラルカレッジ 2 中:清華大学 1 中:西北大学 1 中:曲阜師範大学 1
理工学部	2	大連理工大学 2	1	タイ:キングモンクット工科大学ラドカバン校 1
農学部	1	中:上海海洋大学 1	1	中:上海海洋大学 1
総合科学研究科 総合文化学専攻	5	露:サンクトペテルブルク国立文化大学 1 仏:ボルドー・モンテーニュ大学 2 中:西北大学 2	0	0
教育学研究科	1	中:寧波大学 1	0	0
総合科学研究科 理工学専攻	9	台湾:高雄師範大学 2 タイ:キングモンクット工科大学ラドカバン校 1 モンゴル:人文大学	0	0

		2 モンゴル:モンンゴル国立大学 2 中:西北農林科技大学 2		
グローバル教育センター	3	米:テキサス大学オースティン校 3	0	0
合計	43		21	

岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧

平成 30 年度						
	派遣先	派遣日程	交流者数	派遣留学生数	出身地別人数	交流の内容
1	岩手県県土整備部空港課(岩手県空港利用促進協議会)	H30.4～H31.3 チャーター便に合わせて派遣	―	4	中国	出入国・関税審査を受ける際のサポート
2	岩手県県土整備部空港課(岩手県空港利用促進協議会)	4 月 11 日(水)	―	2	タイ	出入国・関税審査を受ける際のサポート
3	岩手県県土整備部空港課(岩手県空港利用促進協議会)	4 月 27 日(金)	―	3	中国(広東語を話せる者)	出入国・関税審査を受ける際のサポート
4	岩手県商工労働観光部産業経済交流課	4 月 18 日(水)	4	5	台湾	商談会(台湾)出展企業へのモニター
5	フレンズ国際愛児園	5 月 25 日(金)	29	1	トルクメニスタン	園児に自国文化の紹介や交流
6	岩手県商工労働観光部産業	6 月 7 日(木)	12	5	台湾	商談会(台湾)出展企

	経済交流課					業へのモニター
7	岩手県立盛岡第一高等学校	6 月 7 日（木）	279	8	ナイジェリア、中国、トルクメニスタン、ロシア、タイ、アメリカ	高校 3 年生の英語発表会への参加
8	NHK 盛岡放送局	6 月 6 日（水）	―	1	ロシア	サッカーロシアワールドカップの開催に伴うロシアの情報提供等
9	八幡平市横間自治公民館	7 月 14 日（土）～15 日（日）	約 150	10	中国	地域の伝統行事に参加
10	岩手県立盛岡第一高等学校	6 月 28 日（木）	279	7	ナイジェリア、中国、台湾、アメリカ、モンゴル	高校 3 年生の英語発表会への参加
11	岩手県立大学看護学部看護科	7 月 26 日（木）、27 日（金）、31 日（火）	1	6	ロシア、アメリカ、タイ、韓国、ベトナム、中国	県立大学生の卒業研究協力
12	岩手大学教育学部附属小学校	7 月 5 日（木）	102	8	ナイジェリア、アメリカ、中国、ロシア、モンゴル	小学 6 年生の英語活動で交流
13	フレンズ国際愛児園	7 月 10 日（火）	29	1	ロシア	園児に自国文化の紹介や交流

14	岩手県立不来方高等学校	7 月 21 日（土）	82	3	フランス	生徒のプレゼン発表準備と指導
15	盛岡地方農業農村振興協議会	8 月 9 日（木）～10 日（金）	―	10	中国、台湾、モンゴル	八幡平市での農業体験、民泊、アンケート回答、地元の方との意見交換会等
16	岩手県立盛岡商業高等学校	9 月 28 日（金）	7	7	中国、パキスタン、ベトナム、韓国、モンゴル、マレーシア	「地域創成プロジェクト」情報収集の協力
17	NPO 善隣館語学教室	8 月 4 日（土）、18 日（土）、				
25 日（土）	4	3	タンザニア、ナイジェリア、モンゴル	英語教室のゲストスピーカー		
18	岩手県立盛岡第一高等学校	7 月 31 日（火）	4	9	韓国、インドネシア、トルクメニスタン、フランス、アフガニスタン、ナイジェリア、モンゴル	海外の方から見た岩手の魅力・課題についての調査協力
19	盛岡国際課交流協会	8 月 21 日（火）	―	2	韓国、ロシア	インタビュー協力

20	岩手大学教育学部附属小学校	9 月 13 日（木）	102	5	ナイジェリア、中国、モンゴル、タイ	小学 6 年生の英語活動で交流
21	千葉昭一商店	9 月 28 日（金）	15	1	ベトナム	ベトナムの水回りの情報提供
22	フレンズ国際愛児園	9 月 18 日（火）	29	1	パキスタン	園児に自国文化の紹介や交流
23	侍浜町振興協議会	9 月 21 日（金）～22 日（土）	―	10	中国	久慈市侍浜町での農業体験、民泊、アンケート回答、地元の方との意見交換会等
24	NPO 善隣館語学教室	10 月～毎週火曜日・水曜日	4	1	フランス	フランス語クラスを担当
25	岩手県立水沢高等学校	11 月 20 日（火）	33	6	ナイジェリア、中国、モンゴル、マレーシア	理系高校生との相互研究発表会
26	岩手県すし業生活衛生同業組合	10 月 13 日、12 月 1 日	―	6	韓国、ロシア、フランス	外国人からの寿司、寿司屋等のイメージについての調査協力
27	盛岡誠桜高等学校	11 月 21 日（水）	7 クラス			
1 クラス 35～38 名	7	中国、フランス、インド	高校生へ自国文化			

			の紹介や交流			
28	岩手銀行法人戦略部工務・地域創生室					
外国人留学生モニターツアーin釜石大槌	11 月 17 日（土）～18 日（日）	―	4	韓国、タイ、フランス	釜石市・大槌町の情報発信、アンケート回答、地元の方との意見交換会等	
29	岩手大学男女共同参画推進室					
ぱるん Kids	12 月 26 日（水）	14	4	中国、フランス、インド	小学生へ自国文化の紹介や交流	
30	フレンズ国際愛児園	11 月 27 日（火）	29	1	インド	園児に自国文化の紹介や交流
31	フレンズ国際愛児園	12 月 15 日（土）	29	1	ロシア	クリスマスイベントに参加・交流
32	(株)岩手ホテル＆リゾート 安比スキー＆スノーボードスクール	冬季期間	―	7	中国	スキースクールでのレッスンアシスタントとして協力

33	縦糸横糸合同会社	12 月 1 日（土）、2 日（日）	―	3	ロシア、フランス、韓国	民俗芸能の鑑賞・体験と郷土料理や伝統工芸のワークショップへの参加
34	社会福祉法人　久昌寺会　久昌寺保育園	1 月 15 日（火）	48	5	中国、パキスタン、インド	保育園児へ自国文化紹介や交流
35	一般社団法人北上国際課交流協会	―	―	1	ベトナム	地域のごみの処理の仕方の翻訳作業協力
36	盛岡広域振興局経営企画産業振興室	2 月 5 日（火）	6	2	ナイジェリア、中国	岩手でのハラルフードの現状の調査協力
37	岩手県北自動車株式会社	2 月 2 日（土）	―	30	中国、ナイジェリア、バングラデシュ、フランス、タイ、モンゴル	いわて雪まつりのモニターツアーに参加し、岩手の冬季観光の魅力を発信
38	フレンズ国際愛児園	2 月 19 日（火）	28	1	フランス	園児に自国文化の紹介や交流
39	(有)イメージクラフト杜の風	2 月 27 日（水）	―	5	フランス、パキスタン、インドネシア、ナイジェリア、中国、アメリカ	自国の言葉の紹介（テレビ撮影）

40	盛岡広域振興局経営企画産業振興室	3 月 13 日（水）	15 人ほど	1	中国	岩手でのハラルフードの現状の調査のセミナー参加
			計	192		

岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型）

▶ 短期研修（研究型）【派遣】

プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	単位振替先	認定の種類	参加資格	定員	派遣実績 H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	担当教員（学部等）／問い合わせ先
明知大サマーキャンプ（韓国語研修）	[韓国] 明知大学校	8月上旬	3週間	あり	人文社会科学部専門科目	大学間	全学	4	4	4	5	2	0	1	0		宋本美千子（柴仁愛 人社）
海外英語研修	[アイルランド] デラサール大学	3月	3週間	あり	教養教育科目	研修覚書	全学	10			平25新規	4	10	10	10	9	尾中夏美（G教育センター）CIEE（国際教育交換協議会）
グローバル力養成コース（US-JAPAN FORUM）	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	2月	1週間	なし		なし	全学	数名			0	1	0	1	0	0	尾中夏美（G教育センター）US-JAPAN FORUM
グローバル力養成プログラム（US-JAPAN FORUM）	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	9月	4週間	あり	国際教育科目	なし	全学	数名			平25新規	1	5	1	1	0	尾中夏美（G教育センター）US-JAPAN FORUM
カリフォルニア イノベーション研修（US-JAPAN FORUM）	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	9月	9日～28週間	あり	教養教育科目	なし	全学	数名			平25新規	1	2	2	1	1	尾中夏美（G教育センター）US-JAPAN FORUM
シリコンバレー・アントレプレナー研修（US-JAPAN FORUM）	[アメリカ] カリフォルニア シリコンバレー	毎月	1ヶ月～3ヶ月・6ヶ月	なし		なし	全学	数名			平25新規	0	0	0	0	0	尾中夏美（G教育センター）US-JAPAN FORUM
国際研修－エネルギーと持続可能な社会	[アイスランド] アイスランド大学 ほか [スウェーデン] リンネ大学 ほか	9月	9日（事前・事後研修複数回）	あり	教養教育科目 国際教育科目	研修覚書	全学	12	震災影響で実施不可	8	12	8	7	9	8	8	ハガ エトムント、尾中夏美（G教育センター）
国際研修－貧困と持続可能な社会	[ケニア] ケンカルロス大学 NGO	9月	2週間（＋事前・事後研修複数回）	あり	教養教育科目 国際教育科目	研修覚書	全学	10				平27新規	4	5	4	5	平井華代、尾中夏美（G教育センター）
国際研修－デザインと持続可能な社会	[イタリア] カラーラ・アカデミー	2～3月	3週間（＋事前・事後研修複数回）	あり	教養教育科目 国際教育科目	研修覚書	全学	10				平27新規		3		10	尾中夏美（G教育センター）
国際研修－ビジネスと持続可能な社会	[台湾] 高雄師範大学	3月	13日間（＋事前・事後研修複数回）	あり	教養教育科目 国際教育科目	大学間	全学	10							5	8	尾中夏美（G教育センター）
国際研修－世界遺産と持続可能な社会	[インドネシア] アイルランガ大学	8～9月	2週間（＋事前・事後研修複数回）	あり	教養教育科目 国際教育科目	部局間	全学	10								6	ハガ エトムント、松岡洋子（G教育センター）
異文化理解研修	[タイ] ナイアム大学	2月	2週間	なし			全学	2			平25新規	2	1	0		0	ホールジェームズ（教育）
日韓学生の協働研修Ⅰ・Ⅱ（国内研修・海外研修）	[韓国] 釜山大学校・明知大学校	8月	9日（国内研修）9日Ⅱ	あり	人文社会科学部専門科目	部局間	人社	15	14	15	4	10	9	6	7	11	宋本美千子（人社）
課題解決型国際研修（ドイツ語）	[ドイツ] ドレスデン工科大学／ゲーテインスティトゥート	3月～7月	2週間	あり	人文社会科学部専門科目	部局間	人社	20			平25新規	17	15	21		14	川村和宏（人社）
課題解決型国際研修（中国語）	[中国] 曲阜師範大学、西北大学（H25）、東北大学（H29）、西北大学（H30）	3月	2週間	あり	人文社会科学部専門科目	部局間	人社	20			平25新規	10	12	9	5	11	倉田哲郎（人社）
課題解決型国際研修（英語）シンガポール	[シンガポール] カーティン大学（豪）シンガポール校	9月	2週間（＋国内研修）	あり	人文社会科学部専門科目	部局間	人社	15						0	18		小林愛子（人社）
課題解決型国際研修（英語）カナダ	[カナダ] オカナガン大学	3月頃	3週間	あり	教養教育科目 人文社会科学部専門科目	研修覚書	全学	20	16	18				7			斎藤博文（人社）
課題解決型国際研修（フランス語）	[フランス] 西部カトリック大学	2～3月 8～9月	3週（＋5週）	あり	人文社会科学部専門科目	研修覚書	人社	数名			平25新規	8	1	3	2	2	グラ アレクサンドル（人社）
日本語教育実習	[中国] 華東大学	3月頃	2週間	あり	教育学部専門科目	部局間	教育	10	8	4	6	6	9	13	7	7	菊地恵（教育）
英文学実地研修	[中国] 国語の教科書に出てくる場所など（華東大学）	9月頃または3月頃	10日	あり	教育学部専門科目	大学間	教育	5	8	10	2	0	0	3	9	2	藤巻裕（教育）
プアン・プログラム（英語教育実習）	[タイ] タイ国内中学校等・ナイアム大学の仲介	1月	2週間	あり	教育学部専門科目	大学間	教育	7	5	8	10	10	7	7	5	6	ホールジェームズ（教育）
プアン・プログラム（数学教育実習）	[タイ] パンナビブット経営大学附属中等学校	1月	2週間	あり	教育学部専門科目	大学間	教育	4							4	4	本田卓、中村好則、小川勝美、ホールジェームズ（教育）

理工学部国際研修	[カナダ] ブリティッシュ・コロンビア大学 等 [アメリカ] ドミニカン大学 ほか	8月末	4週間	あり	理工学部専門科目	研修実習	工学系・学科 院生	10	6	12	13	21	10	7	13	14	工学部国際研修実施委員会
ハンバット国立大学校間研修	[韓国] ハンバット大学校	10月末	5日間	なし		夏期間	工学院生	4			校費負担	11	10	11	11	10	学長室 研究高度化 グローバル化対応対策室
将来の農学 観国学を拓くグローバルリーダー養成プログラム 観国 オーバン大学	[アメリカ] オーバン大学	9月	2週間	あり	農学部専門科目	大学間	農学	3	1	2	3	2	2	3	2	3	古市直美 教
将来の農学 観国学を拓くグローバルリーダー養成プログラム サスカチュワン大学	[カナダ] サスカチュワン大学	9月	3週間	あり	農学部専門科目	大学間	農学	14			校費負担	7	14	14	14	13	吉崎亜由 教
海外の森林 林業とフォレスター研修プログラム	[ドイツ] ロッテンブルク大学	9月	10日	あり	農学部専門科目	夏期間	農学	10			校費負担	5	12	16	12	13	東浩 一郎 教
パデュー大学学生派遣プログラム	[アメリカ] パデュー大学 ※2013/2014年度は実施せず	8月末	1ヶ月	あり	農学部専門科目	夏期間	農学	3	3			0	0	受講終了	受講終了	受講終了	横尾カン 農学
海外インターンシップ	[東アジア地域・アジア各地域] 日系現地法人	8月末	2～4週間	あり	理工学部専門科目	なし	工学系・学科 院生	数名	0	1	0	0	2	0	0	6	工学部インターンシップ実施委員会
工学研究科 研究インターンシップ	[カナダ] サスカチュワン大学 ほか	8月末	2～4週間	あり	工学研究科共通科目	大学間	工学院生	数名			6	5	2	3	4	3	工学研究科教務委員会
日本語教育実習インターンシップ	[タイ] ナイアム大学	2～3月	2週間	なし		夏期間	全学	2			校費負担	2	2	0	2		ホールジェームズ 教
連合農学研究科 研究インターンシップ	[カナダ] サスカチュワン大学 ほか	8月末	2～4週間	あり	連合農学研究科専門科目	大学間	農学院生 連大院生	数名	3	1	1	5	3	3	7	4	連合大学院グループ
							計	230	68	83	92	138	139	158	151	170	

岩手大学留学生数(平成 30 年 5 月 1 日現在)

岩手大学留学生数(平成30年5月1日現在)

《種別》　　( )は女子で内数

【学部所属】

学 部	正規生 学部生 国費	正規生 学部生 政府	正規生 学部生 私費	小計	非正規生 研究生 国費	非正規生 研究生 政府	非正規生 研究生 県費	非正規生 研究生 私費	非正規生 特別聴講学生 私費	非正規生 科目等履修生 私費	非正規生 日本語・日本文化研修留学 国費	小計	合計
人文社会科学部		1 (1)	13 (4)	14 (5)				7 (3)	7 (6)			14 (9)	28 (14)
教育学部			2 (2)	2 (2)					11 (11)		1	12 (11)	14 (13)
理工学部		3 (1)	30 (3)	33 (4)					2 (1)			2 (1)	35 (5)
農学部			4 (1)	4 (1)				2 (1)	1 (1)			3 (2)	7 (3)
合計		4 (2)	49 (10)	53 (12)				9 (4)	21 (19)		1	31 (23)	84 (35)

【大学院所属】

大学院	正規生 国費	正規生 政府	正規生 私費	小計	非正規生 研究生 国費	非正規生 研究生 政府	非正規生 研究生 私費	非正規生 教員研修留学生 国費	非正規生 特別聴講学生 私費	非正規生 特別研究学生 私費	非正規生 科目等履修生 私費	小計	合計
人文社会科学研究科			1 (1)	1 (1)									1 (1)
教育学研究科								2 (1)				2 (1)	2 (1)
工学研究科(M)			6 (2)	6 (2)									6 (2)
工学研究科(D)	4		28 (13)	32 (13)									32 (13)
農学研究科(M)			3 (1)	3 (1)									3 (1)
総合科学研究科	1		28 (12)	29 (12)	3 (1)				12 (8)			15 (9)	44 (21)
連合農学研究科	11 (5)		28 (11)	39 (16)									39 (16)
合計	16 (5)		94 (40)	110 (45)	3 (1)			2 (1)	12 (8)			17 (10)	127 (55)

【グローバル教育センター所属】

ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育ｾﾝﾀｰ	国費 日本語研修留学生	国費 日本語・日本文化研修留学生	私費 特別聴講学生	合計
合 計	1	0	2	3

◆◆留学生総数◆◆

	国費	政府	県費	私費	合計
正規生	16 (5)	4 (2)		143 (50)	163 (57)
非正規生	7 (2)			44 (31)	51 (33)
合 計	23 (7)	4 (2)		187 (81)	214 (90)

連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学 8名 、他大学配属 31名 〉

	国費	政府	私費	合計
岩手大学	4 (2)		4 (3)	8 (5)
帯広畜産大学	2 (1)		6 (4)	8 (5)
弘前大学			12 (3)	12 (3)
山形大学	5 (2)		6 (1)	11 (3)
合 計	11 (5)		28 (11)	39 ###

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国費	政府	私費	合計
岐阜連獣	2		1	3

(国籍別:バングラデシュ 1、アフガニスタン 1、タイ 1)

〔連大他大学配属分を除いた留学生数〕

183 (79)

22ヶ国1地域　214 人

アジア 10ヶ国1地域192(81)人						欧州 4ヶ国10(7)人			中南米 1ヶ国1(0)人			アフリカ 6ヶ国7(1)人		
インドネシア	3	(2)	バングラデシュ	11	(3)	ドイツ	3	(1)	キューバ	1		ケニア	1	(1)
韓国	13	(4)	ベトナム	11	(5)	フランス	3	(3)				ナイジェリア	1	
スリランカ	2	(2)	マレーシア	7	(2)	ロシア	3	(2)				マラウィ	1	
タイ	10	(6)	モンゴル	17	(10)	トルクメニスタン	1	(1)	北米 1ヶ国4(1)人			エチオピア	2	
台湾	6	(4)	パキスタン	1					アメリカ	4	(1)	シエラレオネ	1	
中国	111	(43)										タンザニア	1	

岩手大学留学生数(平成 30 年 11 月 1 日現在)

岩手大学留学生数(平成30年11月1日現在)

《種別》　　( )は女子で内数

【学部所属】

学 部	正規生 学部生 国費	政府	私費	小計	非正規生 研究生 国費	政府	県費	私費	特別聴講学生 私費	科目等履修生 私費	日本語・日本文化研修留学生 国費	小計	合計
人文社会科学部		1 (1)	13 (4)	14 (5)				8 (5)	8 (7)			16 (12)	30 (17)
教育学部			2 (2)	2 (2)				2 (1)	13 (8)			15 (9)	17 (11)
理工学部		3 (1)	30 (3)	33 (4)				3	2			5	38 (4)
農学部			4 (1)	4 (1)				3 (1)	1 (1)			4 (2)	8 (3)
合計		4 (2)	49 (10)	53 (12)				16 (7)	24 (16)			40 (23)	93 (35)

【大学院所属】

大学院	正規生 国費	政府	私費	小計	非正規生 研究生 国費	政府	私費	教員研修留学生 国費	特別聴講学生 私費	特別研究学生 私費	科目等履修生 私費	小計	合計
教育学研究科								2 (1)	1 (1)			3 (2)	3 (2)
工学研究科(M)			1	1									1
工学研究科(D)	5		29 (14)	34 (14)									34 (14)
総合科学研究科	1		35 (16)	36 (16)	5 (1)		2 (2)		12 (7)	1 (1)		20 (11)	56 (27)
獣医学研究科			1	1									1
連合農学研究科	12 (6)		28 (12)	40 (18)									40 (18)
合計	18 (6)		94 (42)	112 (48)	5 (1)		2 (2)	2 (1)	13 (8)	1 (1)		23 (13)	135 (61)

【グローバル教育センター所属】

ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育ｾﾝﾀｰ	国費 日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	私費 特別聴講学生	合計
合 計			1 (1)	1 (1)

◆◆留学生総数◆◆

	国費	政府	県費	私費	合計
正規生	18 (6)	4 (2)		143 (52)	165 (60)
非正規生	7 (2)			57 (35)	64 (37)
合 計	25 (8)	4 (2)		200 (87)	**229 (97)**

連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学　8名　、他大学配属　32名　〉

	国費	政府	私費	合計
岩手大学	4 (3)		4 (2)	8 (5)
帯広畜産大学	2 (1)		6 (4)	8 (5)
弘前大学	1		10 (4)	11 (4)
山形大学	5 (2)		8 (2)	13 (4)
合 計	12 (6)		28 (12)	40 ###

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国費	政府	私費	合計
岐阜連獣	2		1	3

(国籍別:タイ 1、バングラデシュ 1、アフガニスタン 1)

〔連大他大学配属分を除いた留学生数〕

197 (84)

23ヶ国1地域　229 人

アジア 11ヶ国1地域205(87)人						欧州 5ヶ国13(8)人			中南米 1ヶ国1(0)人			アフリカ 5ヶ国7(1)人		
インドネシア	4	(2)	バングラデシュ	12	(3)	ドイツ	4	(2)	キューバ	1		ケニア	2	(1)
韓国	12	(3)	ベトナム	10	(5)	フランス	3	(3)				ナイジェリア	1	
スリランカ	2	(2)	マレーシア	7	(2)	ロシア	4	(3)				マラウィ	1	
タイ	10	(4)	モンゴル	20	(12)	ウズベキスタン	1		北米 1ヶ国3(1)人			エチオピア	2	
台湾	3	(3)	パキスタン	1		イタリア	1		アメリカ	3	(1)	シエラレオネ	1	
中国	123	(51)	インド	1										

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム　岩手大学の採用状況

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム　岩手大学の採択状況

平成26年度（第1期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
振興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	3名	0名	0名
計	9名	3名	2名

平成27年度前期（第2期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	2名	2名	1名
振興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	4名	2名	1名

平成27年度後期（第3期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	3名	3名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
計	5名	3名	1名

平成28年度前期（第4期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	0名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	0名

平成28年度後期（第5期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	5名	3名	2名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	5名	3名	2名

平成29年度前期（第6期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	1名	1名
計	2名	2名	2名

平成29年度後期（第7期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	3名	2名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
地域人材コース	5名	5名	5名
計	8名	7名	6名

平成30年度前期（第8期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	1名

平成30年度後期（第9期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	3名	2名	2名
地域人材コース	4名	3名	3名
計	11名	8名	7名